

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000101) 主題 Themes 名画を読む-美術史入門- Exploration of masterpieces- Introduction to history of art-	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q木1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 古草 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 イメージ, ビジュアル 歴史的な名画とされる西洋絵画を数点取り上げ, 具体的なイメージ(図像)としてある美術作品(絵画)を解釈する上で大切になるビジュアル的な特徴を論じる。名画を鑑賞することは私たちに多くの喜びを与えてくれるが, 名画といわれる絵画ほど, とっつきにくさもある。そんな絵画をじっくりと味わいながら, その魅力をひもといていく。			
授業の目的 今日, 個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることは, ますます重要になっている。企業や学校もイメージを利用しなければ, 製品を売ることや共同体をまとめたり人の心を引きつけたりすることも難しいであろう。美術史の知識や方法論を得ることは身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするために大いに役立つ。 ここで取り上げる絵画作品は, それぞれの時代背景に沿ったビジュアル的特徴をもっている。本授業の目的は, そのような特徴を把握しながら, これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに, 自らがビジュアル的特徴を発見できることやイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についても知識の習得を目指す。			
到達目標			
1. 名画のビジュアル的特徴を把握し説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 美術作品(絵画)のもつ歴史的意味や価値を説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎時間に提出するレポートによって判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 絵画を解釈する一方法について①:美術のもつ意味と価値 第2回 絵画を解釈する一方法について②:イメージを解釈する方法 第3回 カラヴァッジョの「果物籠」について①:自然模倣と観念表現 第4回 カラヴァッジョの「果物籠」について②:モチーフの意味 第5回 フラ・アンジェリコの「受胎告知」について①:図像学 第6回 フラ・アンジェリコの「受胎告知」について②:宗教画の役割 第7回 絵画に接する一方法について:美しいということ 第8回 まとめ(45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 対面授業とする。 ビジュアルを重視し, 美術作品の画像を鑑賞しながら, その魅力をひもとく解説を行う。また, 学生の提出したレポートにある質問等に可能な限り応えていく。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1回 時代, 様式を問わず, いろいろな美術作品を画集などによって鑑賞する。(4時間) 第2回 現代のいろいろなデザイン作品(主に広告などのビジュアルデザイン)を画集、デザイン雑誌などによって鑑賞する。(4時間) 第3回 バロック期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(5時間) 第4回 バロック前後期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(4時間) 第5回 初期ルネッサンス期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(5時間) 第6回 初期ルネッサンス前後期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(4時間) 第7, 8回 機会をつくり近隣の美術館に行き, いろいろな美術作品を鑑賞する。(4時間)			
教科書・参考書等 テーマごとにプリントを配付する。			

オフィスアワー 金曜日 昼休憩時間 古草研究室（幸町北2号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「美術表現の探求」-近世～現代（その１），美術表現の探求-名画を読む-（その１，その２）と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できない。

教員の実務経験との関連

高等学校美術科，専門学校等に非常勤講師及び特別講師として勤務。美術・芸術の授業を担当。高等学校等での実務経験をもとに美術史やビジュアルにおけるイメージの解釈について講義を行う。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Ex1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000102)	主題科目	1Q月5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
教養としての書道実技 Practical Skills in Calligraphy	授業形態 演習	単位数 1	
担当教員名 小西 憲一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義及び作品制作 90分×7回+45分×1回+自学自習(準備学習10時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】 手書き文字 書道は、人間の生み出した文字文化の粋である。この講義では、「手書き文字」をキーワードとして、書道について学んでいく。活字全盛の現代にあって、自分が書いた文字を見直し、問題点と改善の方法を探り試みる。さらに「教養としての書道」というテーマのもと、実技を中心に、書道の歴史や書体の変遷を概観する。また、毛筆を含む筆記具の歴史や、書作品の鑑賞方法などにも触れる予定である。 授業は毛筆の小筆を使用し、墨を磨るところから始める。			
授業の目的 教養としての書道に関する知識習得と、たとえば、自分の名前を楷書と行書で書き分けられることなど、場面に応じた「文字を書くこと」への意識を高める。特に写経を通じて、書道文化への理解と、短期間においても習熟によって手書き文字の変容が実感できることを目的とする。			
到達目標 1. 自分の文字を見直し、問題点と改善の方法を探ることができる。 2. 場面に応じて「文字を書くこと」を意識することができる。 3. 写経等を通じて、書道文化を理解し、自己の手書き文字の変容を実感できる。			
これらを通して、 a: 言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養う。			
成績評価の方法と基準 毎回の提出物(90%、その内写経が60%) + 最終レポート(10%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 書道の概説と実作を行う。特に実作の部分では、自学自習を求める。 書道の道具一式(小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど)が必要である。詳細はオリエンテーション時に説明する。 すべての授業を対面で行う予定である。			
(1) オリエンテーション (講義) 授業の概要、目的、到達目標、授業計画、必要な用具用材の説明			
(2) 硬筆 一鉛筆と筆ペンー (実習) 自分の文字を振り返る(平仮名) (講義) 鉛筆の持ち方、平仮名のポイント (実習) 筆ペンで書く			
(3) 小筆 一楷書と行書ー (実習) 自分の名前を楷書と行書で書き分ける(硬筆と毛筆) (講義) 毛筆の扱い方、楷書と行書のポイント			
(4) 小筆 一篆書と隸書ー (講義) 書体の変遷、篆書と隸書の書き方 (実習) 篆書と隸書で書く			
(5) 写経① (講義) 写経の歴史、現代的意義 (実習) 写経を書いてみる			
(6) 写経② (講義) 写経生の生活 (実習) 写経に慣れる			

(7) 写経③

(実習) 写経を仕上げる、自己の写経を鑑賞する

(8) まとめ

最終レポートをまとめる

自学自習のためのアドバイス

第2回 必要な用具用材の確認、入手、手入れを行う。

平仮名のポイントと自己の文字の問題点を知り、改善に向けて練習する。

第3回 自分の名前を、場面に合わせて楷書と行書で自信を持って書き分けられるように練習する。

第4回 書体の変遷を理解し、篆書と隷書の使用例を捜し鑑賞する。

第5-7回 写経について、用具の吟味と準備を行う。 自己の写経を顧みて、改善点を把握し練習する。また、最終レポートに向けて、書道に対する自己の考えを深めておく。

教科書・参考書等

毎時間プリント等を配布する。

書道の道具一式（小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど）が必要である。

オフィスアワー 木曜日 4時限目 北2号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎時間、書の実習を行う。したがって書道実技に関して意欲のある学生を求める。

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「教養としての文学と書道実技 その1」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目を単位取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

神奈川県立の高等学校に教諭として勤務。芸術科書道を担当。高等学校での実務経験をもとに書道実技について講義、及び実習を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000103)	主題科目	4Q木1	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
現代の美術表現 Modern Art Expression	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 吉川 暢子	関連授業科目 名画を読むー美術史入門ー		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】現代美術、アート、アートプロジェクト 現代の美術・芸術（現代アート）を私たちの身近にあるミュージックビデオなどの映像作品、写真作品、看板、商品等のデザインといった広範な領域から考察し、既成概念や固定観念を打破し、自分の思考や感情から新たな課題を見つけていくアート思考を身に付けることを目的に論じる。			
授業の目的			
今日、個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることはますます重要になって来ている。企業や学校もイメージを利用しなければ、製品を売ることも共同体をまとめることも人の心を引きつけることも難しいであろう。 現代の芸術作品の意味を理解することは、身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするアート思考獲得のために大いに役に立つ。 ここで取り上げる芸術作品は、それぞれの時代背景に沿ったヴィジュアル的特徴をもっている。本授業の目的は、そのような特徴を把握しながら、これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに、自らがヴィジュアル的特徴を発見できることやイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についての知識の習得も目指す。			
到達目標			
1. 現代美術・芸術作品の制作意図を把握し説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎時間のミニレポートと第8回のレポートを総合的に判断する。評価基準の目安は、ミニレポート70%, まとめでのレポート30%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 アートとは何か? マルセル・デュシャンの「泉」から 2 アートとは何か? 現代美術の意味 3 身の回りにあるものの芸術性 (ミュージックビデオから) 4 身の回りにあるものの芸術性 (映像) 5 身の回りにあるものの芸術性 (デザイン) 6 身の回りにあるものの芸術性 (写真) 7 生活の中にある芸術について 8 まとめ+レポート			
【授業及び学習の方法】 ヴィジュアルを重視し、美術・芸術作品の画像を鑑賞しながらその魅力をひもとく解説を行う。また、学生の提出したミニレポートについての質問等にてできる限り応えていく。			
【自学自習に関するアドバイス】 1～2回: 現代美術作品を画集等で鑑賞する。 2～6回: 身の回りにある芸術作品を探し、鑑賞する。 7回: 高松駅周辺などにあるアート作品を鑑賞する。			
教科書・参考書等			
テーマごとにプリントを配付する。			
オフィスアワー 木曜日 昼休憩時間 吉川研究室 (幸町北2号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
教室の収容人数の都合のため、初回に人数調整(抽選)を行う場合がある。 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「美術表現の探求ー近世～現代ー(その2)」と同じ内容であるため、平成30年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-LE1 授業科目名 (時間割コード: 000104) 主題 Themes SDGsをテーマとした問題解決学習 SDGs and Project Based Learning	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 神野 幸隆	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (事後学習 30時間)			
授業の概要			
【キーワード】SDGs、探究 (PBL)、統合的なアプローチ、アカデミックスキルの習得 SDGsに関係する社会問題の課題を設定して、統合的な解決アプローチを用いながら、問題解決的な探究活動を行います。最終的には、探究する課題に対して、ICTを用いたプレゼンテーションを実施します。また、学部を越えた横断的・統合的な視点をを用いつつ、他者と協働して探究する過程を通じてアカデミックスキルの習得、さらには自己のメタ認知 (キャリア形成)につなげていきます。			
授業の目的			
現代社会の持続可能性が問われている社会問題 (SDGs) について、統合的な解決アプローチを用いた探究活動を通じて、課題設定力、情報収集や整理・分析力、問題解決力、多面的な視点およびプレゼンテーション力などの基礎的なアカデミックスキルの習得を目指します。			
到達目標			
1. 現代社会の持続可能性が問われている社会問題 (SDGs) に関して、自己の興味・関心と関連づけた探究テーマの設定を行い、統合的な解決アプローチを用いた探究活動ができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 多面的・多角的な解決アプローチについて理解し、対立する価値やテーマに関する概念的知識について説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 探究の過程および課題解決方法について、10 分間程度のプレゼンテーションを作成することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応))			
成績評価の方法と基準			
レポート (50%) および最終プレゼンテーション (50%)。最終プレゼンテーションは受講者同士で相互評価を実施して、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イントロダクション: 問いの立て方、探究テーマの探し方とテーマの設定 第2週 探究活動①: 問いの精選、探究方法、先行研究、メディア特性 第3週 探究活動②: 統合的な解決アプローチ、外部連携 第4週 探究活動③: ネット検索、フィールドワークなどの探究手法 第5週 中間発表: 少人数での討議と交流 第6週 探究活動④: 中間発表を受けての修正および再追究 第7週 探究活動⑤: プレゼンテーションソフトの効果的な方法 第8週 最終プレゼンの発表およびレポートのフォーマットについて (45分間・対面)			
※受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。 ※毎講義ノートパソコン持参です。			
【授業および学習の方法】 第1週: 設定した課題と自身との関わりの中から「問い(RQ)」を設定します。 第2週～第4週: 授業の前半は資料に基づいて講義を行います。後半は個人の探究を進めていきます。 第5週: 中間発表会を実施して、受講者相互で討議や意見交流、アドバイスをします。 第6週: 授業の前半は資料に基づいて講義を行います。プレゼンテーションソフトの基本・基本および効果的なプレゼンについて学びます。 第7週: 授業の前半は資料に基づいて講義を行います。 第8週: 最終プレゼンを行います。(受講人数によって少人数班ごとになる場合も有ります。)			
※全てを対面形式で実施します。一部でグルーブ討議が入ります。なおコロナ感染状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1週: 個人での探究活動 第2週: 個人での探究活動 第3週: 個人での探究活動 第4週: 中間発表に向けたプレゼンの準備			

第5週：個人での探究活動

第6週：個人での探究活動

第7週：最終プレゼンおよびレポートの準備

毎回の授業後には個人での探究活動が必要となります。第7週の授業後は第8週でのプレゼンテーションおよび提出期限までのレポート提出に向け、準備を進めます。

教科書・参考書等

指定教科書はありません。

参考書として、蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』（中央公論新社，2020年）1012円

南博『SDGs 危機の時代の羅針盤』（岩波書店，2020年）902円 を推奨します。

オフィスアワー 火・水曜日9時～12時および金曜日の12時～13時。研究室 北キャンパス8号館6階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受動的に「教わる」のではなく、主体的に「学び」、自ら「探究」することを楽しみながら、アカデミックスキルの習得を目指していきます。授業以外に各個人で設定したテーマに関して個人探究活動が必要となります。授業中の私語、不要不急なスマホ操作は禁止します。

教員の実務経験との関連

学校現場での教職経験をふまえつつ、受講者の問題解決におけるファシリテーター役を務めます。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000105) 主題 Themes 学習環境の現在と未来 Learning environment	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 笹屋 孝允	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分間×8回+自学自習(準備事後合計15時間)			
授業の概要 現在・未来の学習環境の1つとなる、授業動画コンテンツを作成します。小中学校の教師になりきって、授業を行う数分間の動画を、グループで協働しながら作成、編集します。 【キーワード】 学習環境, ICT教育			
授業の目的 現在, 教育のICT化が急速な勢いで進められています。一方, ICTのメリットを生かした, 個別具体化の教育の必要性も叫ばれています。この授業では, 授業動画の作成, 編集を通して, ICTスキルだけでなく, 教師としての授業スキルも習得することを目的にしています。			
到達目標			
・小中学校の教師としての授業スキルを習得する ・動画作成, 編集を通して, ICT スキルを習得する (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・動画作成, 編集を通して, グループで協働する態度を身につける (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・今後の学校教育に関する展望を持つことができる			
成績評価の方法と基準 ・最終報告の課題 (50%) ・最終レポート (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1)オリエンテーション (2)授業の組み方と動画編集方法の講義 (3)グループワーク① (4)グループワーク② (5)中間報告会 (6)グループワーク③ (7)グループワーク④ (8)最終報告会 【授業及び学習の方法】 ・グループワークが主体の授業です。 ・原則対面で行います。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・授業動画作成及び, その準備が事前, 事後学習となります (各回2時間×8回)。 ・個々で課題が異なることが予想されるため, 内容は授業中に適宜指示します。			
教科書・参考書等 教科書等は特にありません。必要な資料は授業中に提示します。 ノートパソコン必携です。スマートフォン等も所持していれば活用します。			
オフィスアワー 月曜4コマ			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ グループワークが主体のため, メンバーと協力しながら授業に参加できることが受講条件です。授業時間外にもグループワークを行う必要があることを理解した上で受講してください。			
教員の実務経験との関連 小学校での勤務経験があります。その経験を基に, 教師として授業を行う時の注意点や, ICT活用法のポイントを紹介します。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000106) 主題 Themes 特別支援教育とは 誰一人取り残さない社会のためにー What is special needs education?	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 1Q金1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 坂井 聡, 山本 木ノ実	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分 × 8回 + 自学自習 30時間			
授業の概要 持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。このなかで、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現が目指されています。17項目ありますが、その4番目が教育です。本授業では、日本で取り組むべき課題として特別支援教育を取り上げ、障害をどのように考えていけばよいのかについて、共に考えていきたいと思います。 キーワード 特別支援教育 ICF 障害観			
授業の目的 SDGsの実現のためには、特別支援教育は必要です。誰一人取り残さない社会の実現を目指すために、社会を形成する学生として、社会へ出たときの社会人として、寛容な社会を作るための考え方を共有することができるように議論するのが本授業の目的です。			
到達目標 ICF (国際生活機能分類) による社会モデルとしての障害観を説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 寛容な社会を作るために自分が何ができるのかを具体的に検討し、解決策を考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 障害とは何かを社会モデルで説明し、香川大学学生としての行動を考えることができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回授業で実施するミニレポート50% 4回目と8回目に実施するレポート50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 ICIDHからICFへ (障害とは何か) 第3回 発達障害を考える 第4回 ICTを活用した支援 第5回 安心できる環境づくり①: 認知特性の視点から 第6回 安心できる環境づくり②: 行動特性の視点から 第7回 安心できる環境づくり③: 社会性・対人関係の視点から 第8回 今、自分たちにできること 【授業及び学習の方法】 授業は、教科書と資料をもとに進めます。レポートを書くことができるように事前に関連する書物を読んでおくことを勧めます。 【自学自習のためのアドバイス】 参考図書と関連する文献等も参考にして、講義に臨むことが大切です			
教科書・参考書等 知的障害や発達障害のある人との コミュニケーションのトリセツ 坂井聡 エンパワメント研究所 2020/12 1980円 (参考書) コミュニケーションのための10のコツ 坂井聡 エンパワメント研究所 1650円			
オフィスアワー 坂井 金曜日第2校時(10:30～12:00) 山本 金曜日第2校時(10:30～12:00)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 差別につながる討議、またレポートになることがないように、その内容について十分に検討すること。 特別な配慮が必要な学生は、遠慮することなく申し出ること			
教員の実務経験との関連 坂井 特別支援学校での勤務経験のある実践的な研究者です。ICTを用いた支援を研究しており、富士通やソフトバンクとの共同研究をしています。障害を社会モデルで考えそれを実践する方法を考えています。現			

在、教育学部附属坂出小学校校長、附属幼稚園園長、香川大学アリアフリー支援室の室長を併任しています。言語聴覚士 公認心理師

山本 公立小学校での教員経験、県相談機関での発達障害等に関する相談経験があります。当事者やその保護者、教員等との関わりをもとに、安心して過ごせる環境づくりについて講義やグループ討議を行います。特別支援教育士S. V. 公認心理師

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lb1 授業科目名 (時間割コード: 000107) 主題 Themes 教養としての中国古代帝王伝説 Moral from the legends of early Chinese monarchs	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q金2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 ブレンディッドラーニング	単位数 1	
	担当教員名 古橋 紀宏		
	関連授業科目 文学C 中国古典学講読I		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 20時間 + 事後学習 10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 古典の知恵、中国、書経 この授業では、中国最古の古典の一つ『書経』に記された古代の帝王の事績を読み解くことによって、その中から現代社会の諸問題を解決するための知恵を汲み取っていきます。			
授業の目的			
『書経』には、先人が残した様々な教訓が蓄積されており、それは、過去から現代へのメッセージと捉えることができます。その中には今日ではもちろん批判すべきものもありますが、一方で現代社会の諸問題を解決するための示唆を与えてくれるものもあります。この授業では、『書経』を正確に読解することにより、それらの示唆を見出し、現代の問題の解決に生かしていくことができるようになることを目的とします。			
到達目標			
1. 教科書や授業の解説を参考にして、『書経』本文の意味を正確に理解し、論述することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 『書経』で説かれている倫理観を正確に読み取り、身近な例に当てはめて説明することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 『書経』に記されている内容を、現代社会に当てはめ、問題の解決に生かす方法を提示することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各回の提出課題・授業におけるコメント 60% レポート 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション、禅譲の時代 第2回 夏王朝 第3回 殷王朝 第4回 殷の中興と滅亡 第5回 周の武王 第6回 周公旦 第7回 周王朝 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回から第7回までは、教科書を参照しつつ、毎回『書経』の一部について解説を行います。それをもとに、指定された日時までに教科書の該当部分を熟読し、『書経』から学ぶべきことをまとめる課題を出します。次の回では、提出された意見の中からいくつかを取り上げ、考察と補足をします。クォーター末には、総括的なレポートの課題を出します。 この科目は全回対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回の準備学習は特に必要ありません。第2回以降は、準備学習として、教科書の該当部分を熟読し、上記の課題を提出してください。また、事後学習として、クォーター末に提出するレポートの準備を進めてください。			
教科書・参考書等			
教科書: 野村茂夫著『書経』(新装版 中国古典新書) 明德出版社、2012年、本体価格2500円			
オフィスアワー 木曜日18:00から18:30 北8号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業では漢文の読解を行いますので、高等学校の漢文の学習内容について、必要に応じて復習しておいてください。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000132) 主題 Themes 企業統治と法 A Corporate Governance and Law A	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 3Q金1 提供部局: 大教センター DPコード: cbx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 前原 信夫	関連授業科目 企業統治と法B 履修推奨科目 企業統治と法B		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【授業のキーワード】 株式会社 私たちの日常生活は日々の経済活動に支えられている。そのため、好むと好まざるとにかかわらず、企業と無縁の社会生活を送ることはできない。この科目では、わが国の経済活動において重要な役割を果たしている企業のなかでも、特に法人企業である株式会社の制度とそれを取り巻く法律上の問題について考える。			
授業の目的 現代の株式会社の仕組みとその機能を法的な視点から考察するとともに、関係する法律の条文や裁判所の判決等を交えながら、法律上の問題について知り、多少なりとも自分の頭で「考える」ことができるようになる。			
到達目標 (1) 現代の株式会社の基本的な仕組みとその機能を理解し、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 株式会社に関する法制度を念頭に置きながら、それを取り巻く問題を法的な視点からの確に捉えることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 期末試験(100点)により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イントロダクション: 法とは? 第2回 企業・会社とは? 第3回 会社の権利能力 第4回 株式会社の特徴 第5回 株式という制度について 第6回 株式会社における株主の役割① 第7回 株式会社における株主の役割② 第8回 まとめ(45分間) + 期末試験(45分間) ただし、上記の授業計画は受講生の数または授業の進捗状況その他の事情により変更することがある。 【授業及び学習の方法】 講義形式(口頭による説明と板書)で進めるが、授業中に受講生に質問したり、意見を求めたりすることがある。 この科目は全回対面授業を行う。 【自学自習のためのアドバイス】 普段から日本経済新聞等の日刊新聞紙の講読を通してわが国におけるタイムリーな経済活動にアンテナを張っておくことが、本講義の理解に役立つものと思われる。			
教科書・参考書等 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。			
オフィスアワー 水曜日17時-18時/法学部棟(幸町南6号館)5階研究室。これ以外の時間帯を希望する場合は、下記メールアドレス宛てに事前に連絡すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この科目の内容は、平成30年度以前に開講された「会社の仕組みと機能 その1」と内容が重複するため、平成30年度以前に当該科目の単位を修得した学生は、この科目を履修することができない。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000133) 主題 Themes 企業統治と法 B Corporate Governance and Law B	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 4Q金1 提供部局: 大教センター DPコード: cbx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 前原 信夫	関連授業科目 企業統治と法A 履修推奨科目 企業統治と法A		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【授業のキーワード】 株式会社 私たちの日常生活は日々の経済活動に支えられている。そのため、好むと好まざるとにかかわらず、企業と無縁の社会生活を送ることはできない。この科目では、わが国の経済活動において重要な役割を果たしている企業のなかでも、特に法人企業である株式会社の制度とそれを取り巻く法律上の問題について考える。			
授業の目的 現代の株式会社の仕組みとその機能を法的な視点から考察するとともに、関係する法律の条文や裁判所の判決等を交えながら、法律上の問題について知り、多少なりとも自分の頭で「考える」ことができるようになる。			
到達目標 (1) 現代の株式会社の基本的な仕組みとその機能を理解し、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 株式会社に関する法制度を念頭に置きながら、それを取り巻く問題を法的な視点からの確に捉えることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 期末試験(100点)により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イントロダクション: コーポレート・ガバナンスとは? 第2回 取締役はどのような存在か? 第3回 取締役の報酬の決め方 第4回 取締役の義務 第5回 取締役の責任 第6回 会社が資金を集める方法① 第7回 会社が資金を集める方法② 第8回 まとめ(45分間) + 期末試験(45分間) ただし、上記の授業計画は受講生の数または授業の進捗状況その他の事情により変更することがある。			
【授業及び学習の方法】 講義形式(口頭による説明と板書)で進めるが、授業中に受講生に質問したり、意見を求めたりすることがある。 この科目は全回対面授業を行う。			
【自学自習のためのアドバイス】 普段から日本経済新聞等の日刊新聞紙の講読を通してわが国におけるタイムリーな経済活動にアンテナを張っておくことが、本講義の理解に役立つものと思われる。			
教科書・参考書等 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。			
オフィスアワー 水曜日17時-18時/法学部棟(幸町南6号館)5階研究室。これ以外の時間帯を希望する場合は、下記メールアドレス宛てに事前に連絡すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この科目の内容は、平成30年度以前に開講された「会社の仕組みと機能 その2」と内容が重複するため、平成30年度以前に当該科目の単位を修得した学生は、この科目を履修することができない。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000135)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題 Themes やさしい法学入門 Introduction to Japanese Law	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 溝渕 彰	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 【原則】授業90分×7回+授業45分×1回+「自学自習」(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】法律、六法、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法 本講義は、法学部以外の学生の皆さんを対象に法律の基礎・基本についてわかりやすい説明を行います。難しい話はできるだけ避けて身近な事案を例に挙げながら、法律について学んでいきます。わが国では多くの法律が制定されていますが、基本となる法律である六法について説明を行います。			
授業の目的 法律を学ぶことは市民が生活を営む上で必要不可欠なことです。この講義は、そのような法律について学ぶ機会を与えることに意義があると考えます。本講義は、講義で学んだ知識を基にして、現実直面する法律問題について実際に解決する能力を養うことを目的としています。			
到達目標 1. 21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養うための基礎となる法律の基本的知識を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 身近な事案を例に挙げて、法律について説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 小テスト又はレポート課題〔諸般の状況を考慮していずれかに決定します〕 20点 2. 学期末(対面)試験〔新型コロナウイルス感染拡大防止等を考慮し、オンラインでの試験又はレポート課題に変更する可能性もあります。〕 80点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
〈授業計画〉 第1回 ガイダンス・憲法の基本・人権 第2回 憲法の基本・人権 第3回 憲法の基本・統治 第4回 民法の基本・契約の基礎、意思表示と錯誤 第5回 民法の基本・不動産に関する法律問題 第5回 商法・会社法の基本 第6回 刑法の基本 第7回 刑事訴訟法・民事訴訟法の基本 第8回 まとめ(授業45分)+対面試験(45分) 〈授業及び学習の方法〉 基本: 対面による講義形式で進めます(ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止を勘案して、オンライン形式による講義に変更する場合があります)。 【自学自習のアドバイス】 準備学習として、教科書の指定された箇所をざっと読んでおいて下さい。事後学習として、講義で指定された教科書の箇所をもう一度読み返しておいて下さい。なお、授業計画は、変更される可能性があります。			
教科書・参考書等 教科書: 品川皓亮著／佐久間毅監修『日本一やさしい法律の教科書』(日本実業出版社、2011年)			
オフィスアワー 火曜日12:00-13:00 研究室は、南6号館4階にあります。事前にメールを頂けるとスムーズに面会できます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配布資料は、香川大学Moodleにアップします。事前に目を通して来て下さい。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000136) 主題 Themes 落語に学ぶ民法入門 Learning Japanese Civil Code from "Rakugo"	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 溝渕 彰	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 【原則】授業90分×7回+授業45分×1回+「自学自習」(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 民法、総則、物権、担保物権、債権、親族、相続 本講義は、法学部以外の学生の皆さんを対象に民法の基礎・基本についてわかり易い講義を行います。民法は、契約を締結する場面、交通事故の場面、結婚する場面、相続の場面等で適用される法律です。落語という「柔らかい」話題を素材にしながら、内容の「固い」法律について学んでいきます。			
授業の目的 本講義は、社会生活を営む上で必要不可欠な民法に関する法律知識を習得することを目的としています。2022年4月1日以降は民法では成人年齢が18歳になるので、多くの学生の皆さんが成人として法律上の責任を負わなければなりません。思わぬところで被害にあわないためにも、学生の皆さんが遭遇すると思われる民法上の法律問題を解決することを目的としています。			
到達目標 1. 21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養うための基礎となる民法の基本的知識を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 身近な落語を話題として出しながら、民法の基本的な概念について説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1. 小テスト又はレポート課題〔諸般の状況を考慮していずれかに決定します〕 20点 2. 学期末(対面)試験〔新型コロナ感染拡大防止等を考慮し、オンラインでの試験又はレポート課題に変更する可能性もあります。〕 80点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 〈授業計画〉 第1回 ガイダンス・民法総則①錯誤と詐欺 第2回 民法総則② 代理と消滅時効 第3回 物権① 即時取得と遺失物 第4回 物権② 抵当権 第5回 債権① 人的担保と不動産賃貸借 第5回 債権② 事務管理と不法行為 第6回 親族 不貞行為と離婚 第7回 相続 遺産分割と遺言 第8回 まとめと期末テスト 〈授業及び学習の方法〉 基本: 対面による講義形式で進めます(ただし、新型コロナ感染拡大防止を勘案して、オンライン形式による講義に変更する場合があります)。 【自学自習のアドバイス】 準備学習として、教科書の指定された箇所をざっと読んでおいて下さい。事後学習として、講義で指定された教科書の箇所をもう一度読み返しておいて下さい。なお、授業計画は、変更される可能性があります。			
教科書・参考書等 教科書: 森章太『落語でわかる「民法」入門』(日本実業出版社、2021年)			
オフィスアワー 水曜日10:30-11:30 研究室は、南6号館4階にあります。事前にメールを頂けるとスムーズに面会できます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配布資料は、香川大学Moodleにアップします。事前に目を通して来て下さい。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000108) 主題 Themes アメリカ「帝国」とグローバリゼーション American "Empire" and Globalization	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q火2 提供部局: 大教センター DPコード: cbd 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 石井 一也	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 2001年9月11日に発生した同時多発テロは、冷戦終結後の国際社会に計り知れない衝撃を与えた。この事件以後、アメリカ合衆国は、アフガニスタン、イラクへと侵攻し、常に「敵」を作り出すことによって自国の「安全保障」を守ろうとする政策を続けているかにみえる。世界に君臨するその姿は、まさに「帝国」と呼ばれるに相応しい。 合衆国や中東地域で実行された無数のテロ行為は、主としてイスラム過激派によるものとされるが、それは、一つには資本主義と社会主義の対立軸が消えた時代にあって、アメリカ的価値を内実として進行するグローバリゼーションに対する異議申し立てとして見ることができる。また合衆国の外交・軍事政策は、そうしたグローバリゼーションから経済的利益を得るための障害物を次々と排除してゆく行為であるとする見方もある。 そこで本講義では、イスラム過激派が深く関与しているとされるテロリズム、これに対する合衆国の報復的対応に焦点を当て、それらの意味をグローバリゼーションの文脈の中で考察することとする。			
授業の目的 以下に示す到達目標を念頭におきつつ、現存のグローバル社会の様態とそれを支える原理を理解し、より望ましい社会のあり方を模索する洞察力を養うことが本講義の狙いである。			
到達目標 ①冷戦期および冷戦以降のテロリズムの歴史の中で、同時多発テロとこれに対する合衆国の報復的、抑圧的軍事行動の流れを理解できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ②イスラム原理主義の思考様式を理解できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ③合衆国の外交政策を支える抑止の論理と、グローバリゼーションの名の下に流布してゆくアメリカ的価値を理解できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ④国際社会の秩序を形成する上で「非暴力」思想の可能性と限界を考えられる(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト[受講者数に応じてレポートに代替する場合があります](30点)、学期末筆記試験(70点)。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は基本的に口述によるが、しばしばインターネットなどを利用した資料収集の作業を課すことがある。 (1) はじめに: 講義の概要 (2) テロリズムとアメリカ合衆国の報復攻撃: 同時多発テロとアフガニスタン侵攻 (3) 「帝国」としてのアメリカ合衆国: イラク戦争、対北朝鮮政策 (4) イスラム原理主義とイスラム過激派 (5) アメリカ合衆国の中東政策 (6) 「帝国」を支える人々の思考様式: 抑止の論理 (7) グローバリゼーションの論理 (8) おわりに: 国際社会における「非暴力」思想の可能性と限界 学習の方法 授業は、対面で行ないます。 自学自習に関するアドバイス 授業中に取り上げられた事柄を敷衍して、自主的に文献検索を行い、研究を深めてゆくことが求められます。			
教科書・参考書等 特に指定しない。 チャルマーズ・ジョンソン『アメリカ帝国への報復』(鈴木主税訳)、集英社、2000年。 藤原帰一『デモクラシーの帝国—アメリカ・戦争・現代社会—』、岩波書店、2002年。 本山美彦『民営化される戦争』、ナカニシヤ出版、2004年。			
オフィスアワー 水曜 10:30-11:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ アメリカを中心として推進されるグローバリゼーションの様態を自らの生活と関連づけて理解してゆくことが期待される。本授業の内容は、2017年度開講の「アメリカ「帝国」とグローバリゼーション その1、その2」と内容が重複するため、2017年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できない。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000109) 主題 Themes 戦後の日本経済－戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで Japanese Economy after WW II: Japan's Prosperity in 20th Century	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目 戦後の日本経済－バブル発生から平成の終わりまで		
	履修推奨科目 戦後の日本経済－バブル発生から平成の終わりまで		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習(事前学修9時間+事後学習21時間)			
授業の概要 【キーワード】経済成長 日本経済の現状を理解するためには、そこへ至った歴史・変遷を知ることが重要である。戦後の日本経済はなぜに高い経済成長を成し遂げたのか、戦後における国際関係、とくに日米関係は、戦後経済にどのように作用したのか学修する。			
授業の目的 本講義は、戦後日本経済の発展とその変遷について、産業・政府の役割・国際関係など複合的な視点から把握することを目的とし、上述の疑問に対する回答を、学生諸君が、自ら説明できるようになることを目標とする。			
到達目標 1. 戦後の日本経済が高度成長を成し遂げた理由を説明できる。(共通教育スタンダード b: 広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 21 世紀社会の諸課題に対する探求能力に対応。) 2. 日本経済が石油危機の影響を軽微に乗り越えた経緯を説明できる。(共通教育スタンダード b: 広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 21 世紀社会の諸課題に対する探求能力 d: 市民としての責任感と倫理観に対応。) 3. 東欧・ソ連の崩壊が日本経済に与えた影響を説明できる。(共通教育スタンダード b: 広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 21 世紀社会の諸課題に対する探求能力 d: 市民としての責任感と倫理観に対応。)			
成績評価の方法と基準 講義毎に課すレポート (20点) グループワーク参加 (20点) 試験 (小テストを含む) (60点) 以上の合計100点満点に基づき、学則にしたがった成績を付ける。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業及び学習の方法】 レクチャーによる口述筆記とグループワークによる。 (1) イントロダクション (2) 日本経済は今 (3) 敗戦からの復興 (4) 飛躍的な高度成長 (5) ニクソンショックとオイルショック (6) スタグフレーションの時代 (7) 経済大国と経済成長のコスト (8) 東欧・ソ連の崩壊と日本経済 この科目は基本的に対面授業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては授業形態の一部または全部を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 講義毎にレポートを課すので、授業 (レクチャーとグループワーク) を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取り纏めて提出すること。			
教科書・参考書等 教科書: 指定しない。適宜、講義プリントを配布する。			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ レクチャー中は静粛に。私語についての注意を受けた者は、注意1回につき最終成績から10点減点する。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000110)	主題科目	3Q金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
戦後の日本経済ーバブル発生から平成の終わりまで Japanese Economy after WW II: Japan's Sluggishness in 21st Century	分野 主題	DPコード: cbd	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目 戦後の日本経済ー戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで		
	履修推奨科目 戦後の日本経済ー戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習(事前学修9時間+事後学習21時間)			
授業の概要			
【キーワード】経済成長 日本経済の現状を理解するためには、そこへ至った歴史・変遷を知ることが重要である。日本経済が、1990年代以降に、なぜ「失われた20年」と呼ばれるほど、低成長（マイナス成長）に落ち込み低迷したのか。再生のための政府による政策（規制や財政）はどうあるべきか学修する。			
授業の目的			
本講義は、戦後日本経済の発展とその変遷について、産業・政府の役割・国際関係など複合的な視点から把握することを目的とし、上述の疑問に対する回答を、学生諸君が、自ら説明できるようになることを目標とする。			
到達目標			
1. バブル経済の発生と崩壊の過程について説明できる。（共通教育スタンダード b: 広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 21世紀社会の諸課題に対する探求能力 d: 市民としての責任感と倫理観に対応。） 2. 「失われた20年」からの脱出の方策について提案できる。（共通教育スタンダード b: 広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 21世紀社会の諸課題に対する探求能力 d: 市民としての責任感と倫理観に対応。）			
成績評価の方法と基準			
講義毎に課すレポート（20点） グループワーク参加（20点） 試験（小テストを含む）（60点） 以上の合計100点満点に基づき、学則にしたがった成績を付ける。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】			
レクチャーによる口述筆記とグループワークによる。			
(1) イントロダクション (2) 経済成長のコスト (3) バブルの発生 (4) バブルの崩壊 (5) 「失われた20年」とは何か (6) 負の遺産を乗り越える (7) 日本経済を支える新たな需要 (8) まとめ			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては授業形態の一部または全部を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】			
講義毎にレポートを課すので、授業（レクチャーとグループワーク）を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取り纏めて提出すること。			
教科書・参考書等			
教科書: 指定しない。適宜、講義プリントを配布する。			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
レクチャー中は静粛に。私語についての注意を受けた者は、注意1回につき最終成績から10点減点する。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000111) 主題 Themes 企業と社会の関係A Business and society A	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 働き方、仕事、企業活動、技術の進展、社会環境の変化 社会環境の変化や技術の進展に伴い、個々の人々の働き方や仕事の内容は変化しつつあり、今後、さらに大きく変化する可能性があります。この授業では、「働く」ということをテーマとして取り上げ、変化の影響要因となる事象や企業の具体的な取り組みについても解説しながら、これからの時代の働き方や企業のマネジメントのあり方について探求していきます。			
授業の目的 「働く」ことを取り巻く様々な要因やその変化について理解を深めるとともに、これからの時代の働き方や仕事、および、企業のマネジメントあり方について、学生自身が自己の問題意識と関連づけて探究することを授業の目的とします。			
到達目標 1. 働き方や仕事に関わる諸課題を自己の問題意識と関連づけて探求することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. さまざまな働き方について、その特徴を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 今後の働き方の変化について、自分の考えをわかりやすく表現することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 講義毎に課すミニレポート (20%)、グループワーク・プレゼン (30%)、テスト (50%) により総合的に評価します。受講者数が30名以下の場合は、テストは実施せず、期末レポートを実施します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 インTRODakション 第2週 働き方の多様化 第3週 要因①ICT化の進展 第4週 要因②ダイバーシティ 第5週 要因③ライフイベント 第6週 グループワーク 第7週 プレゼンテーション 第8週 まとめ (45分間) + 期末試験 *この科目は基本的に対面で授業を行います。 *受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。			
【授業および学習の方法】 この授業では、「働く」ということをテーマとして取り上げ、これからの時代の働き方や企業のあり方についてさまざまな角度から検討します。 第2週～第5週: 授業の前半は資料に基づいて解説を行います。後半はグループに分かれて討議を行います。 第6週: グループ別に選択したテーマについての検討を行い、プレゼンの準備を行います。 第7週: 第6週の討議結果に基づいてパワーポイントを用いてプレゼンを行います。他グループへのコメントを作成することが事後課題となります。 第8週: 全体のまとめを行います。他グループからのコメントを踏まえて自グループのプレゼンについての振り返りを行うことが事後課題となります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2週～第5週は、資料の精読等の準備学習 (2時間程度) と論点整理やミニレポートの作成等の事後学習 (1時間程度) が必要となります。第6週の授業後は、第7週でのプレゼンに向け、グループ単位で準備を行っていただきます。第7、第8週には事後課題があります。 働き方や企業の活動に関する新聞記事やニュースなどにも注意を払ってください。			
教科書・参考書等 必要に応じ資料を配付します。			

参考書については適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜 4 限
研究室の場所は南7号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「企業と社会の関係 その1」と内容が重複するため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000112) 主題 Themes 企業と社会の関係B Business and society B	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 4Q火2 提供部局: 大教センター DPコード: cba 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 社会的課題、地域（コミュニティ）、企業、ビジネス 今日の地域社会にはさまざまな課題が存在しますが、それらをビジネスの手法によって解決しようとする取り組みも増えてきています。それらの活動は、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなどと呼ばれています。この授業では、地域（コミュニティ）に密着した企業活動をテーマとして取り上げ、具体的な事例の分析を交えながら、その課題や今後の発展可能性について探求します。			
授業の目的 地域に密着した、あるいは、地域資源を活用したビジネスを事例としてとりあげ、それらが抱える課題や今後の発展可能性について探求することを授業の目的とします。			
到達目標 1. 地域（コミュニティ）におけるビジネスの役割について、自己の問題意識と関連づけて探求することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスについて、その特徴を説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 3. 地域における新たなビジネスの可能性について、自分の考えをわかりやすく表現することができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準 講義毎に課すミニレポート（20%）、グループワーク・プレゼン（30%）、テスト（50%）により総合的に評価します。受講者数が30名以下の場合、テストは実施せず、期末レポートを実施します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イントロダクション：ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスとは 第2週 事例の検討1：地域資源の活用 第3週 事例の検討2：伝統技術の活用 第4週 事例の検討3：子育て支援・高齢者支援 第5週 事例の検討4：まちづくり・スポーツ・文化の振興 第6週 グループワーク 第7週 プレゼンテーション 第8週 まとめ（45分間）＋期末試験（45分） ＊この科目は基本的に対面で授業を行います。 ＊受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。 ＊事例の検討をゲストスピーカーによるセッションに変更する場合があります。			
【授業および学習の方法】 この授業では、地域に密着した、あるいは、地域資源を活用したビジネスを事例としてとりあげ、それらの課題や今後の発展可能性について学びます。 第2週～第5週：授業の前半は資料に基づいて解説を行います。後半はグループに分かれて討議を行います。 第6週：グループ別に選択したテーマについての検討を行います。 第7週：第6週の討議結果に基づいてパワーポイントでのプレゼンを行います。他グループに対するコメントを作成することが事後課題となります。 第8週：まとめと振り返りを行います。他グループからのコメントを踏まえて自グループのプレゼン内容についての検討を行うことが事後課題となります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2週～第5週の授業時には資料の精読等の準備学習（2時間程度）と論点整理やミニレポートの作成等の事後学習（1時間程度）が必要となります。 第6週の授業後は、第7週でのプレゼンに向け、グループ単位で準備を行っていただきます。第7週、第8週にはプレゼン結果を踏まえた事後課題があります。			

教科書・参考書等

必要に応じ資料を配付します。
参考書については適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜 4 限
研究室の場所は南7号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成 3 0 年度以前開講の「企業と社会の関係 その2」と内容が重複するため、平成 3 0 年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000113) 主題 Themes 株式・債券の仕組み Asset Pricing	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 3Q火2 提供部局: 大教センター DPコード: cba 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 資産形成、証券投資 資産形成は単なお金儲けの手段というわけではなく、将来の様々なリスクに対する備えでもあり、みなさんが思うよりも生活に密着したテーマです。本講義では、資産形成の代表的手段である証券投資（株式投資や債券投資）について、特に投資家の視点から解説します。なお、本講義で扱うのは、特定の条件の下での株式や債券の性質に関する理論であり、それが現実にも当てはまるとは限りません。このような理論は、資産形成の「ベンチマーク（基準点・水準点）」を提示するものであって、「正解」を導くものではありませんので、その点はよくご留意ください。			
授業の目的 株式や債券に関する理論の習得を通して、株式投資や債券投資を含む資産形成に関する様々な情報（書籍やインターネットなど）に対して自分なりの意見を持ち、その意見を正確に説明できるようになることが本講義の目的です。			
到達目標 1. 株式や債券が利害関係者にもたらす便益を説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 株式や債券に関する様々な情報に対し、自分なりの意見を持って批判・評価することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 3. 自分の主張を正確に表現するために情報を取捨選択し、それを文章や口頭でわかりやすく他者に伝えることができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）			
成績評価の方法と基準 ミニレポート40%+期末レポート60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション、金融リテラシーの重要性 第2週 株式や債券の基本 第3週 株式のリスクと分散投資効果 第4週 ポートフォリオを組んでみよう 第5週 株価を評価するモデル①: CAPM 第6週 株価を評価するモデル②: マルチファクターモデル 第7週 債券・派生証券① 第8週 債券・派生証券②、まとめ 【授業および学習の方法】 講義を中心に授業を進めます。毎回、講義内容の定着を目的としたミニレポートを課します。講義の進行度に応じてグループディスカッションを行う場合があります。 【自学自習のためのアドバイス】 準備学習 (15時間) として、金融・経済に関する新聞やネットなどの記事を読む習慣をつけると良いでしょう。また、日米の株価指数や国債金利、原油や金の先物価格など、主要な経済指標を毎日確認することも良い学習になります。事後学習 (15時間) の時間は、ミニレポートの作成や講義内容のまとめなどに充てると良いでしょう。			
教科書・参考書等 無理に購入する必要はありませんが、準備学習として下記の参考書を読むと講義の理解が深まります。 参考書: 井上光太郎、高橋大志、池田直史『ベーシックプラス ファイナンス』中央経済社、2020年 (2,400円+税)			
オフィスアワー 火曜日3時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 近年、個人の資産形成が重要なテーマになってきています。ニーズがある分野ですから、当然、書籍やインターネットなどで様々な情報が飛び交っていますが、中には疑わしいものも多々あります。何が良い情報で何が悪い情報かは皆さんご自身で判断していかなければなりません。この講義が、みなさんが資産形成の情報を判断する際の「ベンチマーク」のひとつになれば幸いです。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000114)	主題科目	4Q火2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cba	
市場と感情の科学 Behavioral Finance	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目 株式・債券の仕組み		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】株式市場、非合理性 みなさんは、我々人間は誰もが合理的・理性的に行動していると思いますか？ 多くの人はそうは思わないでしょう。株式市場のような大きなお金が動き、合理的な判断が求められる場所でさえ、人々は「理性」よりも「感情」で動くことがあると言われています。本講義では、株式市場で観察される様々な不可思議な現象を通じて、我々人間の意思決定のメカニズムに迫ります。			
授業の目的			
株式市場と人間の非合理的行動の関係を知ることを通じて、株式市場や日常生活に潜む様々な人間の非合理的な行動についてアンテナを張ることができるようになることが本講義の目的です。また、それを自分と他者にとってのより良い意思決定の追究に活かして頂ければなお良いです。			
到達目標			
1. 株式市場における不可思議な現象と、人間の非合理性との関係を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 株式市場や日常生活における非合理的な意思決定を発見し、批判・評価することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 自分の主張を正確に表現するために情報を取捨選択し、それを文章や口頭でわかりやすく他者に伝えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート40%+期末レポート60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション、行動ファイナンスとは (教科書第1章、第7章) 第2週 効率的市場仮説 (教科書第7章) 第3週 ヒューリスティクス① (教科書第2章) 第4週 ヒューリスティクス② (教科書第2章) 第5週 リスク選好とプロスペクト理論① (教科書第4章) 第6週 リスク選好とプロスペクト理論① (教科書第4章) 第7週 感情・後悔・社会心理① (教科書第3章) 第8週 感情・後悔・社会心理② (教科書第3章)			
【授業および学習の方法】 講義を中心に授業を進めます。毎回、講義内容の定着を目的としたミニレポートを課します。講義の進行度に応じてグループディスカッションを行う場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 準備学習 (15時間) として、教科書の該当部分 (上記の授業計画に記載) を精読すると良いでしょう。事後学習 (15時間) の時間は、ミニレポートの作成や講義内容のまとめなどに充てると良いでしょう。			
教科書・参考書等			
教科書:筒井義郎、佐々木俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ『行動経済学入門』東洋経済、2017年 (2,400円+税)			
オフィスアワー 火曜日3時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本講義は事前知識の必要のない独立した構成になっていますが、関連科目の「株式・債券の仕組み」もあわせて受講するとより理解が深まります。			

ナンバリングコード B2THM-cebG-1N-Eg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000115)	主題科目	1Q月5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
プロジェクトさぬき イ	分野 主題	DPコード: ceb	特定プログラムとの対応
Project Sanuki	授業形態 演習	単位数 1	ネクスト・プログラム
	グループワーク		
担当教員名	関連授業科目		
ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	履修推奨科目		
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)			
授業の概要			
【キーワード】: 瀬戸内海の問題			
瀬戸内海の問題を中心に、香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。			
発表は、グループ単位で主体的に実施する。			
グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。			
使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。			
なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。			
※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
授業の目的			
調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。			
その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。			
※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			
1. 瀬戸内海の問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
成績評価の方法と基準			
下記の観点及び割合で評価する。（※状況により変更する可能性あり）			
講義および実地研修への参加: 10点			
ミニレポートの提出: 20点			
グループ発表評価: 40点			
個人レポート: 30点			
合計: 100点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
国連の定めるSDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち「14. 海の豊かさを守ろう」に基づき、香川県環境森林部およびNPO法人アーキペラゴの協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の問題について学習します。			
1 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, Criteria for grading, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明、評価基準提示 等			
2 Lecture about SDGs and marine environment, Team formation, Explanation for project SDGsと海洋環境についての講義、グループ編成、プロジェクトについての説明			
3 Field work 実地研修			
4 Group work(1) グループワーク (1)			
5 Group work(2) グループワーク (2)			
6 Group work(3) グループワーク (3)			
7 Final presentation(1) 最終発表 (1)			
8 Final presentation(2) 最終発表 (2)			
※実施研修は、高松市内の海岸視察および漂着ごみの回収を通じた海洋環境に関する学習（必修）を予定しています。			
※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。			
※上記計画は、変更の可能性もあります。			

【実施方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。状況によっては全部または一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動です。

担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してください。

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」および令和1～3年度の「プロジェクトさぬき」と同じ内容であるため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 以下は予定です。変更する場合は適宜授業時にお知らせします。

ロン： 水曜日 13:30～14:30

高水： 火曜日 14:40～16:10

塩井： 木曜日 14:40～16:20

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THM-cebG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000116) 主題 Themes プロジェクトさぬき ロ Project Sanuki	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ceb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)			
授業の概要			
【キーワード】: 瀬戸内海の問題 瀬戸内海の問題を中心に、香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。発表は、グループ単位で主体的に実施する。 グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。 使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。 なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。 ※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
授業の目的			
調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			
1. 瀬戸内海の問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
成績評価の方法と基準			
下記の観点及び割合で評価する。(※状況により変更する可能性あり) 講義および実地研修への参加: 10点 ミニレポートの提出: 20点 グループ発表評価: 40点 個人レポート: 30点 合計: 100点			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 国連の定めるSDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち「14. 海の豊かさを守ろう」に基づき、香川県環境森林部およびNPO法人アーキペラゴの協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の問題について学習します。 1 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, Criteria for grading, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明、評価基準提示 等 2 Lecture about SDGs and marine environment, Team formation, Explanation for project SDGsと海洋環境についての講義、グループ編成、プロジェクトについての説明 3 Field work 実地研修 4 Group work(1) グループワーク (1) 5 Group work(2) グループワーク (2) 6 Group work(3) グループワーク (3) 7 Final presentation(1) 最終発表 (1) 8 Final presentation(2) 最終発表 (2) ※実施研修は、高松市内の海岸視察および漂着ごみの回収を通じた海洋環境に関する学習（必修）を予定しています。 ※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。 ※上記計画は、変更の可能性もあります。			

【実施方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。状況によっては全部または一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動です。

担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してください。

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」および令和1～3年度の「プロジェクトさぬき」と同じ内容であるため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 以下は予定です。変更する場合は適宜授業時にお知らせします。

ロン： 水曜日 13:30～14:30

高水： 火曜日 14:40～16:10

塩井： 木曜日 14:40～16:20

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THM-cbeG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000117)	主題科目	2Q月5	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
Leading Edge Issues in Kagawa University イ	分野 主題	DPコード: cbe	特定プログラムとの対応
Leading Edge Issues in Kagawa University	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目		
ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要			
【キーワード】 香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
授業の目的			
本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
最終レポート (70%) とミニレポート (30%) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2 枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について 2 回目から 7 回目は、担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行う。ただし、担当や順序は変更の可能性がある。 2 回目 担当: 経済学部 ゲーム理論 3 回目 担当: 創造工学部 マイクロシステム 4 回目 担当: 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 災害とその対策 5 回目 担当: 国際希少糖研究教育機構 希少糖 6 回目 担当: インターナショナルオフィス 本学の国際交流と海洋環境 7 回目 担当: 農学部 食品科学 8 回目 インターナショナルオフィス担当 ・振り返り ・まとめ 【実施の方法】 この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 【自学自習について】 自分の興味のある分野、または、専門とする (予定の) 分野については、特に広い視点から見つめ直す。上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。			
教科書・参考書等 特に指定しない			

オフィスアワー	高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス 2 号館、インターナショナルオフィス」
塩井：	木曜日 14:40～16:20「南キャンパス 2 号館、インターナショナルオフィス」
ロン：	水曜日 13:00～14:00「南キャンパス 2 号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。
--

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流・ 国際プロジェクト（教育・研究等）の担当・ 様々なレベルでの国際貢献・ 海外からの留学生の受け入れ・ 海外への学生派遣 |
|--|

ナンバリングコード B2THM-cbeG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000118) 主題 Themes Leading Edge Issues in Kagawa University Leading Edge Issues in Kagawa University	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 4Q月5 提供部局: 大教センター DPコード: cbe 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要 【キーワード】 香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
授業の目的 本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標 1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 最終レポート (70%) とミニレポート (30%) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2 枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について 2 回目から 7 回目は、担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行う。ただし、担当や順序は変更の可能性はある。 2 回目 担当: 教育学部 英語教育 3 回目 担当: 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地質災害 4 回目 担当: 医学部 新型コロナウイルス感染症と生活習慣病 5 回目 担当: 農学部 生物活性物質の抽出 6 回目 担当: インターナショナルオフィス 本学の国際交流とI0の取り組み 7 回目 担当: 創造工学部 マイクロシステム 8 回目 インターナショナルオフィス担当 ・振り返り ・まとめ 【実施の方法】 この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 【自学自習について】 自分の興味のある分野、または、専門とする (予定の) 分野については、特に広い視点から見つめ直す。上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。			
教科書・参考書等 特に指定しない			

オフィスアワー	高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
塩井：	木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
ロン：	水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。
--

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流・国際プロジェクト（教育・研究等）の担当・様々なレベルでの国際貢献・海外からの留学生の受け入れ・海外への学生派遣 |
|---|

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000134) 主題 Themes オリンピックの歴史と文化 History and Culture of Olympic Games	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q金1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 石川 雄一	関連授業科目	履修推奨科目
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備15時間、事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 オリンピック オリンピズム スポーツマンシップ フェアプレー スポーツ文化 1896年ギリシアのアテネで始まった近代オリンピックは、126年の時を経て来る2021年に延期された東京大会で第32回を迎えました。近代オリンピックの発展が世界中のスポーツの発展に寄与したことは紛れもない事実です。本講義ではオリンピックの成り立ちや、近代オリンピックの創世期を振り返りながら、クーベルタン男爵が提唱したオリンピズムやスポーツマンシップ、フェアプレーの精神、日本のスポーツの発展などスポーツ文化的価値について考えていきます。			
授業の目的 2021年に2回目の東京オリンピックが開催されたこの時期に、開催国の国民としてオリンピックの歴史について基本的な知識を理解し、オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について学ぶことで、スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できるようになりましょう。			
到達目標 ・オリンピックの歴史について基本的な知識が理解できる。 ・オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について説明できる。 ・スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できる。 以上の到達目標は香川大学共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応しています。			
成績評価の方法と基準 授業後に提出してもらう出席確認・内容(50%)とレポート(50%)にて判定する。レポートは事前に課題を与え構想や下書きを考えてもらい、最後の授業時間中に完成して提出します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業はプロジェクターを用いて行います。画面は撮影可能です。			
第1回 エピローグ1964東京オリンピック 第2回 古代オリンピックについて 第3回 近代オリンピックの歴史と発展(1) 第4回 近代オリンピックの歴史と発展(2) 第5回 近代オリンピックの歴史と発展(3) 第6回 近代オリンピックの歴史と発展(4) 第7回 近代オリンピックの歴史と発展(5) 第8回 スポーツの文化的価値について(レポート作成含む) なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。 自学自習のアドバイス 第1回 1964年に開催された東京オリンピックに関する情報を事前にインターネット等で調べてみましょう。(2時間) また講義中に取り上げられた事項についても関連事項を調べて理解を深めましょう。(2時間) 第2回～7回 各時間の講義中に取り上げられた、専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみる。そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。(各3時間×6回) 第8回 これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとにレポート作成の構想や下書きを考えてみましょう。(8時間) この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔授業(Zoomによるライブ講義)へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 特にありません			
オフィスアワー 月曜日1時限目。研究室は幸町北キャンパス5号館4階にあります。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
受講マナーを遵守してください			

ナンバリングコード B2THM-bexG-10-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000119)	主題科目	3Q月1	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	
ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望A Music Festivals in Europe A	分野 主題	DPコード: bex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 芸術A		
最上 英明	履修推奨科目 芸術A		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Aで取り上げるのは、ヴェローナ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭である。			
授業の目的			
ヨーロッパの音楽芸術(特にオペラ)への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
ヴェローナ、ザルツブルク、ブレゲンツの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニなどの有名なオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまに実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ヴェローナ音楽祭(1) 第2回 ヴェローナ音楽祭(2) 第3回 ブレゲンツ音楽祭(1) 第4回 ブレゲンツ音楽祭(2) 第5回 ザルツブルク音楽祭(1) 第6回 ザルツブルク音楽祭(2) 第7回 ザルツブルク音楽祭(3) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めます。 この科目は全回対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス5号館4階。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THM-bexG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000120) 主題 Themes ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望B Music Festivals in Europe B	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q月1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: bex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 最上 英明	関連授業科目 芸術A 履修推奨科目 芸術A	
学習時間 授業 90分×7回+授業 45分×1回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Bで取り上げるのは、ワーグナーが創設したバイロイト音楽祭である。			
授業の目的 ヨーロッパの音楽芸術（特にオペラ）への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
ワーグナーの聖地として知られるバイロイトの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 ワーグナーのオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまに実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 バイロイト音楽祭(1) 第2回 バイロイト音楽祭(2) 第3回 バイロイト音楽祭(3) 第4回 バイロイト音楽祭(4) 第5回 バイロイト音楽祭(5) 第6回 バイロイト音楽祭(6) 第7回 バイロイト音楽祭(7) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めます。 この科目は全回対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス5号館4階。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000137) 主題 Themes 損害保険を考える Overview of the Non-Life Insurance Business in Japan	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q木5 提供部局: 大教センター DPコード: cbd 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 寺尾 徹, 及川 清志	関連授業科目 「生命保険を考える」、防災関連科目 履修推奨科目 「生命保険を考える」、防災関連科目		
学習時間 講義90分×8回+自習(事後学習30時間)			
授業の概要 【キーワード】 損害保険、リスク管理、災害・減災 私たちは、病気やケガ又は交通事故等のリスクにさらされて生活しています。また、近年、大規模な自然災害が頻発しています。万一リスクが具体化して私たちが損害を被ったとき又は企業が損害を受けたとき等、その損害を補償するのが損害保険です。損害保険は、私たちが安心して日常生活を送ることや災害に強い社会の構築に役立つだけでなく、企業の持続性ある経済活動を可能とする上で必要不可欠なものであり、損害保険業は公共性が高い保険業の1つなのです。 この授業では、損害保険が私たちの日常生活や企業活動に果たす重要な役割と各種の損害保険商品の概要について、「実社会」を意識した「実践的」な講義を展開し、損害保険に対する関心を高めるとともに理解を深め、消費者として又社会人として身につけておくべき基本的な損害保険の知識の修得を目指します。このような授業は、本学のDRI教育のうち、「R」(Risk)分野の一翼を担うものです。			
授業の目的 実務面から、損害保険の仕組み・必要性の理解を促進し、受講生の損害保険リテラシーを向上させ、将来自立してリスクに相応しい損害保険契約を締結できる力を育みます。また、災害に備える防災意識を高め、さらに、損害保険が社会や経済にどのような役割を果たしているかを学びます。このような損害保険について理解を深めることによって、SDGsとの関連性に気づくだけでなく、公共性のある保険業を営む損害保険会社の業務の説明を通して、人生設計・職業観、そして社会観を深く考えます。			
到達目標 1. 消費者・社会人として必要な経済的備えである損害保険の基本的知識を説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」および「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 損害保険の歴史、仕組み、意義を他の金融形態との対比の中で説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 損害保険会社が社会・経済の流れの中でどのように関わっているか説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 ①参加状況などの授業態度(20%)、②第4週終了後の小テスト(10%)、③最終試験(70%)により評価を行います。これらの総合評価により60%以上を合格とします。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画(予定)】 授業の進行状況及び受講生の理解度等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 ガイダンス～損保協会の活動 第2週 保険の仕組み、役割 第3週 くるまの保険(自賠責保険・自動車保険) 第4週 すまいの保険(火災保険・地震保険) 第5週 からだの保険(傷害保険・医療保険・海旅保険)・自転車保険 第6週 企業分野の保険 第7週 保険会社の業務 第8週 まとめ、定期試験 ※ 第6週、第7週は、ゲストスピーカー(損害保険会社の実務家)が講義を行います。 【授業および学習の方法】 ・授業は講義形式(パワーポイント資料、冊子類を中心)を基本しますが、受講生へ質問を適宜行い、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる等の発言・質問を行った場合、教員の判断で加点する場合があります。 ・第5週の授業開始前15分間、第2週から第4週までの内容について小テストを行います。 【自習学習のためのアドバイス】 ・講義終了後にパワーポイントの資料の復習をすることに心がけていただきたい。 ・小テストは資料等の持ち込みは一切不可としますが、難問・奇問は出題しません。 ・最終試験は手書きのノートのみ持ち込みを可(資料のコピー不可)とします。そのため、授業で重要と思われる内容を各自のノートへ毎回整理しておくことを勧めます。			

教科書・参考書等

指定なし

オフィスアワー 授業終了後、教室において**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・ 毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・ 損害保険の理解促進は今後の人生設計を考える上で必要不可欠です。必要な経済的備えである損害保険の基本的知識を得ることで様々なリスクに備えることができるようになっていただきたい。

参照ホームページ

<https://www.sonpo.or.jp/>

教員の実務経験との関連

- ・ 及川教員（日本損害保険協会四国支部事務局長）は、日本損害保険協会の職員として従事し損害保険事業全般に深く精通しています。なお、この授業は「日本損害保険協会四国支部提供講座」として開講されます。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000121) 主題 Themes 生命保険を考える Overview of the Life Insurance Business in Japan	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
	担当教員名 寺尾 徹, 菊地 一哉	関連授業科目 損害保険を考える 履修推奨科目 損害保険を考える	
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習8時間+事後学習8時間)			
授業の概要 【キーワード】 生命保険、社会保障、生活設計 この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観します。その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なありかたや、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、議論と考察を深めて行きます。また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の役割等について学ぶことを通じて、社会の一員として成長する契機とします。この授業は、大学のDRI教育のうち、「R」(Risk)分野の一翼を担うものです。			
授業の目的 21世紀社会の日本の社会保障問題を背景とした、生命保険の重要性や果たすべき役割を理解し、併せて、生活設計力、生活上のリスク管理能力を研鑽する。そのために、現役の実務家による経験談や最新情報の提供も随所に織り込み、理論と実践の両面で理解を深める。			
到達目標			
1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 現代生活におけるリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することができる（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）。 3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準 「受講態度+受講者カードの解答内容」30%+「最終試験得点」70% の総合得点で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション・生保総論（社会保障・経済環境、公私二本柱の保障、現代生活と保険） 第2週 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計の必要性、経済的リスクとその対処法） 第3週 公的保障と生保①（死亡・病気・ケガの各リスクへの公的・私的な保障） 第4週 公的保障と生保②（老後・介護の各リスクへの公的・私的な保障） 第5週 生命保険の仕組み（生命保険の法的性質、構成要素、契約の流れ・手続、最近の変化） 第6週 生命保険商品の動向（明治～平成の時代背景・経済環境・ニーズの変化と現状、今後の動向） 第7週 （前半）生保会社の組織・業務、（後半）グループディスカッション 第8週 まとめ、定期試験 ※受講生の理解度や履修人数によっては、特に第5～8週の内容・順番を見直す場合があります。			
【授業及び学習の方法】 ・各回の講義資料：パワーポイントで作成・整理した資料を、プロジェクターでスライド投影して説明。 ・受講者カード（A4サイズ1枚）：講義終了後に、記入し提出していただく。 （例：講義内容の理解度確認としての小テスト、設定したテーマに関する意見等の論述、等） ・グループディスカッション：講師が提示したテーマについて、当日ランダムに結成したグループで討議し、グループとしての意見を「討議シート」にまとめ、講師へ提出する。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業時間外においても、とくに以下の点は常に課題意識を持ち「自分ごと化」して考察していただきたい。 ①自分の専門分野からの視点で、日本の社会保障制度の諸課題について考察する。 ②公的保障のしくみを理解し、様々なリスクへの対処法を考えて、自分の将来のライフプランを設計する。			
教科書・参考書等 指定なし。			
オフィスアワー 毎回の講義終了後、教室にて			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
- ・その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなります。

教員の実務経験との関連

教員（生命保険協会香川県協会事務局長）は大手生命保険会社で管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通し、専門的な知識・経験・実績を有しています。わかりやすく丁寧な講義を行います。なお、この授業は「生命保険協会香川県協会提供講座」として開講されます。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Ef1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000122)	主題科目	3Q金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
海外体験型異文化コミュニケーションⅠ	分野 主題	DPコード: cba	特定プログラムとの対応
Study Abroad:Communicating Across CulturesⅠ	授業形態 演習	単位数 1	ネクスト・プログラム
フィールドワーク			
担当教員名	関連授業科目 海外体験型異文化コミュニケーションⅡ		
ロン リム, 高水 徹	履修推奨科目 海外体験型異文化コミュニケーションⅡ		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
(海外体験型異文化コミュニケーションⅡでは、春季休暇中に約2週間の現地(台湾)研修を実施。詳細は下記。)			
授業の概要			
【キーワード】台湾における実地研修(留学入門編)			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡでは、本学での準備に加え、台湾へ行って研修を行います。海外体験型異文化コミュニケーションⅠはその準備段階となります。第3クォーターの間に、現地での研修に参加へ向けて、積極的に検討してもらいます。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡは、台湾での研修に参加する意志のある学生のみ登録してください。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡのみを履修して研修に参加することも可能ですが、できるだけ海外体験型異文化コミュニケーションⅠも合わせて受講してください。			
本授業は海外異文化体験の入門編です。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。現地の研修では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士のディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回(2012年～2016年)まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。2022年度で、台湾での研修は4回目となります。			
授業の目的			
本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標			
1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準			
【注意】海外体験型異文化コミュニケーションⅡについては、研修後の最終報告書の提出とチェックを義務付けているため、提出状況によっては成績発表が遅れる場合もある。			
(以下は、研修時期によって変更する可能性あり)			
第3クォーター(海外体験型異文化コミュニケーションⅠ)			
参加・貢献度: 30%			
発表: 40%			
コミュニケーション: 30%			
第4クォーター(海外体験型異文化コミュニケーションⅡ)			
事前の取組: 20%			
海外研修での参加: 30%			
帰国後のレポート提出: 30%			
発表会への参加: 20%			
授業・演習・発表・ガイダンス等、関連する全てに関して、出席が必要です。一つでも不参加の場合は、単位を認定できなくなることがあるので注意してください。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【本学での事前学習】			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更			

する可能性があります。

第3クォーター

- (1) ガイダンスとイントロダクション、本授業の説明及び確認
- (2) 台湾および嘉義大学等について
- (3) 台湾に関する基本情報（導入および分担決定）
- (4) 台湾に関する基本情報（宗教、祭り、産業、歴史、経済、社会等について、発表準備）
- (5) 台湾に関する基本情報（上記に関する発表）
- (6) 香川県の紹介（分担決定および発表準備）
- (7) 香川県の紹介（プレゼンテーション練習）
- (8) まとめ等

第4クォーター

- (9) イントロダクション
- (10) 中国語の講習会その1（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (11) 中国語の講習会その2（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (12) 香川大学紹介プレゼンテーションの準備
- (13) 香川大学紹介プレゼンテーションの予行演習
- (14) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習
- (15) 予備日
- (16) 出国手続き、危機管理に関する講習

【現地での研修（これまでの例に基づく案）】

- 顔合わせ、キャンパスツアー
- 中国語研修、課外研修（昆虫博物館）
- 中国語研修、課外研修（ヒノキ公園、嘉義公園）
- 中国語研修、課外研修（孔子廟、市民朝市場）
- 中国語研修、課外研修（パイナップル・ケーキや地元の銘菓の工場）
- プレゼンテーション、送別会

【帰国後、学内で】

- 成果発表会準備
- 成果発表会

※渡航日は調整中です。

現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用。

嘉義大学生がバディーとして接してくれます。

教科書・参考書等

教材は必要に応じて授業中配布

オフィスアワー ロン： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
高水： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 海外体験型異文化コミュニケーションⅠの受講中に、実際に台湾での研修に参加するかどうかを決定することが可能です。参加を決定した場合は、海外体験型異文化コミュニケーションⅡ（高度教養科目）の履修登録が必要です。
- 受講人数はおよそ20名までを想定。
- 海外研修費（為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円を想定）は自己負担。
- 台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーに出席すること。
- 台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。
- 現地での宿泊：大学の施設
- 嘉義大学研修の前後：台北での研修・見学あり。

ナンバリングコード B2THM-caeG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000123)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes サーバント・リーダー養成入門 I Introduction to Servant Leader Training I	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 早川 茂, 松村 幸江	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 地域未来創成 本授業は、持続性のある地球未来実現のため、ローカルかつグローバルに活躍できるサーバント・リーダー養成を目的とした日本・インドネシア6大学(SUIJI)農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、又は参加に興味ある学生を対象とする。 「地域未来創成入門」においては、一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける。			
授業の目的 グローバルな視野を持ちながら、未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける。			
到達目標 「地域未来創成入門」 ・自ら目指すサーバント・リーダーのあり方について説明することができる(意欲・関心・態度) ・持続可能な地域と世界の現状について、自然・社会文化・経済の視点から説明できる(知識・思考) ・一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明できる(思考・判断) ・地域において学習・調査活動に持続的に関わることのできる対話方法と危機管理方法について説明できる(技能・表現)(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 ・サーバント・リーダーに要請される能力開発に対する到達目標を自ら設定し自己評価資料を作成する(30%) ・教員によるポートフォリオ総合評価(70%): 授業進行に合わせて提出する成果物をもとに評価する			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 「地域未来創成入門」 第1回(対面講義) (1) サーバント・リーダー養成カリキュラムの概要 (2) 持続可能な地域と世界の現状 (3) グループ討議 第2回(対面講義) かがわの食資源-野菜・果物 第3回(対面講義) かがわの食資源-オリーブ・希少糖 第4回(対面講義) 世界(ASEAN諸国)の食資源+ゲストスピーカー講演1 第5回(対面講義) フードバリューチェーン+ゲストスピーカー講演2 第6回(対面講義) 食資源による地域活性化 第7回 企業・官公庁・個人インタビュー 第8回 インタビューに基づくグループ発表・討論会 毎回の授業後、各自による授業の振り返り等に関するポートフォリオを作成する時間外学習を行う			
教科書・参考書等 関連プリント配布			
オフィスアワー SUIJI推進室(農学部 DS301) 月～水曜日 10:00～16:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、及び参加に興味がある学生を対象とする。 保険については、学研災及び学研賠に加入すること。			

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000124) 主題 Themes 差別とマイノリティ Discrimination and Minority	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 日常の差別 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスの中で重要な位置を占める「共感」に焦点をあてます。具体的には、「日常の中に潜む差別」に着目し、共感という技法を用いてマイノリティの人々が抱える問題を明らかにします。			
授業の目的			
マイノリティの人々に対する差別の問題は、自分自身と関係のないものだと考えられているかもしれません。この授業では、自分の中にある決めつけや思い込みから距離をとる態度を身につけることによって、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身と関連づけて考察することを目的とします。このことは、デザイン思考との関係でいうと、共感の技法を身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 普段意識しないような日常生活の中にある差別を発見し、説明することができる。 2. 自分自身と関連づけて日常生活の中にある差別の問題点を論じることができる (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 本授業のアプローチを、デザイン思考の共感の技法に関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準			
予習シート60% (到達目標の1と2に対応)、レポート40% (到達目標の2と3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考と差別問題 第2回 差別という行為 第3回 差別を考える2つの視点 第4回 他者理解とカテゴリー化 第5回 人間と序列 第6回 多様な性 第7回 障害から日常を捉え直す 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、講義とグループワークによって構成されています。各回の授業は、主に次のような方法で行われます。講義は、第1回と第8回です。グループワークは、第2回～第7回です。第2回～第7回の授業では、LTD話し合い学習法 (Learning Through Discussion) という小グループによる話し合いを中心に学習を進める技法を用います。LTD話し合い学習法の具体的な方法については、第1回のガイダンスで説明します。 この科目は基本的に対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回～第7回: 教科書の指定箇所を事前に読んできて、予習シートにまとめてきてください。教科書の指定箇所や予習の仕方については、第1回のガイダンスで説明します。また、授業でのグループワークの復習 (事後学習) を行ってください。この復習が、次の準備学習やレポート作成に関連します。 第7、8回: レポートを作成してください。レポートの具体的な内容は、授業で説明します。			
教科書・参考書等			
教科書: 好井裕明 (2020) 『他者を感じる社会学: 差別から考える』ちくまプリマー新書363. 968円 (税込) 参考書: 西原和久・杉本学編 (2021) 『マイノリティ問題から考える社会学・入門: 差別をこえるために』有斐閣. 2,420円 (税込) 他にも授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
教科書の購入は必須です。第1回授業の宿題 (授業外学修) から教科書が必要になります。 授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q火1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000125)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes マイノリティのライフヒストリー The Life Histories of Minorities	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 履修推奨科目 差別とマイノリティ、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】マイノリティのカテゴリー化 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスのうち「共感」と「問題定義」に焦点をあて、私たちが抱える重要な問題である差別問題について考えます。具体的には、マイノリティのカテゴリー化に関する問題について考えます。マイノリティの人々に対する一面的な見方や意味づけに陥らないための共感の技法として、ライフヒストリーについて学びます。そして、マイノリティの人々のライフヒストリーを分析し、マイノリティの人々が抱える具体的な課題を発見しグループ発表を行います。			
授業の目的 この授業では、マイノリティの人々の多様な人生を知り、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身に関連づけて理解し、そしてマイノリティ問題の具体的な課題を発見することができるようになることが目的です。このように人やモノ等に対する見方や考え方を再構築し、適切な課題を発見することは、デザイン思考の「共感」から「問題定義」にいたるプロセスにあたります。			
到達目標			
1. ライフヒストリーについて説明することができる。 2. マイノリティのライフヒストリーを分析し、マイノリティの人々が抱えている具体的な課題を発見することができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. マイノリティ問題の具体的な課題について、自分自身と関係づけることができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 1～3 を、デザイン思考の共感から問題定義にいたるプロセスと関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準 コメントシート 10% (到達目標1に対応) 、グループ発表 30% (到達目標2と4に対応) 、レポート 60% (到達目標の3と4に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考とマイノリティ問題 第2回 差別とライフヒストリー 第3回 様々なライフヒストリーにふれる 第4回 グループ発表するマイノリティの歴史を知る 第5回 グループ発表するマイノリティのライフヒストリーを分析する 第6回 グループ発表の準備 第7回 グループ発表 第8回 ふりかえりとまとめ			
【授業及び学習の方法】 第1と第2回と第8回は、主に講義です。第3回と第4回は、ジグソー学習法というメンバーごとに担当を決めて教え合う技法を用いて授業をします。ジグソー学習法の具体的な方法については、第2回の授業で説明します。第5回と第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークが中心です。第7回は、グループ発表です。 この科目は基本的に対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 この授業に関するアンケートに回答してもらいます。 第2回 差別やライフヒストリーに関する授業内容を復習してください。 第3回 グループ発表で取り組むマイノリティに関する歴史を調べてレポートにまとめてください。 第4回 グループ発表で取り組むマイノリティのライフヒストリーを調べてレポートにまとめてください。 第5～6回 グループ発表のための準備をしてください。不足している内容を調べてグループ発表にいかしてください。 第7～8回 グループ発表したマイノリティの人々が抱えている具体的な課題に、自分自身がどのように関与できるかを論述するレポートを作成してください。			
教科書・参考書等 参考書: 西原和久・杉本学編 (2021) 『マイノリティ問題から考える社会学・入門: 差別をこえるために』			

有斐閣. 2,420円（税込）他にも授業中に適宜紹介します。
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lp1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000126)	主題科目	4Q火1	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	
社会デザインとマイノリティ問題 Social Design and the Problems of Minorities	授業形態 講義 PBL	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフストーリー		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 共生社会のデザイン デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業ではデザイン思考のうち「プロトタイプ」と「テスト」に焦点をあて、マイノリティの人々が生きやすい社会をデザインします。そのために、共生社会の理論や具体例について学びます。これらをもとにして、グループでマイノリティの視点から共生社会をデザインします。			
授業の目的			
この授業では、共生社会について理解したうえで、マイノリティの人々の視点に立ち、マイノリティの人々が生きやすい社会のためのアイデアを出し、共感という技法にもとづいて社会をデザインできるようになることが目的です。このことは、デザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスを身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 共生社会について説明することができる。 2. 自分自身と関連づけながら、マイノリティの視点から社会をデザインすることができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 2を、デザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスとの関連で理解できる。			
成績評価の方法と基準			
コメントシート10% (到達目標1に対応) 、グループ発表30% (到達目標2と3に対応) 、レポート60% (到達目標の1と2と3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考と社会デザイン 第2回 差別について 第3回 ライフストーリーについて 第4回 共生社会について 第5回 共生社会の事例について 第6回 グループ発表の準備 第7回 グループ発表 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回、第2回、第8回は、主に講義です。第3回～第5回は、講義とグループワークです。第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークです。第7回は、グループ発表です。この授業では、少人数グループによる課題解決型学習＝PBL (Problem Based Learning) の技法を用います。PBLについては、第1回の授業で説明します。 この科目は基本的に対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 この授業に関するアンケートに回答してもらいます。 第2回 差別に関する授業内容を復習してください。 第3回 グループ発表で取り組むマイノリティに関する歴史と課題を調べてレポートにまとめてください。 第4回 グループ発表で取り組むマイノリティの課題を解決するためのヒントになる事例を調べてレポートにまとめてください。 第5～6回 グループ発表のための準備をしてください。不足している内容を調べてグループ発表にいかしてください。 第7～8回 グループ発表したマイノリティの人々が抱えている具体的な課題とその解決策に、自分自身がどのように関与することができるかを論述するレポートを作成してください。			
教科書・参考書等			
参考書: 西原和久・杉本学編 (2021) 『マイノリティ問題から考える社会学・入門: 差別をこえるために』有斐閣, 2, 420円 (税込) 他にも授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000127) 主題 Themes はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいさせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいさせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
授業の目的 DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいさせるか、考え、説明することができる。			
到達目標 1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいさせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート60%(到達目標1、2、3に対応)、グループ発表25%(到達目標2、3に対応)、コメントシート15%(特に到達目標1、3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション(小坂有資・西本佳代) 第2回 地域の課題を考える(小坂有資・西本佳代) 第3回 デザイン思考を活用した地域活性化(石塚昭彦)(遠隔・オンデマンド) 第4回 リスクマネジメントを活用した地域活性化(井面仁志)(遠隔・オンデマンド) 第5回 インフォマティクスを活用した地域活性化(林敏浩)(遠隔・オンデマンド) 第6回 DRIを地域活性化にどのようにいさせるか?グループ発表準備(小坂有資・西本佳代) 第7回 DRIを地域活性化にどのようにいさせるか?グループ発表(小坂有資・西本佳代) 第8回 まとめ(小坂有資・西本佳代) 【授業方法】 第1回と第2回は、講義とグループワークを行います。第3～5回は講義(遠隔・オンデマンド)を行います。そこで得た理解をもとに第6回のグループワークと第7回の発表を行います。 この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 グループで取り組む地域課題で、(1)自分自身と関連のある具体的な地域課題の現状を調べて、(2)その地域課題の解決策に関するレポートを作成する。 第2回 授業中のグループワークで作成した地域課題の解決策を自分の言葉でまとめるレポートを作成する。 第3～5回 D・R・Iのポイントをコメントシートにまとめる。 第6回 第7回の発表のための準備をする。 第7～8回 (1)DRIを学んだ前後で地域課題の解決策がどのように変わったか、(2)本授業でどのような学びがあったかをレポートにまとめる。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー まずは、コーディネーターの小坂にご連絡をください。小坂が、他の先生方にお伝えします。ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。15分以上の遅刻は欠席として扱います。			

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000128) 主題 Themes はじめて学ぶDRI ロ Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード: cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
授業の目的 DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
到達目標 1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 ミニレポート5%(到達目標3に対応)、レポート65%(到達目標1、2、3に対応)、コメントシート30%(到達目標1、3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第2回 地方創生とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第3回 地域社会とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第4回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦) (遠隔・オンデマンド) 第5回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志) (遠隔・オンデマンド) 第6回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩) (遠隔・オンデマンド) 第7回 DRIを活用した地域活性化 (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代) 【授業方法】 授業は、すべてオンデマンド型授業です。授業のコンテンツは、Moodleの「はじめて学ぶDRI ロ」のコースに掲載されます。1週間につき授業1回というペースで進めていき、毎週火曜日に新たな授業のコンテンツが視聴可能になります。 この科目は全回遠隔授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 授業に関わるアンケートに回答する。 第2回 各自で取り組む「地域社会の課題」を決定し、その背景を調べてレポートにまとめる。 第3回 各自で取り組んでいる「地域社会の課題解決策1」を考えレポートにまとめる。地域社会の課題を3つあげるミニレポートを作成し、また各自で取り組む地域課題を決定しその背景を調べてレポートにまとめる。 第4～6回 デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクスのポイントをまとめる。 第7～8回 DRIを活用し、「地域社会の課題解決策2」を考えレポートにまとめる。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー まずは、コーディネーターの小坂にご連絡ください。小坂が、他の先生方にお伝えします。ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。 毎週月曜日に授業に関する連絡を、香川大学教務システムDream Campusから送ります。			

ナンバリングコード B2THM-cexG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000129) 主題 Themes 知ブラe科目 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 ―四国の収容所を中心に― (Focusing on Camps in Shikoku) German Prisoners of the War in Japan 1914-1920 (Focusing on Camps in Shikoku)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
	担当教員名 井戸 慶治	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 捕虜、第一次世界大戦、青島 (チンタオ)、ドイツ 第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所―特に四国の収容所―における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。			
授業の目的 第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。			
到達目標			
1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテクストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 導入。板東を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所 (久留米、福岡、熊本、大分) 5. 中国・近畿の収容所 (姫路、青野原、似島、大阪) 6. 関東・東海の収容所 (名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン? 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』 10. 板東収容所 (1)。収容所新聞『ディ・バラッケ』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所 (2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ボーネルとマイスナー。 13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史 (世界と日本) 15. 捕虜待遇の歴史 (捕虜と「武士道」) 16. 定期試験 (レポート) 【授業時間外学習について】 各授業のビデオを見て、1) 内容の自分なりのまとめ、2) 感想ないし考察、3) 質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の留意点については、「履修上の注意・担当教員からのメッセージ」の欄を参照のこと。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム			

(Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書1 書名 『青島から来た兵士たち―第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』

I S B N 4-8102-0450-2 著者名 瀬戸武彦

出版社 同学社 出版年 2006年

参考書1 書名 『どこにしようと、そこがドイツだ』

著者名 田村一郎 (編著)

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2006年(第3版)

参考書2 書名 『ディ・バラッケ』(1-4巻)

著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 1998年―2007年

参考書3 書名 CD「トクシマ・アンツアイガー ―徳島俘虜収容所新聞―」

著者名 ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2012年

参考書4 書名 板東俘虜収容所

著者名 富田弘

出版社 法政大学出版局 出版年 1991年、(新装版) 2006年

参考書5 書名 松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォイアー」

I S B N 978-4-86087-149-9 著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会

出版社 愛媛新聞社 出版年 2019年

金額 2,800円

オフィスアワー 徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: ido.keiji@tokushima-u.ac.jp

メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。

レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1) 参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2) 得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3) 特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。

ナンバリングコード B2THM-cexG-10-Le2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000130)	主題科目	後期集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cex	
知プラe科目 モラエスの徳島-グローバルリズムと異邦人- Moraes's Tokushima(Globalism and People from Abroad)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人			
ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を深め、同時に異文化理解というものを考える。			
授業の目的			
グローバルという言葉が声高に叫ばれているが、その根底には越境ということがある。政治、経済、科学技術、医療、環境、文化、芸術など、ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで、複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは、ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物、芸術、文化の往来と影響関係には長い歴史があるが、それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として、徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは、何回か日本にやってきた後に、1899年から日本で暮らし、その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが、軍人、文人、外交官として、その当時の日本を、徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して、グローバリズムと異邦人ということを考えながら、異文化の理解ということを考えてみたい。			
到達目標			
徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ、異文化理解というものがどういうものか、現代のグローバルリズムの中で考えてみることを目標とする。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の簡単な感想と定期試験(レポート)の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので、毎回簡単な感想を提出してもらい、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに、毎週定期的に教材にアクセスしないで、定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合、成績評価に反映する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人ーラフカディオ・ハーン(小泉八雲) 5. モラエスの時代と同時代人ージョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観ー戦前と戦後 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1 11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2 12. 『おヨネとコハル』1 13. 『おヨネとコハル』2 14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1 15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2 16. 定期試験(レポート)			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

教科書・参考書等

教科書1 書名 徳島の盆踊り

著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 ことのは文庫 出版年 2010年

※著者（著作権者）から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません

教科書2 書名 日本精神

I S B N 4-88202-379-2 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 1996年

参考書1 書名 おヨネとコハル

I S B N 4-88202-915-4 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 2004年

参考書2 書名 モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯

I S B N 4-88202-558-2 著者名 岡村多希子

出版社 彩流社 出版年 2000年

オフィスアワー marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jpまで電子メールで問い合わせてください。※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。

同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Le1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000131)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題 Themes 知プラe科目 ユーラシア大陸における 人と金属生産の関わり Involvement of people and metal production in Eurasia	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 村上 恭通	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】銅, 鉄, 起源, ユーラシア大陸, 考古学			
今から約10000年前、西アジアにおいて自然銅が利用されるようになり、人は金属の価値に触れることとなりました。その後、鉱石を製錬して銅を得るまでに数千年、さらに鉄を製錬するまでに数千年と、長い時間をかけて古代人は金属を生活の中に取り入れるようになりました。その過程で金属の技術、価値は大きく変わってきます。また西アジアからユーラシア草原地帯を経由して北アジアやわれわれが生活する東アジアに金属が到達するまで、その技術や価値はまた大きく変わりました。金属の技術や利用法は地域の文化や環境に応じて多様に展開したのです。発掘によって地中から現れたものを対象としながら、金属の技術や利用のあり方を通じて、ユーラシア大陸のダイナミックな歴史をみなさんと味わうことができればと思います。			
授業の目的			
考古学的な資料をもとに金属の技術や価値の移り変わりを理解する。			
到達目標			
金属が古代社会の発展に与えた影響や金属の価値が地域によって多様であったことを説明できる。 多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識を身につける。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①人間と金属の出会い ②鉱石製錬のはじまり ③鉄の起源 ④鉄製品の普及 ⑤東アジアにおける金属文化の幕開け—中国を中心に— ⑥中国の青銅器文化と鉄器文化 ⑦青銅と鉄—朝鮮半島から日本へ— ⑧技術復元から金属生産を考える			
【授業時間外学習について】 アジア古代産業考古学研究センターのホームページ (http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/) や愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画に字幕あり。動画の音声文字を文字おこしたテキスト資料 (PDF) あり。			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000201)	主題科目	3Q金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cba	
心の健康と援助 ―臨床心理学の観点から― A Mental health and support A	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 林 智一, 山田 俊介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】心の健康と援助 現代社会は、物質的にも経済的にも豊かとなった。しかし、私たちは、健康的で幸せな日々を過ごしているであろうか？忙しい毎日の中で心の豊かさを持ち得ているのであろうか？本授業では、現代社会に生きる私たちの心の健康と援助について、臨床心理学やカウンセリングの視点から捉え直したい。そして、受講者1人ひとりがどう生きてきたのか、どう生きるのかについて、自分の問題として“立ち止まって”考える機会としてもらいたい。			
授業の目的			
現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学ぶ。			
到達目標			
1. 心の健康や問題に関する基礎的な概念について説明することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. 現代社会における心の健康や問題について、自己と関連づけて探求することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート（20％）、レポート（20％）、試験（60％）。3回の欠席によって不可となります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 適応と不適応 第2回 健康なパーソナリティ① 第3回 健康なパーソナリティ② 第4回 映画『ビューティフルマインド』―心の病とともに生きる①― 第5回 映画『ビューティフルマインド』―心の病とともに生きる②― 第6回 レポートのピアレビューと発表 第7回 カウンセリングとはなにか 第8回 まとめ＋定期試験			
【授業及び学習の方法】 現代社会と心の問題について、講義中心に進めます。適宜、資料を用います。毎回の授業の最後に、ミニレポートを記録してもらいます。次の授業で、ミニレポートに記された質問などに対応します。 また、適宜、グループワークを導入します。それも、カウンセリングの基礎となるコミュニケーション能力の涵養や自己理解の深化に益する機会となります。 基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を一部または全てを遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～3回 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、健康なパーソナリティについて考察すること（準備学習2時間×3回＝6時間、事後学習2時間×3回＝6時間） 第4～6回 映画とそれに関連したミニレクチャーを手掛かりに、心の病について関心を持ち、理解を深めること（準備学習2時間×3回＝6時間、事後学習2時間×3回＝6時間） 第7回 授業内容や紹介した文献等を手掛かりに、カウンセリングの技法と理論について整理すること（準備学習2時間、事後学習2時間） 第8回 配布した資料や紹介した文献、ミニレポートなどを手掛かりに、振り返りや整理をすること（準備学習1時間、事後学習1時間）			
教科書・参考書等			
資料などを配付します。また適宜、参考書を紹介します。			
オフィスアワー 授業終了後に、教室で質問を受けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―（その1）（その2）」及び令和元年開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から― A、B」、令和2年度開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―」、令和3年度「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―A」と内容			

が重複するため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

心の問題と深く関わるので、自分の問題として捉える姿勢が望まれます。他の受講者に迷惑にならないように私語を慎み、真摯な態度で臨むこと。

教員の実務経験との関連

公認心理師・臨床心理士資格を有し、心理援助を経験してきた教員が、臨床経験も踏まえながら授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000217) 主題 Themes 心の健康と援助ー臨床心理学の観点からー B Mental health and support B	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 竹森 元彦, 橋本 忠行	関連授業科目 心の健康と援助ー臨床心理学の観点からー A		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×6回+授業45分×2回+自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】心の健康と援助 この授業では、21世紀社会の諸課題として心の健康と援助を取り上げます。心の健康や援助を中心的に扱う学問の1つに、臨床心理学があります。臨床心理学は、「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の一領域」(野島, 1995)と定義されます。本科目では、その基礎を概説し、現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学びます。			
授業の目的			
臨床心理学の基礎に触れることを通じて、多様な人間理解の方法を深める。心の健康と援助についての基礎的な考え方を身につける。実習を通して、臨床心理学における倫理の基礎を学ぶ。			
到達目標			
1. 心の健康と援助に関する基礎的な考え方について説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 心理アセスメントの基礎的な考え方について説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 対人コミュニケーションに必要な倫理観について説明できる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準 テスト45%、レポート45%、授業中の取り組み10%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 こころの理解①: 心理アセスメントとは 第2週 こころの理解②: 心理アセスメントの実習 第3週 カウンセリングの基礎知識 第4週 ロールプレイによるカウンセリングの実習 (45分) + 第1週～第3週までのまとめテスト (45分) 第5週 現代社会とカウンセリング 第6週 映画の臨床心理学① 第7週 映画の臨床心理学② 第8週 グループワーク (振り返り) (45分) + 第5週～第7週までのまとめテスト (45分間) 【授業及び学習の方法】 講義、実習、映画の視聴などを中心に進め、適宜グループワークを取り入れます。基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。資料は適宜、配布します。 【自学自習に関するアドバイス】 第1～4週 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、心理アセスメントとカウンセリングについて考察すること 第5～8週 配布した資料や紹介した文献、映画等を手掛かりに、カウンセリングとは何か、こころの支援の在り方について関心を持ち、理解を深めること			
教科書・参考書等 適宜、紹介します。			
オフィスアワー 橋本: 火曜日12:00-12:50 医学部キャンパス橋本研究室 (講義棟3F)、竹森: 火曜日12:00-12:50 医学部キャンパス竹森研究室 (講義棟3F)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
課題等、積極的に取り組んでください。授業回数の3分の2以上の出席がない場合、定期試験等の評価は受けられません。 本授業の内容は、2018年度以前開講の「心の健康と援助ー臨床心理学の観点からー (その1) (その2)」及び2019年開講の「心の健康と援助ー臨床心理学の観点からー A、B」、2020年度開講の「心の健康と援助ー臨床心理学の観点からー」と内容が重複するため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			
教員の実務経験との関連 橋本は、医療分野、司法分野、教育分野等での臨床経験を持つ。竹森は、精神科・心療内科クリニックに非常勤勤務している。その臨床経験を参照にそて講義と演習を行う。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Eg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000202)	主題科目	2Q金1	
主題 Themes			
「教育」と「情報/ICT」について考えよう Trying to investigate "Education" and "Information/ICT"	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 松下 幸司	関連授業科目 教育の方法と技術(教職科目)		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】教育、ICT 【授業の概要】教育現場でのICT環境整備・活用が進められている現在。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え分析的に整理した上で、情報伝達プレゼン作成等を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。(※「教員が教える授業」ではなく、「身近な素材を手掛かりに、受講者相互に気づきや考えを共有し高め合う授業」です。この授業方法の趣旨を十分理解の上、受講してください。(「教えられる」ことを期待する場合は、受講を控えてください。))			
授業の目的			
教育の営みの核は「伝えること」「伝え合うこと」とも言える。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え、グループワーク等で分析的に整理する。成果をふまえ、情報伝達プレゼン作成を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。			
到達目標			
(1)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考えることができる。 (2)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、グループワーク等で分析的に整理することができる。 (3)上記(1)(2)の成果をふまえ、見出した大切な要素を活かして、情報伝達プレゼン作成ならびにプレゼンテーションを行うことができる。 (4)上記(1)～(3)の学習活動過程において適切な自己評価・相互評価を行い、さらに自己を磨き高めようとする姿勢を持つことができる。			
■主題科目に対応する[共通教育スタンダード] : 「問題解決・課題探求能力/21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」 ■上記[共通教育スタンダード]の到達基準 : 21 世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。			
成績評価の方法と基準			
毎時間の個人の成果まとめ(ワークシート)+グループワーク等の成果物、最終成果物(情報伝達プレゼン+レポート)に加え、授業に参加する積極的姿勢を総合して判定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は、全回、対面にて授業を行います。講義形式だけでなく、演習・実習を軸に授業をすすめます。受講生の授業時間外における主体的な学習を促すための自主課題を求めます(詳細は該当授業時に説明の予定)。 (1前半)オリエンテーション (以下、概要予定。受講生とのコミュニケーションをもとに授業をすすめます。) (1後半+2前半) [1]文字や文について考えよう。 (2後半+3前半) [2]図表について考えよう。 (3後半+4前半) [3]イラストについて考えよう。 (4後半+5前半) [4]写真について考えよう。 (5後半+6前半) [5]情報の構成について考えよう。 (6後半+7前半) 最終課題の計画と作成 (7後半+8前半) 最終課題プレゼン発表会 (8後半) まとめ・最終課題について 【自学自習に関して】 自学自習については、授業時間内に取り扱ったテーマに即して、調査活動(各回授業前30分)+資料収集(各回授業前60分)、webサイト上における情報共有・検討活動の後、個別総括演習(90分間)などを予定しています。具体的な内容・方法については、初回オリエンテーションならびに各授業時間において指示します。			
教科書・参考書等			
必要に応じて、講義中に示します。			

オフィスアワー 電子メールでの連絡を基本とします。電子メールアドレスは初回オリエンテーションで周知するほか、moodleに記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業への出席はもちろんのこと、主体的・積極的に「情報を伝える・伝え合うために大切な要素」について分析的に考え、他受講生と協働して問題解決しようとする姿勢と、積極的な授業参加を期待します。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Eg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000203)	主題科目	3Q金1	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	
幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち Japanese culture and children's development from perspective of early childhood education and care	分野 主題	DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 松井 剛太	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×8回+自学自習 (準備学習16時間+事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】 幼児教育、日本文化 本授業では、受講生が日本の幼児教育における教師の特徴を理解することを通して、「日本人らしさ」とは何かを議論し、探求する。授業の方法としては、事前にテキストを担当箇所を講読し、レポートにまとめて、グループワークを通して内容を深める。			
授業の目的			
本授業は、グローバル社会の下で、多様な国々の文化に触れて共生することが求められるなかで、受講生が日本人として有しているアイデンティティは何か、また幼児期からの教育を通して、どのように日本人らしさが形成されているのかを認識することを目的とする。そのため、テキストの内容を理解し、自らの意見をまとめ、他の受講生との討議によって深める。			
到達目標			
1. 「日本人らしさ」とは何かを感じ、グローバル社会のなかでどのように生活するのかを考察することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. テキストの講読とレポートの作成を通して、自分の意見を記述することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. グループワークを通して、自分の意見を述べるとともに、他者と協調しながら集団の考えを系統立てて示すことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
成績評価は、毎回のレポートとグループワークをまとめたポートフォリオで行う。 (レポート60%、グループごとにまとめたポートフォリオ40%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 幼児教育のエスノグラフィから見えること 第2回 見守る 第3回 気持ちに寄り添う 第4回 集団性 第5回 身体文化 第6回 幼児教育者の専門性 第7回 文化としての幼児教育 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、テキストの講読によるレポートとグループワークで構成します。 各回では、テキストの以下の章を事前に講読しレポートを作成したうえで参加します。なお、この科目は基本的に対面授業を行います。状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回 はじめに、目次、序章 (p3-35) *レポートの作成は不要 第2回 第1章 (p37-57) 第3回 第2章 (p59-76) 第4回 第3章 (p77-101) 第5回 第4章 (p103-128) 第6回 第5章 (p129-158) 第7回 第6、7章 (p159-196)			
【自学自習のためのアドバイス】 レポートの作成方法は、第1回の授業で示す。 内容としては、自分の考えるキーワード、該当箇所のなかで特に印象に残った部分の要約、該当箇所を読んで考えたこと、の3つを課すこととする。最初にすべてを通読したうえで、各回の該当箇所を再読することを推奨する。自身の経験と主観を交えて構わない。			

教科書・参考書等

書名 幼児教育のエスノグラフィ：日本文化・社会のなかで育ちゆく子どもたち
著者名 林安希子 ジョセフ・トービン
出版社 明石書店
出版年 2019年
価格 2700円＋税

7章立ての書籍で毎回各章のテーマについて議論する。

オフィスアワー 月曜日1時限目
教育学部8号館5階 松井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業では、受講生の皆さんが毎時間テキストの内容をまとめてレポートとして持参し、それをもとにグループでの議論を行います。そのため、授業に来ても事前に作成したレポートを持っていなければ出席とはみなしません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000204)	主題科目	4Q金1	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
自己形成と他者をめぐる問題 Problems with self-formation and others	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 櫻井 佳樹	関連授業科目 教育原論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】自己形成 自己形成とは生きることそのものです。見通しがたい21世紀社会において、我々はいかに生きていくべきか。混迷する社会において、人が生きる上で、紛れもなく重要な役割を果たすのは、「自己」それ自体でしょう。さてこの「自己」とはいったい何なのか。自己は単数なのか、複数なのか。いかに自己は形成されるのか。「汝自身を知れ。」これは哲学の最も根本的な指令でしょう。本授業では、あまりに自明であるがゆえに問うことの少ない「自己」の謎を自己形成と他者の視点から考えていきます。			
授業の目的			
本授業は、「自己形成と他者」をめぐる諸問題について教育哲学的に捉える視点を養うことを目的としています。自己形成と他者をめぐる問題は、哲学、心理学、社会学、教育学等、様々な観点からアプローチ可能です。本授業を通して、当該の問題に対する諸学の理論や考え方を理解すると共に、それらを用いて様々な視点から総合的(教育哲学的)に問題の解決策を提示することができるようになることを目的とします。それらを通して、混迷する21世紀社会においていかに生きるべきかについて、多面的なものの見方を習得することが可能となります。			
到達目標			
1. 自己形成と他者をめぐる問題についての諸学の理論や考え方について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 自己形成と他者をめぐる問題の解決のために何が必要とされるのか、自己と関連づけながら説明することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小レポート40% 最終レポート60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション:自己と向き合う 第2回 経験について 第3回 教養について 第4回 成長する自己とそれを支える他者 第5回 自己意識と自己形成 第6回 自我の社会学1 自己と他者の相互作用(コミュニケーション) 第7回 自我の社会学2 演技する自己、苦悩する自己 第8回 まとめ:自己形成の勧め(45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。毎回授業で考えたこと、疑問に思ったことを小レポートにまとめ、提出します。			
【自学自習のためのアドバイス】 下記教科書の当該箇所を通読しておくこと、また取り上げる人物について調べておくこと。 第1回:第1章「自分とは何か」ー「自我の社会学」の課題 (ヘーゲル) 第2回:第2章「鏡に映った自我」ー鏡としての他者 (森有正、クーリー) 第3回:第5章 自我の形成ー役割取得 (ミード和辻哲郎) 第4回:第6章「ホモ・ソシオロジクス」 (フロイト、エリクソン、ルソー、尾崎豊) 第5回:第7章 相異なる他者の期待「役割コンフリクト」 (木村敏、西田幾多郎、ジンメル、ルーマン) 第6回:第8章 レッテル貼りされる自我「ラベリング」 (ブーバー、ハーバーマス) 第7回:第12章 演じる自我/装う自我ー「印象操作」 (ゴフマン、ホックシールド) 第13章 他者の期待から離れる自我ー「役割距離」 (フロム、ヴァン・デン・ベルク) 第8回 第14章 新しい自我の形成 (石田春夫)			
この科目は基本的に対面授業で実施します。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へと変更する可能性があります。			

教科書・参考書等

教科書：船津衛著（2011）『自分とは何かー「自我の社会学」入門』恒星厚生閣、1900円+税。

参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 金曜日2時限目(10:30-12:00) 教育学部8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。無断欠席、遅刻厳禁。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000205) 主題 Themes 子どもの視座から教育を考える Thinking about Education from a Child's Viewpoint	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山岸 知幸	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】教育課題 この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、学習論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。			
授業の目的 21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる。			
到達目標 1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 コメント・ワークシート(毎時の授業終了時に提出)60%、小レポート40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 我が国における「教育」の変遷ー戦後新教育から現在までー 第2・3回 子ども論ー受容とは、子ども理解とはー 第4・5回 学習論ー学びのあり方とは、価値観形成とはー 第6・7回 部活動論ー個と集団との関係性とは、教師の指導性とはー 第8回 まとめと小レポート作成			
【授業及び学習の方法】 配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めてください。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 我が国の戦後教育史の年表を各自の視点から完成させる。 第2・3回 配付資料を精読するとともに、近年の受容や子ども理解に関わる論文もしくは著書を探し、比較・検討しながら考察する。 第4・5回 近年の学習論に関わる論文もしくは著書を探し、授業時に紹介できるように整理・準備する。 第6・7回 それぞれが興味をもっている部活動に関わる新聞記事を集め、授業時に紹介できるように整理・準備する。			
教科書・参考書等 毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。			
オフィスアワー 木曜日4校時 教育学部附属教職支援開発センター1階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lb1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000214)	主題科目	4Q金2	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	
機能性食品と健康 Functional foods and health	授業形態 講義 ブレンディッドラーニング	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 米倉 リナ	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・グループワーク・演習 90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
現代社会は「食」に関する情報があふれる中、「機能性食品からどのような効果を期待できるのか」、「どの成分が機能をもたらすのか」という問いに答えるのは簡単な課題ではなく、他分野にわたる知識とクリティカルシンキングが必要とする。この授業では、機能性食品に含まれる主な機能性物質について、1) どのような物質なのか、2) どんな食品に含まれているのか、3) どのような科学実験で生理的機能性を証明できるのかについて講義する。また、講義で提供した知識を基盤に身近にある機能性食品やスーパーフードと知られている食品についてグループワーク等を通じて議論を行う。各トピックに対する問題点、自分なりに考えた解決策をまとめて考えていく。 【キーワード】機能性食品、健康、科学的エビデンス			
授業の目的			
食品化学の基礎的知識を提供し、機能性食品に関する情報を見極める能力を身に着ける。広告等に振り回されることなく「食」と「健康」に関する諸問題を理解すると共に、それらを用いて問題の解決・解消策を提示できるようになる。			
到達目標			
1. 機能性食品に関する諸問題を発見し、解決・解消策を提案できるようになる（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. 機能性食品に含まれている主な機能性成分について説明することができる（「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 3. 自分の主張をわかりやすく、ロジカルに説明することができる（「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
グループ発表50%（特に到達目標1, 3に対応）、講義型の授業で提出するミニレポート50%（特に到達目標2に対応）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第 1回 ガイダンス、様々な観点から見た機能性食品、栄養素と機能性成分の違い 第 2回 栄養素について 第 3回 食品から期待できる生理的機能とは 第 4回 機能性物質の種類: カロテノイド類、ポリフェノール、他 第 5回 グループワーク: 効果的なスライド作り+ディスカッション 第 6回 グループワーク: オリエンテーション+資料作成 第 7回 グループワーク: オリエンテーション+資料作成 第 8回 グループ発表 【授業及び学習の方法】 前半は講義中心に進めますが、後半は受講生の理解を助けるためグループワークを取り入れてる。また、各グループが取り上げた諸問題をまとめ、スライド等を用いて発表を行う。 【自学自習のためのアドバイス】 第5回 事前にインターネット等のメディアを検索し、発表のテーマに使用したい話題を紹介できるようにする（例: 科学的根拠はなさそうですがブームを引き起こしている食品、スーパーフードとしてし有れているが、どの成分がこういった効果をもたらすのか、等。 第6回 第5回から6回までの間に各グループ発表資料を作成する。			
教科書・参考書等 参考書等は授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー 金曜日（16:00～17:00）事前にメールで連絡すること（農学部CW301-3）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ グループワークは全員積極的に参加して下さい。			
教員の実務経験との関連			
機能性物質の消化、吸収性と機能性評価について長年研究を行ってきた。大学院でも食品機能について毎年講義を行っています。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000206)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 1Q月5	対象年次 1～
主題 Themes 心と身体の関係と医療 Mid-body correlation and medical care	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 神原 憲治, 太田 美里, 山下 明子	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 心と身体, 心身医学, 精神医学, 臨床心理学 本講義では「心と身体の関係」をテーマに、その機序や実際について概説し、医療における疾患や健康における意義、ストレスマネジメントとの関連、医療における諸問題等について、心療内科・精神科・心理臨床に携わる医師や心理職の立場から臨床経験に基づいて講義を行います。したがって、テーマに関して、単なる理論よりも実践的臨床的な理解を目指します。			
授業の目的 心と身体とは密接不離な関係にある。心と身体関係を理解することは、ストレス社会と言われる現代を生きる上でストレスマネジメント等において重要である。医療においては、ストレスに関連する疾患がその比重を増し、様々な身体疾患においても心理的側面の重要性が高まっており、ストレスと疾患や健康との関係について理解することが課題となっている。このように重要性が高まっている心と身体関係について、その医療における意義を中心に概説し、知識と理解を深めることを目的とする。			
到達目標 ・心と身体関係(心身相関)の基礎的概念やその機序の概要について説明できる(香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・ストレスの身体への影響及びストレス反応について説明できる(香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・心と身体関係について、医療における意義及び心身の健康について理解できる(香川大学共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み及び最終レポートにより評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (担当者) 第1回 INTRODUCTION:心と身体関係をめぐる問題(神原) 第2回 心と身体関係の生理(神原) 第3回 ストレスと身体(神原) 第4回 重篤なストレスに対する心と身体反応(太田) 第5回 心の健康(太田) 第6回 精神医療について(未定) 第7回 精神医療と心理支援(山下) 第8回 ライフスタイルと医療・まとめ(神原) 【授業及び学習の方法】 ・この科目は基本的に遠隔授業を行います。一部の授業回では対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 ・授業は講義中心に進めますが、担当者の判断で、ミニレポート、グループワーク、小テストを行うことがあります。 【自学自習のためのアドバイス】 第1-2回 参考書①③を参考に、「心と身体関係」について準備学習及び復習を行う。 第3回 参考書②について準備学習をしておく。 第4回 心的外傷後ストレス障害の主要な症状について、参考書④やインターネット等を用いて調べておく。 第5回 ストレスへの対処法について、インターネット等を用いて調べておく。 第6-7回 精神医療について、インターネット等を用いて調べておく。 第8回 第1-7回について復習を行い、最終レポート作成の準備をしておく。			
教科書・参考書等 <参考書> ①心身医学標準テキスト 第3版, 久保千春編, 医学書院, 2009 ②ストレスの肖像 環境と生命の対話, 林峻一郎, 中公新書, 1993 ③バイオフィードバックとリラクゼーション法, 竹林直紀・神原憲治・志田有子, 金芳堂, 2011 ④PTSDとトラウマのすべてがわかる本, 飛鳥井 望, 講談社, 2007			

オフィスアワー アポイントメントにより対応します（医学部基礎臨床研究棟心身医学）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自発的、積極的な学習姿勢を期待します。

教員の実務経験との関連

心療内科医/精神科医, 臨床心理士/公認心理師としての臨床経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000207)	主題科目	3Q木6	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
脳と体の健康について Health of the brain and the body	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目		
上野 正樹, 星野 克明, 鎌田 正紀, 千葉 陽一, 村上 龍太, 宮井 由美	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(ミニテスト時間を含む) x 7回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間) + 講義45分 x 1回 + 試験(まとめのレポート作成) 45分			
授業の概要			
[キーワード] 健康・脳・発達・ストレス・免疫 ヒトは年をとると、遅かれ早かれ様々な病気にかかることになります。肉体の不調のみならず、精神的にまいることもあります。その人間の体と脳の健康を保つためには、どのようなことに気をつけるべきなのでしょう。か?その疑問に答えるべく、脳と体の基本的な仕組みとそれが崩れた時の病的状態を学び、脳と体を健康に保つための方策について、考えていきます。			
授業の目的			
脳と体の健康を保つ仕組みとそれが崩れた時の病的状態を学び、そして、それを防ぐにはどのようにしたら良いのか、自分自身で考えることで、自らの健康は自分で管理できるようになる。			
到達目標			
1. 脳と体の健康を保つ仕組みを知る。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 脳と体の健康が崩れた病的状態を知る。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 脳と体の健康を保つため心がけることを自分なりに考える。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
7回の小テスト(ミニレポート) 70%、最後の講義でのまとめのテスト(レポート) 30%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本授業は全て講義で構成されます。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画に記載のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15～30分程度をミニレポート作成や小テストの時間に当てます。 8 回目に、まとめのレポート作成を行います。			
第1回 : (上野) 脳と体の健康(序論) 第2回 : (千葉) 老化を科学する: 基礎老化研究入門 第3回 : (鎌田) 神経系が障害された時に見られる症状を動画を使って解説する 第4回 : (星野) 自分の体を感染症から守る仕組み(免疫)とは? 第5回 : (宮井) ヒトパピローマウイルスと子宮頸がんとの関連—子宮頸がんワクチンと子宮頸がん検診の重要性について— 第6回 : (村上) 体の修復について 第7回 : (村上) 治癒と再生 第8回 : (上野) 脳と体の健康(まとめ) と試験(まとめのレポート)			
講義内容がわかりにくかった際は、復習を兼ねて自学自習することが望まれる。			
この科目は原則として全回対面授業を行います。尚、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
＜自学自習のためのアドバイス＞ 尚、授業で扱われる、脳一般(第1回)、神経変性と老化の神経病理学的特徴(第2回)、実際の神経系が障害された時の症状(第3回)、免疫の仕組み(第4回)、子宮頸がんワクチンと子宮頸がん検診(第5回)、体の修復(第6回)、治癒と再生(第7回)、そして、どうすれば脳や体の老化に対処できるのか(第8回)、は、いずれも専門的な内容であり、インターネット等を活用し復習することが望ましい。日本神経病理学会のホームページ(www.jsnp.jp)には種々の神経変性疾患の説明が記載されているので、それを活用してほしい。			
教科書・参考書等			
領域が広範にわたるため、特に指定しません。講義資料は配布する場合があります。			
オフィスアワー 指定は不可能なので、炎症病理学講座(nibyouri-m@kagawa-u.ac.jp)まで。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
知識を得た後は、自分の考えを持ってください。			

教員の実務経験との関連

鎌田は現役の神経内科医で、上野、千葉、村上、宮井は、病理医であり、かつ、現在も医師として診療従事しています。星野は、免疫学の最高のspecialistです。6人とも、その分野の専門家として講義を行います。当日は、いろいろ質問してください。

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-Lp1 授業科目名 (時間割コード: 000208) 主題 Themes 栄養学のすすめ Nutrition	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 PBL	時間割 2022年度 2Q金2 提供部局: 大教センター DPコード: cab 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 畦 五月	関連授業科目 生物学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回＋自学自習(準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要 栄養学は、小・中・高等学校家庭科で既習済みの内容である。しかし、受験教科ではないため、その内容を忘れていた人を多く見受けられる。大学生生活になり、生活習慣が変化し、あるいはコロナ禍での自炊生活で、自分の食生活を見直す機会を持った人も多いと思う。 栄養素の基本的知識や、偏った栄養摂取で発生する疾病を学習した上で、栄養バランス、食材の組合せの方法を知り、健康を維持していくために自分(家族)の食生活を見直し、改善方法を見つけ、実践(改善)していきましょう。 キーワード: 栄養素、機能、食生活、健康			
授業の目的 現代の栄養の情報は氾濫し、混乱し、フェイク情報が入り混じっている状態ともいえる。そこで、五大栄養素の知識を理解し、身につけた上で、誤解している栄養学の知識に振り回されていないか、偏った食生活になっていないか、自らの食生活の見直しを行い、その問題点に気づき、解決方法を提示でき、実践できるようにする。			
到達目標 ・五大栄養素の働きについて説明し、記述できる(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) ・栄養バランスについて説明し、自らの食生活の改善点を見つけることができる(同上) ・食品の組合せと栄養バランスについて説明することができる(同上) ・偏った栄養摂取による疾病について説明し、その予防策を記述することができる(同上) ・自らの食生活の課題を見つけ、解決方法を探り、実践することができる(「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・改善点をわかりやすく記述することができる(「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎時間行う小テスト20%(毎時間の学習内容とそれを応用した内容から出題するため、授業外学習、毎回の積極的な参加が必要となる) 授業他提出を求めるレポート 30% レポート50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. オリエンテーション、食品の成分とは 2. 糖質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 「低糖質ダイエット」は果たして有効かなど 3. タンパク質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 4. 脂質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 5. ビタミン、ミネラルの働き 自分の食生活の課題に気づく 「野菜先食べ」は糖尿病の予防に有効かなど 6. 栄養バランスの見極め方 自分の食生活の課題に気づく 「無関心」から招く欠乏症など 7. 自らの食生活の課題解決方法を探る(プレゼンテーション) 8. まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義形式で進めますが、理解を深めるためグループでのディスカッションの時間を適宜設けます。毎回の授業の最後には、小テストを課し、講義で学んだ内容と授業外学習で学んだ内容についての定着をみます。そのため、授業外学習は不可欠です。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 1回. 食品の成分は何かを調べ、紹介できるように準備する 2－5回. 5大栄養素の機能を説明できるようにする。その上で、偏った栄養素の摂取で発生する疾病を調べ、発表できる 6回. 栄養バランスの評価基準を使用し、自らの食生活の課題を見出し、整理する			

7-8回. 自らの食生活の課題を解決する方法を考え、実践し、記録に残す
教科書・参考書等
授業時に紹介する
オフィスアワー メール連絡の後、来室(8号館 3階) してください
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
化学式を使って授業が行われることがありますので、注意が必要です。 毎回の出席代わりの小テストが成績にそのまま結び着きますので、欠席はしないように。 日々の生活そのものが、栄養学の内容となるので、食生活の情報に興味を持ってください。但し、その情報が正しい情報かどうかを確認しながら、生活することが大切です。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000215) 主題 Themes こころとからだの科学 Psychology and Health Science	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 4Q金2 提供部局: 大教センター DPコード: cbx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 鎌野 寛	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 心身の健康科学 我々が社会的にも文化的にも豊かな生活を送る上で、心身の健康を自然科学的および人文科学的に分析することは重要なことである。世の中にはいわゆる「健康」といわれる状態にある人もいれば、「不健康」といわれる状態にある人もいるが、大切なことは、「心身の健康状態を自らの人生の中にどのように位置づけるか」、あるいは、「どのようにマネージメントしていくか」ということなのではないだろうか。 この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネージメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、「心身の健康科学」という自然科学的・人文科学的テーマから概説していく。			
授業の目的 心身の健康科学について、青年期や大学生活に関係する事柄を具体的に学ぶことで、心身両面から健康に対する関心を高め、より身近な自然科学的・人文科学的な問題として理解を深めることを目標とする。			
到達目標 1. からだの健康・疾患・疾患予防について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 2. 青年期におけるこころの健康について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 1, 2は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。			
成績評価の方法と基準 ① レポート提出を求める。 ② 授業中に小テスト、小レポートを実施することがある。 ③ 保健管理センターが主催し学内で行われるヘルストピックス講演会出席が必須である。出席できない場合はそれに代わるレポート提出が必要である。 ④ 成績評価; 学期末のレポート40%, 授業中の小テスト・小レポート及びヘルストピックス講演会出席60%。 ⑤ 毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 生活習慣病の科学 (1) 第3回 生活習慣病の科学 (2) 第4回 からだに関する様々な問題 (1) 第5回 からだに関する様々な問題 (2) 第6回 こころとからだに関する様々な問題 (1) 第7回 こころとからだに関する様々な問題 (2) 第8回 まとめ この科目は対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 <自学自習のアドバイス> ① 自学自習としてヘルストピックス講演会に出席することが必須です。ヘルストピックス講演会の日程等は授業で説明します。ヘルストピックス講演会に出席できない場合は指定されたレポートを提出することが必要です。レポートの内容、提出期限等については授業で説明します。 ② 第1回 オリエンテーションで出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第2回 生活習慣病の科学 (1) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第3回 生活習慣病の科学 (2) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第4回 からだに関する様々な問題 (1) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第5回 からだに関する様々な問題 (2) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第6回 こころとからだに関する様々な問題 (1) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第7回 こころとからだに関する様々な問題 (2) で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第8回 まとめで出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(2時間)			

③ 図書、文献を用いて調べるときに、古い図書や文献を読んだ場合、現代では学説が変化している場合があるので、複数の新しい文献を用いて確認しましょう。

④ インターネットの情報をを用いて調べる場合は、大学、研究機関、学術機関、政府機関など信頼の置ける情報をを用いて調べましょう。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布します。

オフィスアワー 教員に用のある場合、保健管理センター事務室に連絡してください。場所：幸町南キャンパス 電話：087-832-1282

月～金曜日9:00-17:00、但し国民の祝日・休日・年末年始・大学休業日を除きます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「こころとからだの科学 その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

受講者希望者の人数によって受講調整を行うことがあります。

授業の進行状況によって授業内容は多少変更されることがあります。

教員の実務経験との関連

香川大学保健管理センターに所属。心身の健康相談を担当。保健管理センターの実務経験に基づき心身の科学についての講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000216) 主題 Themes 筋肉の科学 Science of Muscle	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q金2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 石川 雄一	関連授業科目	履修推奨科目
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備15時間、事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 筋肉 貯筋 健康 スポーツ選手ばかりでなく、最近は老若男女が積極的に筋トレに励むようになってきました。ウォーキングをはじめとする有酸素運動ばかりでなく、筋肉を鍛えることがダイエットに効果的であり健康にもプラスになるという認識も浸透しつつあります。体重の約40%を占める筋肉は身体を動かすだけでなく、人間が生きていく上で様々な役割を果たします。講義では、筋肉の性質、運動の仕組み、筋肉のトレーニング方法などについて解説していきます。			
授業の目的 筋肉についての様々な知見を知ることにより、現代社会の科学と人間の関わりを理解することを目的とする。筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応について考えをとりまとめられることを目標とする。			
到達目標 ・筋肉についての様々な知見を学び、現代社会における科学と人間の関わりについて理解できる。 ・筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応についての考えをとりまとめられることができる。 以上の到達目標は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応しています。			
成績評価の方法と基準 授業後に提出してもらう出席確認内容(50%)とクイズ形式の試験(50%)にて判定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス プロジェクターを用いて、講義形式で行います。 画面の撮影は可能です。			
第1回 筋肉は何故存在するのか(筋肉の役割) 第2回 筋肉の形状と機能(平行筋、羽状筋) 第3回 筋収縮の仕組みと形態(筋収縮様式) 第4回 筋線維タイプについて1(速筋、遅筋) 第5回 筋線維タイプについて2(筋線維組成とスポーツパフォーマンス) 第6回 筋肉の伸張性収縮について(SSC) 第7回 スポーツと筋パワー(筋力とスピード) 第8回 内分泌器としての筋肉(マイオカイン) クイズ形式の試験 なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。 ()は各講義のキーワードです。			
自学自習のアドバイス 第1回～7回 各時間の講義のタイトル・キーワードをもとに事前にインターネット等で調べてみましょう。(2時間) また講義で取り上げられた専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみましょう。(1時間) そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。(1時間) これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとに復習して試験に備えて下さい(2時間)			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔授業(Zoomによるライブ講義)へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 特に選定しない。 適宜、講義中に紹介する。			
オフィスアワー 月曜日の3時限目 研究室は教育学部5号館4階にあります。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナーを守る。 本授業の内容は、2018年度以前開講の「こころとからだの科学(その1)」と内容が重複するため、2018年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000209) 主題 Themes 人を動かすロジカルコミュニケーション Logical Communication to Influence People	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 4Q火1 提供部局: 大教センター DPコード: cax 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 山中 隆史	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備時間15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 人を動かすコミュニケーション 社会において一人で物事を推進していくことはできません。コミュニケーションを行うことで人に協力して動いてもらうことが不可欠です。人に動いてもらう説得力のあるコミュニケーションを行うには、客観的な視点で物事を正しく考え、伝えることができるロジカルなコミュニケーションの基本的な考え方を身につけることが大切です。さらに説得力を高めるには、論理に加え感情への配慮も重要です。 この授業では、前半でロジカルなコミュニケーションの基本を学び、ミニレポートを記載し発表を行うことで実践力を高めます。さらに、後半では、書籍（「人を動かす」）を用いながら、感情や非言語も含めた論理以外の観点も含めた人に動いてもらうためのコミュニケーション能力を養います。			
授業の目的 論理と感情の両面からコミュニケーションについて学びながら、人に動いてもらうコミュニケーションを行うためにどのような能力が必要なのか、考え、説明することができる			
到達目標 1. ロジカルな主張をおこなうための基本的なポイントを説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 社会の諸課題を的確にとらえ自分の主張をわかりやすく展開することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 論理以外に人を動かす上での工夫を自分の言葉で説明できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢 40% (到達目標①②③に対応)、クラス後のミニレポート30% (到達目標②に対応)、期末レポート30% (到達目標①②③に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション 第2週 イシューと枠組み 第3週 ピラミッドを活用して主張する 第4週 プレゼンテーションの実施 第5週 人を動かす3原則 第6週 人に好かれる6原則 第7週 人を説得する12原則 第8週 まとめ 【授業及び学習の方法】 講義とグループワークを組み合わせで行います。講義後は毎回、ミニレポートを記載し提出していただき、次の講義において、グループ内で発表していただきます。また、期末レポートも提出していただきます。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 講義後に毎回ミニレポート課題を出します。必ずミニレポート（600字以上）を作成し、期限までに香川大学Moodle (LMS)に提出してください。また、発表できるように準備してクラスに臨んで下さい。 第1、2、3回のクラス後 クラスの学びを活用し、次回授業時に発表できるようミニレポートを作成する（10時間） 第4、5、6回のクラス後 教科書（「人を動かす」）を読み、ミニレポートを作成する。（12時間） 第8回のクラス後 期末レポートを作成する（8時間）			
教科書・参考書等 教科書: D・カーネギー著(2016)『人を動かす』文庫版 創元社 715円 参考書は授業中に適宜紹介します。			

オフィスアワー 時間：火曜日第3講時（13:00～14:30）

場所：研究交流棟4階教員室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教科書の購入は必須です。第4週の授業から教科書を持参してください。
- ・毎回出席をとります。
- ・レジュメの配布等は香川大学Moodle（LMS）を利用して行います。
- ・受講時にノートパソコンを持参してください。

連絡先：yamanaka.takashi@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

大企業及びベンチャー企業に勤務しました。営業から総務、人事、経営企画業務まで幅広く担当。中小企業診断士としてのコンサル経験も含めた幅広い実務経験をもとに実践的なロジカルコミュニケーションの講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000210) 主題 Themes 知プラe科目 学校教員の世界 School Teacher's World	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
	担当教員名 竹口 幸志, 宮下 晃一	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 (1)教員養成, (2)学校教員, (3)学校教員としての資質・能力, (4)教員採用 キャリア教育の一環として, 様々な学部で学ぶ学生に対して学校教員という職業の魅力や課題を伝え, 学生が自らの将来設計のために大学で何を学ぶべきかに気付くための機会を提供します。			
授業の目的 本講義は, 学校教員の仕事の内容, 学校教員と子どものかかわり, 学校教員としての自己研鑽, 授業の様子などを取り上げ, 学校教員になるために今何をすべきかについて考えを深めます。			
到達目標			
1. 教員という仕事を理解する。 2. 教員の責任を理解する。 3. 教職の専門性を理解する。 4. 教員の授業研究や自己研鑽を理解する。 5. 自己のキャリア形成について主体的かつ具体的に考えることができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 成績評価の方法: レポート, 討論, 試験 成績評価の観点: レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力), 討論 (学びあい, 助け合い), 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等)。 成績評価の基準: レポート (40%), 討論 (30%), 試験 (30%) 注1: 指定された期日を過ぎて課題 (レポート, 討論, 試験を含む) を提出した場合, 提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期限内に提出してください。 注2: レポート, 討論, 試験等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合, 当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注3: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが, 内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 学校教員になるための準備 第3回 学校教員と子どもの取り組みについて 第4回 学校教員の自己研鑽 第5回 学校教員と家庭の両立 第6回 教科教育学 数学教育の今と今後 第7回 養護教諭の世界 第8回 特別支援学校における試み 第9回 教科教育学 保健体育の授業 第10回 教科教育学 外国語 (英語) の授業 第11回 教科教育学 音楽の授業 第12回 教科教育学 技術家庭科の授業 第13回 幼稚園教諭の1日 第14回 比較教育 他国の教育と日本の教育 第15回 まとめ 【授業時間外学習について】 学習習慣の定着と学習理解の促進のため, 予習と復習を勧めます。 【受講の条件について】 e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので, 操作に不安がある場合は, 所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。 なお, 本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン			

ン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

【受講期間について】

教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を十分に確認して受講してください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

【バリアフリー対応について】

動画の音声の一部文字起こしし、映像に表記しています。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー ・特に設けない。電子メール（ktakeguchi@naruto-u.ac.jp）で問い合わせてください。

・【教務に関する質問事項】は、所属大学の教務に問い合わせてください。

・【技術的トラブル】は、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【受講の辞退について】

受講調整期間中または履修取消期間中に所属大学 教務で手続きしてください。手続きが行われない場合、受講者として捉え、受講督促を行う場合があります。

【禁止事項について】

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000211) 主題 Themes 知プラe科目 大学教育を考える Thinking on University Education	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 吉田 博	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント (FD) 大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。			
授業の目的 大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。			
到達目標 1. 日本の大学教育の現状 (背景・課題) を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回のクイズ (15点)、毎回の小レポート提出 (15点)、他者のレポートへのコメント (15点)、コメントに対する返信 (15点)、期末レポート (40点) の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。 ※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信 (60点配点) については、次のように確認します。吉田担当の授業 (1, 4, 6, 7, 8, 9, 12回) の小テスト、小レポート、コメント等 (28点配点) は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業 (2, 3, 5, 10, 11, 13, 14, 15回) は、小テスト、小レポート、コメント等 (32点配点) は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。 ※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。 ※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。 ※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. ガイダンス、大学生へのメッセージ (吉田・久保田) 2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田) 3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田) 4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田) 5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田) 6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田) 7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田) 8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田) 9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田) 10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田) 11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田) 12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田) 13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田) 14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田) 15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田) 16. 定期試験 (レポート) ※担当講師: 吉田 博 (徳島大学高等教育研究センター)、久保田祐歌 (関西福祉科学大学社会福祉学部)			

【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/
教科書・参考書等 特になし
オフィスアワー 電子メール（hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp）で問い合わせてください。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Le2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000212)	主題科目	後期集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbd	
知プラe科目 現代科学と研究倫理 Modern science and research integrity	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用 本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。			
授業の目的			
科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じるようになってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。			
到達目標			
学生が大学でおこなわれている研究について理解を深めることができる。 研究の倫理について目を向け、自覚を持つことができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます(小課題)。単にビデオを視聴するだけではなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が5回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
①金西 計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス) ②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」 ③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」 ④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」 ⑤楊河 宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」 ⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」 ⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」 ⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」 ⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」 ⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」 ⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」 ⑫金西 計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」 ⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」 ⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」 ⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」 ⑯定期試験(レポート)			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 教科書1 書名 「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」			
著者名 『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)』出版社:丸善出版 出版年:2015			
オフィスアワー 電子メール (marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp※(a)→@) で問い合わせること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特になし			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000213) 主題 Themes 知プラe科目 文化心理学入門 An Introduction to Cultural Psychology	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし	
履修推奨科目 特になし			
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】心理学、教育、学習、発達、認知 心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。			
授業の目的			
心理学の歴史を知ること、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ること、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			
1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。			
成績評価の方法と基準			
毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。 ・合計点が60点以上である。 ・小レポートを5回以上提出している。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※授業内容は変更になる可能性があります。 1. 「科学的な方法」ってなに?－心の社会・文化・歴史性－ 2. 「個人」と「社会」はどちらが先か?－ピアジェとヴィゴツキーの考え方－ 3. 「道具」は何を変える?－「媒介された行為」の概念－ 4. 実験室は「真空」か?－心理学実験の生態学的妥当性－ 5. 世界がヒトに「語りかけてくる」?－生態学的心理学とアフォーダンス－ 6. 学習は「獲得」か?－状況的学習論－ 7. 学校はなにを教えるのか?－学校教育への社会・文化的アプローチ－ 8. 大人は子どもになにができる?－ポストモダンの発達支援－			
【授業時間外学習について】 毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 文化心理学－発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ－ I S B N 978-4788508170 著者名 マイケル・コール 出版社 新曜社 出版年 2002 金額 5,500+税			
参考書2 書名 社会と文化の心理学－ヴィゴツキーに学ぶ－ I S B N 978-4790715375 著者名 茂呂雄二・田島充士・城間祥子（編） 出版社 世界思想社 出版年 2011 金額 2,500+税			
オフィスアワー 問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000301)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes ITサービス概論 (基礎) IT service (General Lecture) (Basics)	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 沼田 秀穂	関連授業科目 ITサービス概論 (応用)		
	履修推奨科目 ITサービス概論 (応用)		
学習時間 講義90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 ITコミュニケーション この授業では、21世紀社会の諸課題として情報化社会におけるコミュニケーションのあり方について考えます。特に、情報技術が社会の中で果たしている役割と情報化社会の諸問題に重点をおいて、情報学および倫理の観点から概観し、情報化社会を生き抜くための適切な情報利用とコミュニケーションのあり方を探求します。			
授業の目的			
情報化社会におけるコミュニケーションにかかわる諸問題について、技術の進歩と社会の動きの両側面から捉えます。議論する力を養うため、当該諸問題を題材として主として、ITにかかわる情報学的側面とコミュニケーション論から見た考え方を理解するとともに、それらを用いて問題の解決・解消法を提示できることを目的とします。			
到達目標			
1. 授業で扱うコミュニケーションから見た情報学にかかわる諸理論を5つ以上説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 社会の諸問題の実態と背景要因を踏まえて、情報化社会を生き抜くための具体的な行動と提案が行える(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. エビデンスベースで論理的に自身の考え方をまとめて記述することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎授業ごとのミニレポート (50%)、確認試験 (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 情報とは (ガイダンス) 第2週 メディアと情報ネットワークと情報社会 第3週 コミュニケーションと情報ネットワーク 第4週 個人の行動と、社会との関わり 第5週 情報ネットワークから見たコミュニティ 第6週 情報化の影、倫理、個人情報 第7週 次世代ネットワーク環境とは 第8週 事例観察、ディスカッション、確認試験			
【自学自習の指示】 第2・3週 メディアの進化について情報を収集する。(10時間) 第4・5週 不適切投稿、情報の拡散事例を集め、その原因を整理する (10時間) 第6週 インターネット上での攻撃事例を集め、その原因を整理する。(5時間) 第7週 5Gを及ぼす影響について情報を集めて整理する。(5時間)			
【授業及び学習の方法】 授業は原則講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるためビデオ視聴、それに基づくディスカッション(グループワーク)を取り入れます。また、毎回、理解した内容にかかわるミニレポートを課し、講義やディスカッション・発表で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理をします。			
教科書・参考書等			
教科書は用いない。参考書は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業ごとのミニレポートで出欠を確認します。 ミニレポートはPCで行います。講義に必ず自身のノートPCを持ち込んでください。			
教員の実務経験との関連			
IT系シンクタンクを経営していました。ICTに関わる研究開発の実務経験をもとに、講義を行います。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000302) 主題 Themes ITサービス概論 (応用) IT service (General Lecture) (application) 担当教員名 沼田 秀穂	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 ITサービス概論 (基礎)		
	履修推奨科目 ITサービス概論 (基礎)		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 コミュニケーション この授業では、21世紀社会の諸課題として情報化社会におけるコミュニケーションのあり方について考えます。特に、情報技術が社会の中で果たしている役割と情報化社会の諸問題に重点をおいて、情報学および倫理の観点から概観し、情報化社会を生き抜くための適切な情報利用とコミュニケーションのあり方を探求します。			
授業の目的 情報化社会におけるコミュニケーションにかかわる諸問題について、技術の進歩と社会の動きの両側面から捉えます。議論する力を養うため、当該諸問題を題材として主として、ITにかかわる情報学的側面とコミュニケーション論から見た考え方を理解するとともに、それらを用いて問題の解決・解消法を提示できるようになります。			
到達目標 1. 授業で扱うコミュニケーションから見た情報学にかかわる諸理論を5つ以上説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 社会の諸問題の実態と背景要因を踏まえて、情報化社会を生き抜くための具体的な行動と提案が行える(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. エビデンスベースで論理的に自身の考え方をまとめて記述することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎授業ごとのミニレポート (50%)、確認テスト (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 情報とは (ガイダンス) 第2週 メディアと情報ネットワークと情報社会 第3週 コミュニケーションと情報ネットワーク 第4週 個人の行動と、社会との関わり 第5週 情報ネットワークから見たコミュニティ 第6週 情報化の影、倫理、個人情報 第7週 次世代ネットワーク環境とは 第8週 事例観察、ディスカッション、試験 【自学自習の指示】 第2・3週 メディアの進化について情報を収集する。(10時間) 第4・5週 不適切投稿、情報の拡散事例を集め、その原因を整理する (10時間) 第6週 インターネット上での攻撃事例を集め、その原因を整理する。(5時間) 第7週 5Gを及ぼす影響について情報を集めて整理する。(5時間) 【授業及び学習の方法】 授業は原則講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるためビデオ視聴、それに基づくディスカッション (グループワーク) を取り入れます。また、毎回、理解した内容にかかわるミニレポートを課し、講義やディスカッション・発表で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理をします。			
教科書・参考書等 教科書は用いません。参考書は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業ごとのミニレポートで出欠を確認します。 ミニレポートはPCで行います。講義に必ず自身のノートPCを持ち込んでください。			
教員の実務経験との関連 IT系シンクタンクを経営していました。ICTに関わる研究開発の実務経験をもとに、講義を行います。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000303) 主題 Themes 情報数学の基礎 Fundamentals of Information Mathematics	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木4	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+ 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】情報数学(離散数学) 情報数学はコンピュータサイエンス(計算機科学)および情報科学のための数学であり、離散数学ともいわれる。本授業では、情報数学におけるいくつかの代表的な事柄についてトピックス的に取り上げて分かりやすく説明する。また、毎回演習問題を解くことによって理解を深める。基礎的な内容であるので高校数学での関数や微積分等の知識はほとんど必要としないが、論理的思考能力は必要とする。			
授業の目的 授業計画に挙げた各項目: 2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数について理解することを目的とする。			
到達目標 2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数についての基礎的な問題が解けることを到達目標とする(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) 2進数と16進数 (2) 情報の表現 (3) 命題論理 (4) 組合せ論理回路 (5) グラフと行列 (6) 最短路 (7) 場合の数 (8) 授業のまとめ+試験			
【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
【自学自習のためのアドバイス】 (1) 2進数と16進数について調べてまとめる。 (2) 情報の表現について調べてまとめる。 (3) 命題論理について調べてまとめる。 (4) 組合せ論理回路について調べてまとめる。 (5) グラフと行列について調べてまとめる。 (6) 最短路について調べてまとめる。 (7) 場合の数について調べてまとめる。			
授業は対面で実施する。			
教科書・参考書等 特に指定しない。 「情報数学」、「離散数学」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa.yo@kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室: 工学部1号棟7階1701室(林町キャンパス)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「授業の内容は、平成30年度以前開講の「情報数学の基礎 (その1)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000304) 主題 Themes エクセルによる基本統計解析 Basic statistical analysis with Excel	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+ 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】統計 エクセル ノートパソコンでエクセルを用いて基本的な統計解析の実践について学ぶ。度数分布表とヒストグラム、記述統計量、散布図と相関係数、回帰分析、アンケートとクロス集計表、および、推測統計の基礎を扱う。エクセルの基本的な操作を習得している必要がある。毎回、ノートパソコンでエクセルを用いた演習を行うことによって理解を深める。			
授業の目的 授業計画に挙げた各項目: 度数分布表とヒストグラム、記述統計量、散布図と相関係数、回帰分析、アンケートとクロス集計表、および、推測統計の基礎について理解することを目的とする。			
到達目標 基本的な記述統計・推測統計の処理がエクセルで行えるようになることを到達目標とする。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 エクセルを用いた演習課題のレポートにより、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) 度数分布表とヒストグラム (2) 記述統計量 (3) 散布図と相関係数 (4) 回帰分析 (5) アンケートとクロス集計表 (6) 区間推定 (7) 仮説検定 (8) 総合課題 【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、ノートパソコンでエクセルによる演習を行う。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。 【自学自習のためのアドバイス】 (1) 度数分布表とヒストグラムについて調べてまとめる。 (2) 記述統計量について調べてまとめる。 (3) 散布図と相関係数について調べてまとめる。 (4) 回帰分析について調べてまとめる。 (5) アンケートとクロス集計表について調べてまとめる。 (6) 区間推定について調べてまとめる。 (7) 仮説検定について調べてまとめる。			
授業は対面で実施する。			
教科書・参考書等 特に指定しない。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa.yo@kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室: 工学部1号棟7階1701室(林町キャンパス)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回、演習でノートパソコンを用いるので準備すること。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000305)	主題科目	1Q木5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
身近な製品の仕組みとものづくりの基礎 Mechanism in products and basic monozukuri	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 松田 伸也	関連授業科目 物理学, 数学, 機械工学		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
私たちの身の回りにある様々な製品や飛行機・自動車のような構造体など「もの」の仕組みと、これら「ものづくり」の一連の方法の基礎について概説します。まずはじめに、ユーザーが製品や構造体を使用するにあたって事故やトラブルが発生しないように製作・管理・メンテナンスをしなければいけません。過去には多くのトラブル・事故が実在します。そのトラブル・事故事例について紹介します。次に、身近な製品・構造体の動作原理について説明し、「ものづくり」の一連の方法(材料の種類・選択, 強度設計, 測定, 加工方法, 組み立て・公差, 品質管理と生産システム)について概説します。 【キーワード】ものづくり			
授業の目的			
私たちの生活・社会活動は、様々な材料を用いて製造された製品や構造体など「もの」を用いて行われています。今後、社会生活活動の維持および発展には「もの」の継続的な維持管理および進歩が要求されます。21世紀社会に求められている持続可能な「もの」の維持管理・進歩に貢献するために、これまでどのような「もの」がどのような原理で使われ、使用中に何が原因でトラブル・事故が起きたのか理解して考える力を身に付けます。その後、「ものづくり」の一連の方法について基礎を身に付け、新しい「ものづくり」に関する様々な課題に対してチャレンジできるようにします。			
到達目標			
以下に示す到達目標は、毎回の授業内容(授業計画)に対応しています。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 1. 過去のトラブル・事故について説明できる。 2. 身近な製品・構造体の原理について説明できる。 3. 身近な製品・構造体で使用されている材料について、その理由と概要を説明できる。 4. 簡単な強度設計ができる。 5. 測定の原理を理解し、ノギスとマイクロメータが読める。 6. 工作機械による加工方法について説明できる。 7. 組み立てと公差について説明できる。 8. ものづくりの基本的な流れと品質管理・生産システムの概要について説明できる。			
成績評価の方法と基準			
出欠確認を含む毎回の授業時のミニレポートおよびレポート(100%)によって評価 定期試験は実施しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 「ものづくり」の流れの基本, 過去の事故事例紹介と事故を起こさないためには?			
第2回 身近な製品・構造体(飛行機, 自動車)の原理			
第3回 様々な材料の特徴と用途			
第4回 強度設計(材料力学の基礎～壊れないように形状を設計する)			
第5回 測定の基礎知識, 測定機の種類と特徴, 測定を行う環境			
第6回 機械加工方法			
第7回 製品・構造体の組み立てと公差			
第8回 品質管理と生産システム			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めます。また各人にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理および実践的な理解を促します。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】			
準備学習として、moodleに授業開始前までに、毎回の授業資料を公開します。授業資料をよく読み、理解に必要なキーワードや事項は授業開始までに理解に努めてください。			
教科書・参考書等			
教科書は使用せず、moodle上で授業資料を公開・配布			

オフィスアワー 質問がある場合、メールで問い合わせてください。必要があれば、下記のオフィスアワーに来室してください。

林町キャンパス 創造工学部 2号館 8階2802室 水曜昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、出席確認を含むミニレポートを課します。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000307) 主題 Themes ものの科学 Science on Matter	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木5	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 松本 洋明, 鶴町 徳昭		
関連授業科目 物理学、化学、数学			
履修推奨科目			
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 我々の身の回りにある様々な“もの”の種類や特徴、発見・開発の歴史、最先端の技術や産業などについて概説する。いろいろな科学技術に応用される機能材料、特に半導体材料や、“もの”を形づくる構造材料、特に金属材料について学習する。			
授業の目的 我々人類の様々な社会活動は、いろいろな材料を用いた“もの”をベースに行われている。社会生活の発展には“もの”の進歩なくしてあり得ない。21世紀社会に求められている持続可能な発展に貢献するために、これまでどのような“もの”が必要とされてきたのか?どのように作られ、使われているのか?などに関する知識を習得するとともに、“もの”に関する様々な課題を理解できるようになる。			
到達目標			
1. いろいろな構造材料について説明できる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. いろいろな機能材料について説明できる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 日本の先端的な材料に関する産業の現状について説明できる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 第1回～第4回までのレポート・小テスト(50%)および第5回～第8回までのレポート・小テスト(50%)による総合判定で評価する。期末試験は行わない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 金属って? (松本) 第2回 金属の組織学と金属の種類 (松本) 第3回 材料を強くするには? (松本) 第4回 材料ともの造り(金属製品の加工方法) (松本) 第5回 半導体って? (鶴町) 第6回 半導体電子デバイス (鶴町) 第7回 半導体光デバイス (鶴町) 第8回 まとめ (鶴町) (45分授業)			
* 開講順番は変更する場合もあります。その場合は事前に連絡します。 【自学自習について】 配付される授業資料をよく読み、理解できなかった事項を調べ、次回までに理解しておくこと。 第5回: 日本の産業構造について調べる 第6～8回: 半導体の基礎や光・電子デバイスについて調べ、レポートにまとめる。			
【授業及び学習の方法】講義形式			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。授業では適宜プリントなどを配布する。			
オフィスアワー 質問がある場合、各担当教員にメールで問い合わせして下さい。 鶴町: 創造工学部 2号館 8階2806室 金曜日昼休み 松本: 創造工学部 2号館 5階2506室 水曜日昼休み			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 対面での授業形式を予定するが、コロナ感染の状況も鑑みてWebでのオンライン・オンデマンド授業にする場合もある。大学および担当教員の連絡をよく確認するように。 なお、「平成30年度以前開講の「ものの科学」と内容が重複するためすでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできない」 メールアドレスは以下の通りである。 鶴町: tsurumachi.noriaki@kagawa-u.ac.jp 松本: matsumoto.hiroaki@kagawa-u.ac.jp			

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000315)	主題科目	2Q火2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
植物のバイオセンシング -作物の収量増大～水資源の有効利用-	分野 主題	DPコード: cab	特定プログラムとの対応
Bio-sensing of plants -Increasing of crops productivity ~ Effective use of water resources-	授業形態 講義	単位数 1	対応なし
	グループワーク		
担当教員名	関連授業科目		
下川 房男	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
21世紀を担う技術者・科学者は、気候変動・人口増加・経済成長等が、相互に複雑に絡み合う中で、これらの社会問題の本質を理解し、その解決のために抜本的な手段を講じてゆかなくてはならない。本授業では、その一つの事例として、「食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立」を取り上げ、あるべき次世代農業システムの実現に向けて、現在の農業分野を取り巻く課題・状況等を説明し、その課題解決に向けた発想に繋がるよう授業を行う。			
授業の目的			
地球規模での気候変動や人口増加による食糧問題が深刻さを増す中、21世紀の農業には、バイオセンシング技術等を駆使した新たな展開が期待されている。このような重要な社会課題について、より深く理解し、更にその課題解決に向けて、自らが具体的な解決法を提案できるようになる。			
到達目標			
1. 授業で扱う食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立 (SDGs) の関係について、2 つ以上説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 気候変動・人口増加・経済成長等に端を発した社会問題の連鎖を総合的に理解し、更に食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立に向けた抜本的な問題の解決のためには、何が必要とされるのか、現状の取り組み状況を俯瞰しつつ、あるべき対応策について具体的に提案・説明することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 上記に関係して、自分の考えや主張点を的確に整理し、第 3 者にわかり易く伝えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小レポート20% (特に到達目標1に対応) , グループ発表80% (特に到達目標2と到達目標3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立に向けて (SDGs)			
第2回 現在の農業の取り巻く状況～バイオセンシング技術の現状			
第3回 課題解決に向けたテーマ設定等			
第4回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案①			
第5回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案②			
第6回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案③			
第7回 発表に向けて、調査結果・提案システムに関する纏め～グループ発表			
第8回 グループ発表～授業の総括			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義とグループワークの二つから構成されています。講義では、気候変動・人口増加・経済成長等に端を発した社会問題～現状の農業の現状を俯瞰し、の連鎖から、抜本的な問題の解決のためには、何が必要とされるのか、テーマ設定に繋がる知識・理解を与え、その後、グループワークを通して、課題解決の手法・開発すべき技術開発等について全員で纏め、最終的には、提案内容を発表して頂きます。基本的には、対面授業を想定しています。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1回 SDGの概要を調べるとともに、食糧生産と地球環境保全の両立により、SDGsの17全ての項目に貢献できる意義について、自分なりに整理する。			
第2回 現在の農業を取り巻く諸課題について自ら調査し、併せて農業に新たな革新をもたらすと期待されている技術開発の現状について纏め、授業時に紹介できるように準備する。			
第3回～第6回 例えば、(1)多量の肥料・水を投入する農業から、環境保全に貢献する農業への転換、(2)温暖化に伴う気候変動や自然災害に即応した食糧生産シススムの構築等、課題解決のための具体的なテーマを設定し、調査研究を進めるとともに、具体的なデータ等に基づいて、将来あるべきシステムを考案して、そのために必要な手法や開発すべき新しい技術について、グループワークで議論できるように、各自が事前に資料等に纏めて報告できるようにする。			
第7回 グループで議論したことを、わかり易く ppt等 に纏め、発表の準備をする。			

教科書・参考書等

教科書:必要に応じてプリント等を配布するため,教科書は特に指定しない.

参考書:授業中に,適宜,紹介するが,例えば, ロブ・ダン著・高橋洋訳(2017),「世界からバナナがなくなるまえに ―食糧危機に立ち向かう科学者たち―

オフィスアワー 月曜日第3校時 (13:00~14:30) 創造工学部 1306

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

他の授業科目と同様に,毎回出席を取ります.尚,30分以上の遅刻は,欠席として扱います.

教員の実務経験との関連

前職のNTT研究所時代から,MEMS技術を核としたものづくりに精通しており,現在は,その技術をベースに次世代の農業センサプラットフォームの必要性を提唱し,産学官連携組織による取り組みを行っており,これらの経験に基づいて,講義を行います.

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000316)	主題科目	2Q金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
地方都市と交通 -自動運転技術の役割- Transportation in local cities -The role of automated driving technology-	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
堤 成可	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
この授業は、私たちの身近で必要である移動や交通について、自動車の自動運転技術を中心に引き上げ、これまでの問題点や将来について考える。昨今の技術動向や変遷などの一連の基礎的な知識について概説します。その知識を活用して受容性や使い道などについて自分なりの考えをまとめ、表現できるよう、課題を適宜取り入れながら進めます。 【キーワード】移動、交通、自動車			
授業の目的			
昨今の自動車の運転支援や自動運転技術について理解し、人や物の移動で不可欠な交通の問題について理解を深めると共に、それらの事例や知識を用いて問題の解決・解消策を提示できるようになる。			
到達目標			
1. 授業で扱う自動車の自動運転に関連する技術を区別し、利用目的や方法、範囲について解釈することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 交通をめぐる諸問題の解決・解消のために必要とされる要素要因について、具体例と比較しながら解決策を提案することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各回授業の小レポート・課題提出 60% クォーター末レポート 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 ガイダンス ―授業内容の説明―			
第2回 自動運転技術概要1:実証実験の例			
第3回 自動運転技術概要2:要素技術の紹介			
第4回 交通事故と予防に向けた取り組み			
第5回 自動車の自動運転技術の変遷			
第6回 都市規模に応じた交通手段			
第7回 移動における自動車の役割を考える			
第8回 まとめ:レポート課題説明			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心で進めますが、受講生の理解を深めるために自分たちで考えてもらう時間を適宜設けます。また必要に応じて小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。最後に交通をめぐる課題を取り上げてもらい、その現状と解決・解消策について報告してもらいます。この科目は基本的に対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第2回 自分の身の回りの交通について現状や課題など予め調査する。(3時間)			
第3～7回 2回目以降の授業最後にキーワードを伝えるので、それらについて予め調べる。(10時間) また、授業後、授業中に紹介された資料などを再度自分でも確認する。(5時間)			
第8回 ここまでの知識をまとめる。(2時間) 授業後自分の考えに沿った情報を調べて報告資料を作成する。(10時間)			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。授業中に参考資料等の紹介や適宜プリントなどを配布したりします。			
オフィスアワー 水曜日12:15～12:45 林町キャンパス1号館(注)やむを得ず変更する場合があります。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
特段の事情が無い限り全ての授業に出席すること。出席確認を含む小レポートを適宜課します。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000306) 主題 Themes ヒューマンコミュニケーション Human Communication	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山田 貴志	関連授業科目 情報リテラシーA		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】少子化 人間のコミュニケーションは心身の健康に関する支援に重要な役割を果たしている。この授業では、原初的コミュニケーションから集団コミュニケーションに至るまで各種コミュニケーションの場の創出事例に基づいて、不安から安心・安全に導く人間関係・システム技術を議論するとともに、家族・仲間・道具を持つヒトの観点から人類の未来について考える。			
授業の目的			
この授業では、少子化問題に関する自らの調査発表を通じて、「どのような解決策が期待されているか」、「自分が何にどの程度重要であるか」について探求し、能動的に理解することを目的とする。			
到達目標			
1. 少子化の現状と課題を知り、説明することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 生きがいのある人生とはどういうものかを表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
質疑応答・グループワークの学習態度(30%)とレポート・発表(70%)により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週:オリエンテーション 第2週:仲間を持つヒト(1)スティーブ・ジョブズの生き方 第3週:仲間を持つヒト(2)調査発表 第4週:道具を持つヒト(1)AI技術の開発と人間らしさ 第5週:道具を持つヒト(2)調査発表 第6週:家族を持つヒト(1)若い世代の結婚・出産に関する意識 第7週:家族を持つヒト(2)調査発表 第8週:まとめ			
【授業及び学習の方法】 大まかな学習活動の流れは講義・調査発表である。授業の理解度を深めるために、質疑応答、グループワークを積極的に取り入れる。 この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 全体交流を意識して、調査発表の準備を行うこと。			
教科書・参考書等 適宜資料を配布する。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 幸町北キャンパス8号館4階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業は1年生をターゲットにしている。 遠隔授業では、教員と学生、学生間で、映像と音声をやりとりする。			

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000308) 主題 Themes 知プラe科目 コンピュータと教育 その1 Computers in Education first period	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2022年度 1Q集中 提供部局: 大教センター DPコード: CXX 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目 コンピュータと教育 その2 履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム 近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。なお、7, 8回目は教育システム研究などの動向により予定と異なる内容になる場合がある。			
授業の目的 ICTを活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標 (1) 教育・学習方法の概要を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) (1) を支える情報通信技術を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか概説できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1 回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか? 第2回目: e-Learningでいかに学ぶか? 第3回目: 遠隔講義でいかに学ぶか? 第4回目: ICTを活用した教育・学習支援 (1): CAI (Computer Assisted Instruction) 概説 第5回目: ICTを活用した教育・学習支援 (2): CAIシステムの歴史と新しい教育システム 第6回目: ICTを活用した教育・学習支援 (3): 知的CAI概説 第7回目: トピックス: 四国におけるe-Learningによる教育連携 第8回目: トピックス: 新しい時代のe-Learning ※上記に加えて最終課題がありますのでご注意ください。 ※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

【バリアフリー対応について】

電子テキスト型コンテンツ

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018 年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000309)	主題科目	2Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 コンピュータと教育 その2	分野 主題	DPコード: cxx	特定プログラムとの対応
Computers in Education second period	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
	e ラーニング		
担当教員名	関連授業科目 コンピュータと教育 その1		
林 敏浩	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム			
近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。			
授業の目的			
ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標			
(1) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
(2) 支援システムの活用事例などを説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1 回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか?			
第2回目: 教育・学習支援システム (1) : フレーム型システム			
第3回目: 教育・学習支援システム (2) : ドリル&プラクティス型CAIシステム			
第4回目: 教育・学習支援システム (3) : ゲーム&シミュレーション型システム			
第5回目: 教育・学習支援システム (4) : アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム			
第6回目: 高度教育・学習支援システム (1) : 知的CAIシステム			
第7回目: 高度教育・学習支援システム (2) : いろいろな高度教育システム			
第8回目: 高度教育・学習支援システム (3) : 協調学習支援システム			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。			
【学習の方法】			
e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。			
各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			
URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

【バリアフリー対応について】

電子テキスト型コンテンツ

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018 年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000310) 主題 Themes 知プラe科目 高度情報化社会の歩き方 Way of Walking on Advanced Information Society	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 後藤田 中, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし	
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自習 (事前学習 9時間 + 事後学習 21時間)			
授業の概要			
【キーワード】高度情報化社会 高度情報化に伴い、我々の身の回りの社会環境は、益々創造的で豊かになっている。AIやIoTといったテクノロジーが進化し、我々の生活に溶け込み、“便利な”サービスの根幹をなし始めている。一方で我々の生活が豊かになる反面、見落としがちな諸問題も生まれ始めている。この授業では、高度情報化社会に伴う我々の社会環境における現在、そして今後の予測に対し、光と影、それぞれの一端を紹介し、人と情報がどのように接すれば、より豊かな生活を実現できるか学ぶ。			
授業の目的			
高度情報化社会の特徴としてみられる、様々なテクノロジーの特徴を知識として獲得し、そのテクノロジーから生まれるサービスの利用例、また注意すべき点を理解することが本授業の目的である。			
到達目標			
以下の項目を説明できる。 1. AI がもたらす可能性と社会的諸問題 (例: 人の雇用, 著作権) 2. IoT により, ネットワークにつながる便利さと注意点 (例: セキュリティ) (これらは、共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」・「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
7回の小テスト(50点)と期末レポート(50点)により評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの提出回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 人工知能による創作 (遠隔) 第2回 著作物の円滑な利用について (遠隔) 第3回 AIにより置き換わる仕事・進化する体 (遠隔) 第4回 広がるIoT・迫るセキュリティ脅威 (遠隔) 第5回 スポーツにICTを適用する (遠隔) 第6回 暗号とセキュリティ (遠隔) 第7回 学習するコンピュータ (遠隔) 第8回 期末レポート (遠隔)			
【授業時間外学習にかかわる情報】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を確認するためのレポートを課しています。ビデオ視聴するだけでなく、自ら調査を行い、レポート内容にも反映してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第1回 人工知能による創作の課題事例を授業で紹介した事例以外で調査する (事後学習: 3時間) 第2回 著作物の円滑な利用にあたり、改正著作権法など、最新の対応状況について調査する (事後学習: 3時間) 第3回 バリアフリー, SDG'sにも関連し、仕事やスポーツ環境における人間活動のすみ分け方, 平準化を調査する (事後学習: 3時間) 第4回 IoT等, 今後広がるネットとハードウェア・ソフトウェアの広がりに対するセキュリティ脅威を調査する (事後学習: 3時間) 第5回 スポーツに適用されている最新のICT事例を調査する (事後学習: 3時間) 第6回 暗号とセキュリティに関連し、近年の技術動向を調査する (事後学習: 3時間)			

第7回 機械学習やディープラーニングなど関連する最新の動向について調査する（事後学習：3時間）
第8回 期末レポートを作成するにあたり，テーマに対応する第1～7回の内容をインターネットや文献を通じて調査を行う（事前学習：9時間）

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し，随時問い合わせてください。
教員のメールアドレスは，Moodleコース内の「質問方法」に明記されています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて，インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる．動画コンテンツを視聴する際は，話のポイントをノートに書き取るなど，主体的な学習態度を心がけること．その他受講方法の詳細については，第1回（ガイダンス）を参照されたい．

教員の実務経験との関連

本科目は，スポーツ科学や実践的技術者教育に係る実務経験を有する教員2名（それぞれ後藤田，藤本）が，専門分野の知見を活用した講義コンテンツ（それぞれ第3～5回，第6～7回）を使用して実践的教育を実施するものである．

ナンバリングコード B2THM-cdeG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000311)	主題科目	3Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cde	
知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その1 Local Contents and Management of Intellectual Property first period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】知的財産管理, コンテンツ, 特許, 企業経営			
地域コンテンツを紹介しながら, 知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回では発明やブランドの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的			
香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (発明, 商標など) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標			
知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べることができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「市民としての責任感と倫理観」・「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 発明の保護その1 (法目的, 特許を受ける権利) 2. 発明の保護その2 (特許出願) 3. 発明の保護その3 (特許権の活用) 4. 発明の保護その4 (係争対策) 5. 罰則・雑則, これまでの復習 6. ブランドの保護 7. 知財管理と周辺領域 (外国出願, 実用新案) 8. 期末レポート			
【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を, 大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には, ノートへの書き取りなど, 主体的な態度を心がけなければ, 講義を理解することは不可能である。各回の内容について, 理解度を測るため及び出席確認のため, e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので, 教科書を必ず購入すること。			
四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし, 成績評価に影響しない。法改正も踏まえ, 適宜, インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【自学自習のためのアドバイス】 各回において, e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に, 準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずその回の復習をしたりすることが挙げられます。また, 春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。			

教科書・参考書等

【教科書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター（第3版）」
ISBN 4862514146 著者名 佐倉 豪
出版社 三和書籍出版 出版年 2020年
金額 2,640円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」
ISBN 4862511198 著者名 本間 政憲
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年
金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm-c@kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学 20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chiplae.itc.kagawa-u.ac.jp/>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-cdeG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000312)	主題科目	4Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その2	分野 主題	DPコード: cde	特定プログラムとの対応
Local Contents and Management of Intellectual Property second period	授業形態 講義	単位数 1	対応なし
	e ラーニング		
担当教員名	関連授業科目 特になし		
林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 知的財産管理、コンテンツ、著作権、企業経営			
地域コンテンツを紹介しながら、知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回ではインターネット時代におけるコンテンツやデザインの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的			
香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (デザイン, コンテンツなど) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標			
知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べることができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「市民としての責任感と倫理観」・「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 授業内容は変更になる可能性があります。			
1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 知財法の体系、知財管理の基礎			
2. インターネットとデジタルコンテンツ			
3. コンテンツの保護その1 (著作物と著作権)			
4. コンテンツの保護その2 (著作権者の権利)			
5. コンテンツの保護その3 (著作隣接権, 保護期間, 侵害対応)			
6. デザインの保護			
7. 知財管理と周辺領域 (知財法比較, 練習問題)			
8. 期末レポート			
【授業及び学習の方法】			
インターネットで配信されるe-Learning教材を、大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので、教科書を必ず購入すること。			
四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			
URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【自学自習のためのアドバイス】			
各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。			

教科書・参考書等

【教科書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター（第3版）」
ISBN 4862514146 著者名 佐倉 豪
出版社 三和書籍出版 出版年 2020年
金額 2,640円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」
ISBN 4862511198 著者名 本間 政憲
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年
金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm-c@kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学 20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chiplae.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000313) 主題 Themes 知プラe科目 飛行機はなぜ飛ぶのか Principles of aircraft flight	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 岩本 幸治	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 飛行機, 飛行機の歴史, 運動量理論, 安定性			
まず、世界と日本で飛行機がどのように生まれたかを説明して先人の想像力や洞察力、工夫を見習う。その後、揚力や抗力といった飛行機にかかる力がどのように発生するのかを学び、有人飛行では不可欠な安定性について考える。これらの知識を取り入れて、紙飛行機を作って飛ばしてみることを計画している。			
授業の目的			
飛行機を例題として、自然物や人工物の仕組みに興味を持ち、理論的に理解できる力を身につけてほしい。			
到達目標			
飛行機の各部品の役割を述べるができるようになる。力学の初歩が分かるようになる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①世界の飛行機の歴史1 ②世界の飛行機の歴史2 ③日本の飛行機の歴史1 ④日本の飛行機の歴史2 ⑤飛行機にかかる力 ⑥翼理論 ⑦エンジン、二宮翔会の紹介 ⑧安定性、紙飛行機			
【授業時間外学習について】 必要に応じてMoodle上でお知らせします。			
【参照ホームページ】 愛媛大学航空力学研究会二宮翔会のホームページ https://sites.google.com/view/ninomiyashokai/ ツイッター https://twitter.com/ninomiyashokai Facebook https://www.facebook.com/ninomiyashokai/			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 鳥と飛行機どこがちがうかー飛行の科学入門 I S B N 978-4794209184 著者名 ヘンク・テネケス 出版社 草思社 出版年 1999 金額 2052 備考 絶版ですが、古本として出回っています。愛媛大学図書館には所蔵しています。			
参考書2 書名 紙ヒコーキで知る飛行の原理―身近に学ぶ航空力学			

I S B N 978-4061327337 著者名 小林昭夫
出版社 講談社 出版年 1988
金額 929

参考書3 書名 Theory of Wing Sections: Including a Summary of Airfoil Data
I S B N 978-0486605869 著者名 Ira H. Abbott, A. E. von Doenhoff
出版社 Dover Publications 出版年 1959
金額 2511

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000314) 主題 Themes 知プラe科目 身の回りの放射線 Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 岡野 聡	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 放射線、放射性同位体、安全操作、原子力発電所、放射線療法 現在われわれの身の回りには産業機器、エネルギー、安全管理、医療・福祉などの分野で放射線を利用した様々な技術が使われています。しかしながら、われわれは放射線について、どのくらい理解しているのでしょうか。放射線とはいったい何。なぜ危険なのか。安全に利用する手法はあるのか?など、科学としてきちんと理解している人は少ないのではないのでしょうか?そこで、身の回りにある放射線について基本的な性質と安全に利用するための方法を学びます。			
授業の目的 多くの放射線がわれわれの身の回りに存在し、産業や健康管理、エネルギーに役立っていることを理解する。さらに、放射線や放射能とは何か、どのような特性を持っているのか、その計測方法について科学的に理解する。さらに、放射線の医療への応用、エネルギーへの応用、放射線の遮蔽、安全な取り扱いを学ぶ。			
到達目標			
・われわれの身の回りには自然放射線や放射能を利用した機器があることを理解する。 ・放射線の発生原理を説明できる。 ・放射線の測定法を説明できる。 ・放射線の遮蔽法を説明できる。 ・放射線の人体に対する影響を定量的に説明できる。 ・私たちの生活に欠かせない放射線を利用した危機があることを説明できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①身の回りにある放射線 ②放射線と放射能 1 ③放射線と放射能 2 ④放射線計測の原理と装置 ⑤放射線計測実験 ⑥放射線防護 ⑦人体への影響 ⑧まとめ 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/ 【バリアフリー対応について】 動画の音声文字起こししたテキスト資料(PDF)あり。動画に字幕あり。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

教員の実務経験との関連

「実務経験のある教員による授業科目」1単位 岡野聡＋ゲスト講師

実務家教員 田中宗雄（元・四国電力原子力保安研修所）

原子力発電所の管理および運転員の教育指導の経験をもとに、放射線に関する講義を担当。

ナンバリングコード B2THM-cdbG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000401) 主題 Themes 身の回りの環境問題A Environmental Problem in our Life A	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q木1 提供部局: 大教センター DPコード: cdb 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目 身の回りの環境問題B 履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】SDGs、環境対策 現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
授業の目的 私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。 また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ることで、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
到達目標 ①新聞やテレビで報道されている環境問題やエネルギー問題を説明できる。 →共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応 ②修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。 →共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応 ③授業を通じて修得した知識や考え方を活かして、環境問題やエネルギー問題に配慮した行動ができる。 →共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応			
成績評価の方法と基準 毎回のミニレポート (50%) ならびに期末レポート (50%) により認定します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: イントロダクション 第2回: 高松市の取り組み事例 第3回: 香川県の取り組み事例① 第4回: 香川県の取り組み事例② 第5回: 香川県の取り組み事例③ 第6回: 香川県環境保全公社の取り組み 第7回: 香川県地球温暖化防止活動推進員の取り組み 第8回: まとめ			
【授業方法】 いろいろな立場で環境問題やエネルギー問題に取り組んでいるゲストスピーカーをお招きして、取り組み内容についてお話をうかがいます。 授業は毎回対面で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により、遠隔で行う場合もあります。 担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回: 4時間 高松市環境局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第3回: 4時間 香川県環境政策課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第4回: 4時間 香川県廃棄物対策課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第5回: 4時間 香川県環境管理課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第6回: 4時間 香川県環境保全公社の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第7回: 4時間			

推進員の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第8回：10時間

各回の配布資料や収集した情報をまとめ、レポートを作成する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。

オフィスアワー 金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。

なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。

ナンバリングコード B2THM-cdbG-10-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000402)	主題科目	2Q木1	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cdb	
身の回りの環境問題B Environmental Problem in our Life B	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	身の回りの環境問題B	
	履修推奨科目	環境システム論、資源エネルギー論	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
【キーワード】SDGs、環境対策			
現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
授業の目的			
私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。 また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ることで、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
到達目標			
①新聞やテレビで報道されている環境問題やエネルギー問題を説明できる。 →共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応 ②修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。 →共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応 ③授業を通じて修得した知識や考え方を活かして、環境問題やエネルギー問題に配慮した行動ができる。 →共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート (50%) ならびに期末レポート (50%) により認定します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: イントロダクション 第2回: 環境省の取り組み事例 第3回: 四国環境パートナーシップオフィスの取り組み事例 第4回: 四国地方ESD活動支援センターの取り組み事例 第5回: 四国経済産業局の取り組み事例① 第6回: 四国経済産業局の取り組み事例② 第7回: 資源エネルギー庁の取り組み事例 第8回: まとめ			
【授業方法】			
いろいろな立場で環境問題やエネルギー問題に取り組んでいるゲストスピーカーをお招きして、取り組み内容についてお話をうかがいます。 授業は毎回対面で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により、遠隔で行う場合もあります。 担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第2回: 4時間 環境省四国事務所の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第3回: 4時間 四国EP0の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第4回: 4時間 四国ESDセンターの取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第5回: 4時間 四国経済産業局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第6回: 4時間 四国経済産業局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。 第7回: 4時間			

資源エネルギー庁の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第8回：10時間

各回の配布資料や収集した情報をまとめ、レポートを作成する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。

オフィスアワー 金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。

なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000430) 主題 Themes 環境問題を科学の視点で考える Consider with environmental issues from scientific viewpoint	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
	担当教員名 山田 佳裕	関連授業科目 無 履修推奨科目 無	
学習時間 講義90分 × 8回 + グループ討論 (自主学習に相当、30時間)			
授業の概要 【キーワード】科学の視点＝批判的・客観的思考 メディアや行政からの情報は発信者の意図が反映されている。この講義では環境問題を題材に、一般的に常識だと思われる事について、科学の視点で考え直す。教員はテーマの設定と話題提供を行う。それをもとに、多様な情報の収集し、客観的に自らの考えを組み立て、討論を行う。その結果をふまえて、再度自らの考えを組み立てる。			
授業の目的 21世紀は環境の時代だと考えられている。人類が地球上で生存するには自然との共生、持続可能な社会の構築が不可欠であり、緊急の命題となっている。この講義では、科学の視点から環境問題を考えることを通して、学生主導の講義に必要な客観的思考に必要なプロセスを理解するとともに、自ら考える力を身に付けることを目的とする。			
到達目標 ・環境問題に関して、行政、メディアからの情報を科学的に再構築し、将来の人と自然との共生に向けた情報を発信出来る人材を目指す (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ・講義を通して、大学での学問、社会における諸課題の解決に必要な批判的・客観的思考が出来るようになる (同「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席状況, レポートの内容, 討論会での積極性を点数化して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 2回分を1セットとし、1回目は教員から話題提供、2回目は数人のグループで行った討論の内容や結果を代表者が発表する。1回目と2回目の間に、その回のテーマに関する情報収集、多様な視点の理解、自身の考えの構築といった手順で各自の意見をまとめ、グループ討論を行う (自主学習に相当)。発表、意見交換の後、自らの考えを再構築し、レポートにまとめる。対面を原則とするが、新型コロナウイルスの状況、教室の環境によっては討論は遠隔で行う。			
1) ガイダンス テーマ「ウイルスや細菌とのかかわり方」 生命の進化の視点から考える。 次までに情報収集及びグループ討論 (7時間)			
2) 討論会「ウイルスや細菌との付き合い方」			
3) テーマ「気候変動と化石燃料の利用」 二酸化炭素に傾注しても良いのか？ 次までに情報収集及びグループ討論 (7時間)			
4) 討論会「気候変動対策について」			
5) テーマ「ヒトと野生生物の生活空間」 野生生物にどのように関われば良いのかを考える。 次回までに情報収集及びグループ討論 (7時間)			
6) 討論会「自然保護活動のありかた」			
7) テーマ「治水対策と水環境」 生活と環境について、市民、科学者、行政、自然愛好家の立場から考え、治水対策をテーマとしたロールプレイングを行う。			
8) 討論会「水との共存」			
教科書・参考書等 教科書は定めない。			
オフィスアワー 随時。研究室に来られるときに、メールで事前に連絡すること。研究室は農学部BW405-3。メールでの質問も受ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 積極的に取り組むことが必要です。定員は32名です。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000403) 主題 Themes 毒の科学 Poison science 担当教員名 川村 理	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 生物学B、化学B、環境科学、基礎有機化学、基礎生物化学、食品衛生学 履修推奨科目 生物学B、化学B、環境科学		
学習時間 講義90分 ×7.5回 + 自学自習(準備学習 10時間 + 事後学習 20時間)			
授業の概要 【キーワード】毒とは何か、毒と薬、人類と毒の歴史、毒性試験法、適切なリスク評価、食品添加物と残留農薬の有用性と危険性 身の回りには様々な毒が隣り合わせで存在している。毒とは何か、人類と毒の歴史、毒性試験法を講義し、身の回り毒で植物毒などを紹介する。また、食品添加物や残留農薬の危険性を科学的に評価して、適切なリスクを理解させることを目的とする。また、これらの講義を通じてメディアリテラシーの重要性も理解させる。			
授業の目的 共通教育スタンダードとして、自然に関する知識として毒を科学的に理解して、21世紀社会の諸課題に対する探求能力することをこの講義の目的とする。 具体的には、ほとんどの人は、毒とは何かを理解せず漠然と誤ったリスク評価に基づいて行動している。毒を科学的知見に基づき正確に理解して、何が毒で、リスクが高いのかを正確に理解することで初めて合理的な行動ができるようになる。また、この講義を通して、世の中には正しくない情報(フェイクニュース)があふれていることを認識する切掛の一つとし、メディアリテラシーの重要性も理解する。			
到達目標 1. 毒とは何かを説明できる。半数致死量(LD50)、1日許容摂取量(ADI)などを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 身近な毒の具体的な例を挙げ、その毒性メカニズムと症状の関係を説明できる。農薬や食品添加物の有用性と危険性を説明できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 食の安全に関連するフェイクニュースの存在を認識し、メディアリテラシーの重要性を説明できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 ミニレポート(毎回の出席カードを4段階で採点) 30%+レポート点70%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 初回にプリントを配布し、パワーポイントを用い講義する。また一部、映像も利用する。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業を遠隔へ変更する可能性があります。 講義にあまりついていけない人は予習を必ずして講義に出席して下さい。また、復習は必須である。 初回にレポートの課題を提示し、講義終了後、1週間程度で提出させる。 第1回目; 毒とは何か? 毒の定義、身の回りにある物の有毒性について、半数致死量(LD50) 自主学習; 第1回目の復習と第2回目の予習 第2回目; 毒の歴史-1(苦味は有毒物質、矢毒、毒の社会的利用、毒の戦争への利用など) 自主学習; 第2回目の復習と第3回目の予習 第3回目; 毒の歴史-2(毒の医療への利用、抗生物質と選択毒性、再評価された毒など) 自主学習; 第3回目の復習と宿題、第4回目の予習 第4回目; 毒性試験法(急性毒性と慢性毒性、最大無毒性量(NOAE)、一日許容摂取量(ADI)、一日耐用量(TDI)) 自主学習; 第3回目の復習と宿題、第4回目の予習 第4回目; 身の回りの植物の毒-なぜ植物は毒を持つようになったのか?、植物の毒の紹介 自主学習; 第4回目の復習と第5回目の予習 第5回目; 農薬はなぜ使われる? 農薬の必要性和危険性、選択毒性 自主学習; 第5回目の復習と第6回目の予習 第6回目; 食品添加物はなぜ使われる? 食品添加物の必要性和危険性、食品添加物はなぜ嫌われるのか? 自主学習; 第6回目の復習と第7回目の予習 第7回目; 最強の毒(ボツリヌス毒素)、リクエストの多かった毒についての解説 自主学習; 第7回目の復習とレポート作成準備 第8回目; まとめ 自主学習; レポート作成			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。初回にプリントを配布する。 参考図書: 史上最強カラー図解 毒の科学 毒と人間のかかわり【著】船山 信次、¥1,760、ナツメ社			

これ以外は講義内で適宜紹介する

オフィスアワー 講義終了後15-20分程度、講義室で行います。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

すでに同内容の科目である2018年度開講の「人類と毒・微生物その2」単位取得済みの場合はこの科目を履修できません。

初回に8回分のプリントを配布します。講義にあまりついていけない人は、予習を必ずしてくるこ

質問等で研究室(農学部4H4)を訪問する際には、事前に連絡(kawamura.osamu@kagawa-u.ac.jp)して下さい。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000404) 主題 Themes 植物の病気: 自然淘汰のメカニズムとして Plant Disease: As One of Mechanisms for Natural Selections 担当教員名 秋光 和也	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q月1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 【キーワード】植物、植物の病気 植物は自然界の中で二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、生物のエネルギー源である炭水化物を生産し、その炭水化物(糖類)は様々な生物のエネルギー源として利用されます。生態系の中で大きな役割を担う植物について多面的に解説し、さらに「植物の病気」を自然淘汰の仕組み(メカニズム)の一つとして捉えて解説します。この講義では、常日頃目にする植物や、植物における病気の発生の仕組み(メカニズム)を科学的に解説するとともに、自然界と人間社会や生物の進化における植物の役割を考える機会を提供します。			
授業の目的 生物学の一部として学んできた植物や、その植物の病気の発生の仕組み(メカニズム)について多面的に解説することにより、自然界・生態系・人間社会における植物の役割や生物の進化の一端を理解出来るようになります。			
到達目標 1. 自然界における植物一般の役割を多面的に説明できる。 2. 植物の病気が発生する仕組み(メカニズム)を説明できる。 3. 21世紀の自然環境における植物の役割を理解し、植物の病気の発生を生物の進化における自然淘汰の一端と捉えて、その課題と解決策を探究することができる。 (1,2は共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応、3は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 期末テスト(最終日45分:75%)と授業への参加状況等(25%)の総合判断で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 進化における植物について 第2週 植物の役割: 光合成と炭水化物/糖生産 第3週 植物の役割: 糖消費によるエネルギー生産 第4週 植物の役割: 植物と希少糖 第5週 希少糖を生産する植物 第6週 植物の病気I 第7週 植物の病気II 第8週 植物の病気III(45分)&期末テスト(45分) 【授業及び学習の方法】 この科目は全回対面授業で行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 講義中に紹介する文献・下記の参考書籍等を用いて復習し、自分自身のノートを作成することで復習をして下さい。その際、理解できなかったポイントや語句等があれば、オフィスアワー等を利用し理解に努めて下さい。また、予習に関しては、担当教員より適宜指示します。			
教科書・参考書等 参考書籍等として「新植物病理学概論」・著者: 白石友紀, 秋光和也, 一瀬勇規, 寺岡徹, 吉川伸幸・養賢堂・2014・4,180円(税込)をあげておきますが、専門書につき、特に興味のある受講生のみ、参考書籍として購入して下さい。図書館農学部分館にもあります。			
オフィスアワー 火曜日(13時～16時)・水曜日(15時半～17時) 秋光研究室(農学部CE棟3階302室) メール等での事前連絡により確実に対応出来ます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席を取ります。			
教員の実務経験との関連 日米の大学で、植物学及び植物病理学を専門とした30年近い研究・教育経験があります。多面的な視野で講義内容を紹介します。			

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000405) 主題 Themes 農業と植物科学 Agricultural Science	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 五味 剣二	関連授業科目 植物病理学 分子生物学		
	履修推奨科目 植物病理学、分子生物学		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本講義では、農業に関わる学術的から社会的な話題について紹介するとともに、農業に関連する植物科学研究も紹介する。【キーワード】農業、植物分子生物学			
授業の目的 我々人類の様々な活動は、全て農業に依存している。この点を再認識した上で、植物科学研究の農業への貢献について理解することを目的としている。			
到達目標 1. 人間が生きていく環境の中での農業の重要性を説明できる (共通教育スタンダードの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 農業の社会的側面について説明できる (共通教育スタンダードの「地域理解／地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 植物がもつ様々な能力や機能について説明できる (共通教育スタンダードの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 農業と植物に関連した講義を今後受講する上で、より理解と意欲が高まる (共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト50% (特に到達目標3, 4に対応) 期末テスト50% (特に到達目標1, 2に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 農業と植物病理学 (1) 第2回 農業と植物病理学 (2) 第3回 農業と植物病理学 (3) 第4回 農業と植物病理学 (4) 第5回 農業と植物病理学 (5) 第6回 農業と植物ホルモン 第7回 農業と植物バイオテクノロジー (1) 第8回 農業と植物バイオテクノロジー (2) と試験			
【授業および学習の方法】 授業は講義中心で進めます。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 植物病理学に関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第2回 植物病理学に関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第3回 植物病理学に関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第4回 植物病理学に関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第5回 植物病理学に関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第6回 植物ホルモンに関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第7回 農業に利用されている植物バイオテクノロジーに関する情報を調べ、授業で紹介された情報を整理する 第8回 農業に利用されている植物バイオテクノロジーに関する情報を調べる			
教科書・参考書等 教科書は特に指定しない			
オフィスアワー 金曜日16時～17時 農学部CE302			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 普段から日本農業の動向について新聞、ニュース等で注意を配ってほしい。			

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000406)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q金2	対象年次 1～
主題 Themes 疾病の仕組みを考える Consider mechanisms of disease	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 杉山 康憲	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 疾病の仕組み 我々人間は、生存していく過程において様々な疾病にかかり、多大な影響を受けることとなる。疾病にかかる原因は多岐に渡り、より健康で豊かな生活を送るためには、これらを知ることは必要不可欠であると考えられる。本講義では、疾病がどのように起こるのか、その原因について概説すると共に、健康に過ごすための知識と情報を提供する。			
授業の目的 疾病には様々な種類が存在し、各々について対応する方法が異なっている。そのため、疾病の種類および疾病にかかる多様な原因を知識として身につけて理解する。さらに、健康に過ごすためにはどのように対応すればよいのかを考察する。			
到達目標			
1. 疾病が発症する原因について説明できる (香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 疾病が発症するメカニズムについて説明できる (香川大学共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 疾病に対してどのように対応すれば健康に過ごせるか、その対策について説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎回の講義終了後のミニレポートならびにレポートにより総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第1回 イントロダクション、疾病の要因の概説 第2回 遺伝的要因によっておこる疾病 第3回 遺伝的要因によっておこる疾病に対する対策 第4回 生活習慣によっておこる疾病 第5回 生活習慣によっておこる疾病に対する対策 第6回 外的要因によっておこる疾病 第7回 外的要因によっておこる疾病に対する対策 第8回 まとめ 【授業及び学習の方法】 講義はスライドを用いて行います。 講義終了後にミニレポートを作成してもらい、この提出を持って出席を確認します。 講義8回目の後にレポートを提出してもらいます。 各講義の後は資料等を用いて復習することが望まれます。 【自学自習に関するアドバイス】 第1回 予習の必要はありません。興味を持って講義を聴いてください。 第2, 3回 遺伝的要因によっておこる疾病について調べておいてください。 第4, 5回 生活習慣によっておこる疾病について調べておいてください。 第6, 7回 外的要因によっておこる疾病について調べておいてください。 第8回 第1-7回の講義内容を復習しておいてください。 各講義の後はプリント資料等を用いて復習することが望まれます。			
教科書・参考書等 特に指定しません。各授業毎にプリント資料を配布する予定です。			
オフィスアワー 金曜日16時から18時 農学部キャンパスBW305-4			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回講義終了後にミニレポートを課して出席を確認しますので欠席しないこと。自発的、積極的な学習姿勢を期待します。			
教員の実務経験との関連 本講義は、疾病や基礎生命現象における教育・研究に経験を有する教員が担当します。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000407)	主題科目	3Q木5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
人類と微生物	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応
Relationship between Human and Microbes	授業形態 講義	単位数 1	対応なし
担当教員名	関連授業科目 微生物学、応用微生物学Ⅰ、応用微生物学Ⅱ		
田淵 光昭	履修推奨科目 生物学B		
学習時間 講義 90分×7回半+定期試験+自学自習 (準備学習 15時間+事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】人類と微生物			
微生物とは何か？微生物とは、ヒトの肉眼で観察することができない微小な生物の総称であり、その大きさは、数十nmから数百μmと様々である。人類は太古の昔よりこの肉眼で見ることのできない微生物と知らず知らずのうちに深い関わりを持ってきた。本講義では、微生物の基礎、応用、微生物による病気に至るまで幅広く人類と微生物との関わりについて解説していく。			
授業の目的			
微生物の基礎から食品や医薬品における応用、また、微生物による病気に至るまで幅広く人類と微生物の関わりについて理解することを目的とする。			
到達目標			
1. 微生物の定義が説明できる。			
2. 食品における微生物の役割について、具体例を上げて説明できる。			
3. 感染症とその原因微生物について、具体例を上げて説明できる。			
4. モデル微生物とその役割について、具体例を上げて説明できる。			
5. 微生物で見出された現象を元に開発されたバイオテクノロジー技術について、具体例を上げて説明できる。			
6. 新聞やニュースで感染症や発酵食品について見たり聞いたりしたときに自分の意見として専門家の意見を判断できる。			
1～5は、共通教育スタンダード「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応			
6は、共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応			
成績評価の方法と基準			
定期試験 70% (特に到達目標1～5に対応)、レポート 30% (特に到達目標1～5に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: 微生物とは何か? 基礎知識 (定義、分類)			
自学自習: 第1回目の復習と第2回目の予習			
第2回: 微生物と食品 1 味噌・醤油			
自学自習: 第2回目の復習と第3回目の予習			
第3回: 微生物と食品 2 日本酒・ワイン・ビール			
自学自習: 第3回目の復習と第4回目の予習			
第4回: 微生物と病気 細菌・ウイルス・真菌			
自学自習: 第4回目の復習と第5回目の予習			
第5回: 微生物と薬 抗生物質・多剤耐性菌			
自学自習: 第5回目の復習と第6回目の予習			
第6回: モデル微生物 ファージ・細菌・酵母			
自学自習: 第6回目の復習と第7回目の予習			
第7回: 微生物とバイオテクノロジー 遺伝子組み換え技術			
自学自習: 第7回目の復習と定期試験の準備			
第8回: まとめ・定期試験			
【授業及び学習の方法】			
授業の最初にプリントを配布し、パワーポイントを用い講義する。また一部、映像も利用する。			
授業の最後に復習および予習を兼ねたレポートの課題を提示し、次回の講義の開始前に提出させる。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
第1回: 微生物の定義について調べて説明できる様に準備する (4時間)			
第2回, 第3回: 微生物に関わる食品について調べて微生物の役割について説明できるように準備する (8時間)			
第4回, 第5回: 微生物に関わる病気について調べる。抗生物質とは何か? また、多剤耐性菌とは何かを調べて説明できるように準備する (8時間)			

第6回：モデル微生物とはどのような微生物で、どのような役割を担ってきたかを調べて説明できるように準備する（5時間）

第7回：微生物が関わるバイオテクノロジー技術について調べて例をあげて説明できるように準備する（5時間）

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

参考書は適宜指示する。

オフィスアワー 水曜日 4時限目（農学部BW505-3）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問等で研究室（農学部BW505-3）を訪問する際には、事前に連絡（tabuchi.mitsuaki@kagawa-u.ac.jp）して下さい。

本授業の内容は、2018年度以前開講の「人類と毒・微生物（その1）」と内容が重複するため、2018年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

農学部や医学部などで長年微生物に関連する研究・教育を行ってきた実務経験をもとに、人類と微生物との関わりについて講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000408)	主題科目	2Q金1	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
森林生態学の基礎	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応
Fundamentals of forest ecology	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
	グループワーク		
担当教員名	関連授業科目		
豊田 鮎	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1+自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要			
森林は多様な機能を持ち、わたしたちに恩恵をもたらしている。単一の種の樹木1個体だけでなく、隣り合った複数の個体、複数種が関わり、相互に影響を及ぼし合う複雑な系である。本授業では、日本の森林、人工林の歴史と木材生産について概説し、森林の樹木間や生物との間にどのような関係があるのか、森林の植物や生物、土壌、および生態系の物質循環を維持するために何が必要かを探求するための話題を提供する。			
【キーワード】生態系機能、人工林、物質循環、土壌、動物			
授業の目的			
森林がもつ恩恵、日本の森林の特性、さらに四国の森林における現在の諸課題を学び、理解を深めること、課題の解決策を探求することを目的とする。			
到達目標			
1. 森林の公益的機能について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 森林環境の持続可能性をめぐる課題の解決のためには何が必要とされるのか、現状の森林管理、野生動物による被害を踏まえて具体的に議論することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
出席シート(小レポート)40%, 期末レポート60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 日本の森林、人工林の現状			
第2回 森林の恩恵			
第3回 樹木の資源配分と生存戦略			
第4回 生物と樹木の相互作用			
第5回 森林の動物			
第6回 動物による被害、樹木の枯死			
第7回 森林の炭素循環			
第8回 森林生態系における諸課題解決の探求、グループワーク			
【授業および学習の方法】			
本講義は、基本的に対面で実施する。 状況によっては一部またはすべての授業形態を遠隔に変更する場合がある。			
【自学自習のためのアドバイス】			
講義資料および講義内に紹介した文献を読み、新たに得た知識をまとめる。			
教科書・参考書等			
教科書は指定しない。講義時に参考となる書籍や文献を紹介する。参考書:日本森林学会(監修)、2014年、教養としての森林学、文永堂出版、南佳典、沖津進(編)、2007年、ベーシックマスター生態学、オーム社。			
オフィスアワー 金曜日の講義終了後および12時30分～13時30分(農学部CE棟4階402)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
講義の形態は状況に応じて変更になる場合があります。 本授業の内容は、2021年度開講の主題B「森林生態系の機能」と 内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000409)	主題科目	3Q金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
作物の生産と環境 Field crop production and environment	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 食用作物学・資源作物学		
豊田 正範	履修推奨科目 食用作物学・資源作物学		
学習時間 講義90分×7回 講義45分×1回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
この授業では植物の成長の基礎や作物生産の現状および課題について、特に環境との関わりに焦点を当てて解説します。地球温暖化による作物の生産・品質の低下、増加する気象災害、農業用水の不足、砂漠化の進行など、作物生産を取り巻く環境の悪化傾向が続いています。このような不確実性を増す環境に適切に対応し、安定した作物生産を持続するために必要な基礎知識を学びます。 【キーワード】作物生産、不良環境			
授業の目的			
植物の成長の基礎や作物生産の現状および課題を環境との関わりから理解し、不確実性を増す環境に適切に対応した安定的作物生産を達成するための理論や考え方を理解する。これらを基に、環境面からみた作物生産の現状と課題を説明し、問題の解決策を提示できるようになる。			
到達目標			
1. 植物の成長と環境との関わりの基礎的事項を説明できる(知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識に対応) 2. 水田における作物生産の阻害要因と対策を説明できる(問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力に対応) 3. 不良環境下での作物生産技術を説明できる(問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末テスト80%、課題(レポートや授業での小課題)20%で評価します			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 日本の耕地の特徴 第2週 作物の成長と環境要因 第3週 水田における作物生産の阻害要因と対策1 第4週 水田における作物生産の阻害要因と対策2 第5週 さぬきの環境に適した作物 第6週 低投入持続型・環境保全型農業技術 第7週 不良環境地における作物生産技術1 第8週 不良環境地における作物生産技術2(45分授業)/テスト			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全て、または一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】			
作物学関連の教科書・参考書を読む 作物生産、栽培環境、地球温暖化、砂漠化等に関する情報・新聞記事を読む			
教科書・参考書等			
特に指定しない。			
オフィスアワー 月曜日1限目(豊田)CW101-1 事前にメールでアポイントを取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全て、または一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
本授業の内容は、2018年度以前開講の「作物の生産と環境(その1)」と内容が重複するため、2018年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lb1 授業科目名 (時間割コード: 000410) 主題 Themes 植物バイオテクノロジーの展開 Development of Plant Biotechnology	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 ブレンディッドラー ニング	単位数 1	
担当教員名 鳴海 貴子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×4回 + 授業とレポート作成90分×4回+ 自学自習 (事前、事後学習含め30時間)			
授業の概要 バイオテクノロジーは、生物が持つ様々な能力を活用することにより、私たちの生活を豊かにする欠かせない技術です。人類は、古くより発酵や品種改良などのバイオテクノロジーを利用してきました。近年、遺伝子組換え技術の開発や各種生物における全ゲノム配列の解読なども相まって、バイオテクノロジーは新たな展開を迎えています。 本講義では、植物を生物資源とするバイオテクノロジーについて紹介および解説し、それらの持つ可能性や課題等について考える機会を提供します。 【キーワード】植物とバイオテクノロジー、遺伝子組換え、ゲノム編集			
授業の目的 現在、私たちは、食料、健康、環境などの多方面において、バイオテクノロジーの恩恵を受けています。本講義では、私たちの生活に深く関与する植物を生物資源とするバイオテクノロジーの歴史や現状を紹介し、それらの理解を深めることを目的とします。			
到達目標			
1. 植物を利用したバイオテクノロジーについて説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 色々な視点に立って考え、自分の意見をまとめることができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」および「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 第1回～第4回までは小レポート50% (特に到達目標1に対応) で、第5回～8回はレポート50% (特に到達目標2に対応) により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 視聴覚機器、プリントおよび板書を適宜使用し、講義形式で行う。 【授業計画】 第1回 植物のバイオテクノロジーの成り立ち 第2回 遺伝子組換え技術により作出された農作物 第3回 遺伝子組換え技術による花きの品種改良 第4回 ゲノム編集技術による農作物の品種改良 第5回、第6回、第7回は、教員の説明後、ゲノム編集技術による農作物の品種改良についてレポートを作成する。なお、各回、異なる視点からレポートを作成する。 第8回 講義のまとめを行う。レポートを書く。 【自学自習に関するアドバイス】 毎回の講義内容に関して、関連する事柄について調べ、知識として身に付けるため、ノートにまとめる。その際、理解できなかったポイントや語句等があれば、配布する質問カードおよびオフィスアワー等を利用して理解に努める。予習に関しては、担当教員より適宜指示する。 インターネットの情報を用いて調べる場合は、大学、研究機関、学術機関、政府機関など信頼の置ける情報を活用すること。			
教科書・参考書等 講義時に適宜、参考図書等を紹介する。			
オフィスアワー 授業終了後に、教室で質問を受けます。それ以外の場合は応相談、メールにて事前連絡をお願いします。鳴海研究室 (農学部BE棟2階202室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 第1回目の講義では、履修等に関する説明も行いますので、必ず出席して下さい。			
教員の実務経験との関連 担当教員は、花き (キク、トレニア、カーネーション) を材料に、遺伝子組換え技術を使用して作出した遺伝子組換え体を用いて、遺伝子の機能等についての研究を行っています。これまでの経験、研究および教育をもとに、講義を行います			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000411) 主題 Themes がんの科学、細胞が現代社会に訴えること Cancer: What does a cell appeal to modern society?	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 松田 陽子, 水津 太	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】「がん」の原因と治療に向けた研究 現代社会における科学の飛躍的な進歩と人間社会のありようの複雑化は、ヒトの死亡原因の順位を大きく変えました。現在、がんによる死亡率は第一位となっています。「からだ」の成り立ちの基本を理解し、どのような異常により「がん」となるのか、また治療に向けた研究がどのように行われているのかを解説します。			
授業の目的			
「がん」の正体を知り、これに対して科学がどのように対処しようとしているのかを理解し、現代社会においてどのような貢献ができるか考える力を獲得することを目的とします。			
到達目標			
1. 組織のなりたちに関する基礎的な知識を獲得し、以下の説明に正しく利用することができる。 (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. がんの発症機構について、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. がんの治療法について、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 治療法開発にむけた取り組みについて、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
講義終了後のテストにより評価します。なお、合格には3分の2 (8週中6週) 以上の出席と課題提出が必要となります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 : (松田) からだを「見る」こととは 第2回 : (今井田) からだの病気を「見る」こととは 第3回 : (水津) 現代環境が引き起こす問題 第4回 : (山川) 現代女性がかかえる問題 第5回 : (来田) 動物とヒトのがん 第6回 : (水津) がんと現代社会テロリズム 第7回 : (竿尾) 現代社会の中での病理医 第8回 : (水津) テスト (45分間) + まとめ (45分間)			
【授業及び学習の方法】 この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。質問等がある場合は、研究室のアドレス (ichibyou-m@kagawa-u.ac.jp) まで連絡ください。 講義を中心に進め、適宜自学自習のための課題を課します。知っておかなければならない最小限の知識について学んだのち、こうした疾患がなぜ・どのようにおこるのか、その克服のためにどのような努力がなされているのか、解説していきます。			
【自学自習のためのアドバイス】 文系のみなさんや生物が苦手な方は高校の「生物基礎」の教科書を見直しておくといいでしょう。講義でわからなかったところは終了後ただちに教員に質問するようにしましょう。なお、課題のとりまとめに関連する情報は、講義で得た知識を手がかりに、書籍やインターネット上の情報を自ら取捨選択し自分の言葉でまとめるようにしてみてください。			
教科書・参考書等			
特に指定しません 配布された講義資料を参考にしてください			
オフィスアワー 随時対応します 事前に研究室のアドレス (ichibyou-m@kagawa-u.ac.jp) にあててメールにより照会してください			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
特になし			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000412) 主題 Themes 脳とストレス Brain function and stress	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q木5 提供部局: 大教センター DPコード: cbx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 三木 崇範, 鈴木 辰吾, 太田 健一	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義内容を十分理解するには、授業に出席することに加え、十分な事前学習（予数）を事後学習（復習）が必要である。 講義90分 x 7回 + 講義45分 x 1回 + 自学自習（準備学習 15時間+事後学習15時間）			
授業の概要 [キーワード] 健康・脳・発達・ストレス ヒトは年をとると、遅かれ早かれ様々な病気にかかることになります。肉体の不調のみならず、精神的にまいることもあります。その人間の体と脳の健康を保つためには、どのようなことに気をつけるべきなのでしょう？その疑問に答えるべく、脳と体の基本的な仕組みとそれが崩れた時の病的状態を学び、脳と体を健康に保つための方策について、考えていきます。			
授業の目的 脳と体の健康を保つ仕組みとそれが崩れた時の病的状態を学び、そして、それを防ぐにはどのようにしたら良いのか、自分自身で考えることで、自らの健康は自分で管理できるようになる。			
到達目標			
1. 脳と体の健康を保つ仕組みを理解できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 脳と体の健康が崩れた病的状態を理解できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 脳と体の健康を保つために重要なことを医学的に理解し、自らの問題あるいは社会の問題としての広い視野をもって行動することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
小テスト（ミニレポート）1回～7回目毎回実施 50%、まとめのテスト（レポート）8回目実施 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本授業は全て講義で構成されます。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画に記載のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15～30分程度をミニレポート作成や小テストの時間に当てます。最後の8回目に、まとめのレポート作成を行います。 第1回: (三木) 脳が統合する体の機能; 各論 (1) 第2回: (三木) 脳が統合する体の機能; 各論 (2) 第3回: (三木) 脳の発達と体の成長—生活習慣病との関連 第4回: (鈴木) 神経科学の基礎; 脳の機能と分子の動き 第5回: (鈴木) 神経科学と遺伝子; 脳の機能と遺伝子の働き 第6回: (太田) ストレスに対する体の応答 第7回: (太田) 子供の養育環境と脳発達 第8回: (三木) まとめと試験 原則として対面授業とするが、場合により遠隔授業とする予定。 脳の構造を理解した上で機能についての基本事項を理解する。さらに機能のうち、内分泌系の働き（視床下部-下垂体-副腎軸）に影響を受ける脳のストレス脆弱性について学ぶ。この学習は大学生として社会人としてストレス対処法の基礎知識として役立つものと確信している。 準備学習として、高校の生物学の教科書レベルの内容は理解しておいて貰いたい。事後の学習は、授業の度に参考となる成書を紹介する。(参考図書の例: 人体スペシャル 脳の地図帳 原一之著 講談社) 最後に、講義を受ける学生は、礼をもって受講すること。真面目に受講しない学生や礼を失する学生は当該授業選択の必要なしと考える(授業中の私語・居眠り・帽子着用での受講など厳禁)。			
教科書・参考書等			
領域が広範にわたるため、特に指定しません。講義資料は配布する場合があります。			
オフィスアワー 指定は不可能なので、神経機能形態学講座(anatomy1-m@kagawa-u.ac.jp)まで。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
平成30年度「脳と体の健康について その2」と同じ講義内容で講義題目を変更しています。知識を得た後は、自分の考えを持ってください。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000413)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q金2	対象年次 1～
主題 Themes 細胞膜の生理学 Physiology of the cell membrane	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 藤原 祐一郎	関連授業科目	授業形態 講義	単位数 1
	履修推奨科目		
学習時間 (講義90分) × 7.5回 + 自学自習 (準備学習20時間+事後学習20時間)			
授業の概要 キーワード: 一般生理学、神経生理学、分子生物物理学 生命の最小単位は細胞です。人体は60兆個の細胞から構成されています。細胞膜は細胞内外を隔て、細胞内外の情報交換の場です。本講義では、教員は細胞や生命活動に重要な細胞膜の機能について講義します。 Key words: General Physiology, Neurophysiology, Molecular Biophysics The smallest constituent unit of life is the cell. The human body is composed of about 60 trillion cells. The cell membrane separates the inside of the cell from the outside world and exchanges information with the outside world. In this class, we will discuss the functions of the cell membrane, which are important for cellular and biological activities.			
授業の目的 授業の目的は細胞膜の情報伝達を学習することです。ゴールは生体機能を細胞膜の機能に基づいて説明できることです。 The aim is to learn about cell membrane signaling. The goal is to explain the physiological functions of the human body on the basis of cell membrane function.			
到達目標			
共通教育スタンダード b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力 学生は 1) 細胞膜の電気的性質とシグナル伝達機構について説明できる。 2) 細胞膜の生理機能と個体（人体）の生理機能の関係について説明できる。 Students can 1) Explain the electrical properties of cell membranes and their signaling mechanisms. 2) Explain the relationship between the physiological functions of the cell membrane and the physiological functions of the individual (human body).			
成績評価の方法と基準 1) 期末試験 2) レポートを科すこともある 1) end-of-term exams 2) Report			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または全て遠隔へ変更する可能性があります。 講義は全ての回について、日本語で行います。 【授業計画】 1回: 人体、健康、細胞膜 (藤原) 2回: 細胞膜の構成 (藤原) 3回: 細胞膜の電気信号 1 (藤原) 4回: 細胞膜の電気信号 2 (藤原) 5回: 細胞膜の機能と生命現象 1 (川鍋) 6回: 細胞膜の機能と生命現象 2 (川鍋) 7回: 細胞膜の機能と生命現象 3 (神鳥) 8回: 細胞膜の機能と生命現象 4 + 試験 (神鳥) 【授業及び学習の方法】 教員はパワーポイント資料で講義を行います。学生を指名して本日のキーワードについて説明してもらうことがありますので、教科書を事前に予習することが望ましいです。			

【自学自習のためのアドバイス】

1-4回：学生は教科書（イオンチャネル）を事前に予習しておくことが望ましい。
5-8回：学生は教科書（イラスト生理学）を事前に予習しておくことが望ましい。
その他、Youtubeの関連動画などで学習することが望ましい。

【授業計画】

1回：humans, health and cell membranes (Fujiwara)
2回：Composition of the cell membrane (Fujiwara)
3回：electrical signals in the cell membrane 1 (Fujiwara)
4回：electrical signals in the cell membrane 2 (Fujiwara)
5回：Membrane Function and Life Phenomena 1 (Kawanabe)
6回：Membrane Function and Life Phenomena 2 (Kawanabe)
7回：Membrane Function and Life Phenomena 3 (Kamitori)
8回：Membrane Function and Life Phenomena 4 + Examination (Kamitori)

【授業及び学習の方法】

The instructor will give the lecture in PowerPoint. Students will be asked to nominate a student to explain the key words on the day. Students are required to read the textbook in advance.

【自学自習のためのアドバイス】

1-4回：Students must read and understand the textbook (Ion channel Book).
5-8回：It is necessary to read and understand the textbook (Illustrated Physiology Book).
Use other reference books and related Youtube videos.

教科書・参考書等

イオンチャネル—電気信号をつくる分子—
日本生物物理学会 シリーズ・ニューバイオフィジックス刊行委員会 曾我部正博／編
1997年05月発行 A5判 238ページ ISBN 978-4-320-05468-4

はじめの一步のイラスト生理学 改訂第2版
羊土社 照井直人／編
2011年12月07日発行 B5判 213ページ ISBN 978-4-7581-2029-6

オフィスアワー 医学部キャンパス、基礎臨床研究棟6F、分子生理学
随時対応しています。
physiol1@med.kagawa-u.ac.jp（講座）でアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目を受講するためには、教科書の十分な予習が必要となります。
その日のキーワードに関して、講義中に学生を指名して発表・説明してもらうことがあります。

教員の実務経験との関連

細胞膜の生理学・生物物理学、神経生理学の専門家による講義。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000414) 主題 Themes 「ありふれた」病気の脳科学 - その成り立ちと治療への挑戦 Humans Challenges to Fragile Heart	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 山本 融	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備・事後学習 30時間程度)			
授業の概要 【キーワード】 現代社会と医学 現代社会における科学の飛躍的な進歩と人間社会のありようの複雑化は、従来の難病をだれもが罹患しうる「ありふれた」病気になりました。「こころ」の成り立ちの基本を理解し、どのような異常により「病気」となるのか、また治療に向けた研究がどのように行われているのかを解説します。			
授業の目的 心身の健康を脅かす「敵」の正体を知り、これに対して科学がどのように対処しようとしているのかを理解し、現代社会においてどのような貢献ができるか考える力を獲得することを目的とします。			
到達目標			
1. 脳神経系のなりたちに関する基礎的な知識を獲得し、以下の説明に正しく利用することができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 代表的な疾患の発症機構について、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. こうした疾患の治療法について、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4. 新たな治療法開発にむけた取り組みについて、その概要を説明することができる。 (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 講義終了後のテストにより評価します。なお、合格には3分の2 (8週中6週) 以上の出席と課題提出が必要となります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 イントロダクション:我々は何をどのようにみているか -五蘊の現代生物学的私流解釈 第2週 「こころ」のありか その1:こころの構成単位としての神経細胞のなりたち 第3週 「こころ」のありか その2:特別視されがちな臓器 -「脳」のなりたち 第4週 「こころ」の病気 その1:精神神経疾患 -「つながり」を求めすぎると... 第5週 「こころ」の病気 その2:認知症 -「ヒト」が背負わされたもの 第6週 「こころ」の調べかた:正しく答えてもらうには? 第7週 創薬への挑戦:失敗した失敗した失敗した失敗した失敗した...成功確率は3万分の1 第8週 テスト (45分間) + まとめ (45分間)			
【授業及び学習の方法】 講義を中心に進め、毎回自学自習のための課題を課します。「理解する」ために「知って」おかなければならない最小限の知識について学んだのち、こうした疾患がなぜ・どのようにおこるのか、その克服のためにどのような努力がなされているのか、解説していきます。 この科目は基本的に対面授業で行います。なお、状況によっては授業形態の一部または全てを遠隔に変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 文系のみなさんや生物が苦手な方は高校の「生物基礎」の教科書を見直しておくといいいでしょう。講義でわからなかったところは終了後ただちに教員に質問するようにしましょう。なお、課題のとりまとめに関連する情報は、講義で得た知識を手がかりに、書籍やインターネット上の情報を自ら取捨選択し自分の言葉でまとめるようにしてみてください。			
教科書・参考書等 特に指定しません。配布された講義資料を参考にしてください。			
オフィスアワー 随時対応します。事前に研究室のアドレス (molneurobiol-m@kagawa-u.ac.jp) にあててメールにより照会してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 2017年度・2018年度に開講された「「ありふれた」病気の科学 - その成り立ちと治療への挑戦 その1・「こころ」の病気について」を受講し単位を取得した者は、本授業科目を履修することはできません。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lb1 授業科目名 (時間割コード: 000415) 主題 Themes 医学にかかわる化学 New Aspects of Chemistry Related to Medicine	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 ブレンディッドラーニング	単位数 1	
担当教員名 和田 健司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習17時間+事後学習13時間)			
授業の概要			
科学技術は、現代社会に深くかかわっており、社会における様々な局面において科学技術が及ぼす影響は深化している。医学や医療の現場においても、化学をはじめとする諸学問が深く関与している。本講義では、医学や医療に関連する化学の諸分野の中から、特に興味深く先進的なトピックスを取り上げ、これらを題材として医学や医療を支える化学の役割を学ぶ。			
【キーワード】MRI、PET、糖鎖、ドラッグデリバリーシステム、核酸医薬			
授業の目的			
授業を通じて、医学や医療に関連する諸分野の化学について理解を深める。特に、PETやMRI等の診断法の背景技術を学ぶとともに、糖の構造と機能を化学的な観点から理解できるように糖鎖の生合成、構造機能相関について理解する。さらにドラッグデリバリー等の機能性化学物質に関するトピックスを取り上げ、その基礎となっている化学について、正確かつ十分な知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解できるようになるための基礎能力を身につける。一方、獲得した知識を基盤として、科学技術の進展に伴う諸問題を的確に把握し、考察することの重要性を認識する。			
到達目標			
①MRI や PET 等の診断法の背景技術を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ②糖鎖を構成する単糖の構造と名前を理解する (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ③糖タンパク質糖鎖の生合成の流れを理解する (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ④ドラッグデリバリーシステムおよび核酸医薬の基礎を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ⑤科学技術の進展に伴う諸問題を的確に把握し、自身の意見を表明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
試験は実施しない。各回に実施するクイズや、計4回課するレポートの結果を基に総合的に評価する。数値的評価基準は、初回講義時に説明する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 序論・PETとその背景にある化学(和田) 第2回 MRIとその背景技術、質疑応答(和田) 第3回 単糖の構造と名称(中北) (遠隔) 第4回 糖鎖の生合成 (中北) (遠隔) 第5回 糖鎖の生理機能、質疑応答 (中北) 第6回 ドラッグデリバリーシステム (DDS) とは(栗原) (遠隔) 第7回 核酸医薬とDDS、質疑応答(栗原) 第8回 総合討論(和田) (45分) (英語のビデオを一部活用しますが、抄訳を提供します)			
【授業及び学習の方法】 この科目は対面授業を主とし、一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。教科書は使用せず、初回を除き、原則として予習用資料を事前配布します。既に予習してあることを前提としてクイズ等を出題し、講義を実施します。さらに単元毎のレポート課題(計4回程度)を課します。講義及び関連した自習課題を行うことによって講義内容の理解を深めます。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2～7回 事前に配布される資料を熟読し、獲得した知識をクイズ等で確認するとともに、疑問点や十分に理解できない点を整理する(2.5時間×6回) 第8回 事前に配布される資料を熟読し、関連資料を検索して読み込んだうえで、自身の意見を表明できるように整理する(2時間)			

教科書・参考書等

【参考書】

・Essentials of Glycobiology, 3rd edition(Editors: Ajit Varki et al) Cold Spring Harbor Laboratory Press; 2015-2017.

・糖鎖生物学—生命現象と糖鎖情報—（北島健、佐藤ちひろ、門松健治、加藤晃一）

Glycoword <https://www.glycoforum.gr.jp/glycoword/indexJ.html>

・寺田弘著、「薬の効き方・効かせ方：その仕組みから先進技術DDSまで」（オーム社）

・寺田弘ほか著、「応用が広がるDDS：人体環境から農業・家電まで」（エヌ・ティー・エス）

・和田担当分については適切な一般向け成書が見当たらないため、学生諸君の質問や学習指針について個別に指導します。

オフィスアワー 後期 金曜日 午後6時～7時 於：医学部講義棟316号室 遠隔相談も可能であるが、事前にアポイントメントをとること（wada.kenji@kagawa-u.ac.jpあてにメールで連絡してください）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

高校化学基礎に関する知識を有することを前提として、講義を実施します。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000416)	主題科目	1Q木5	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	
若年層の疾病と健康管理A Disorder and Healthcare of the Youth A	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 横平 政直	関連授業科目 学問基礎科目 医学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分×7回+講義 45分×1回+ 自主学習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的			
若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。特に生活習慣病の発症予防には十分留意する。 また、若年者のメンタルストレスについて知識を得、自身および友人のストレスケアができる。			
到達目標			
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 若年者(特に大学生)に生じやすいストレスについて説明できる。共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 5. 自分自身に対してストレスマネジメントを適切に行うことができ、また友人のストレスサーに対しても配慮をすることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
全ての講義でレポート提出により出席とする。成績および可否は期末テストで評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 原則としてオンライン講義で行うが、対面となることもあるので情報に注意すること。			
第1回 オリエンテーションおよび若年者の呼吸器疾患(担当: 坂東修二; 医学教育学) 第2回 若年者における腎臓病と予防(担当: 祖父江 理; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第3回 若年者の血液疾患(担当: 門脇則光; 血液・免疫・呼吸器内科) 第4回 若年層の予防と栄養管理(担当: 日下 隆; 小児科学) 第5回 若年者のメンタルヘルス(担当: 安藤延男; 精神神経科) 第6回 若年者の肝臓病(担当: 森下朝洋; 消化器・神経内科) 第7回 若年者の喫煙とその健康被害(担当: 石川かおり; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第8回 講義+試験			
【自学自習のためのアドバイス】 講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館(下記の参考図書等)や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等			
必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学習用には「家庭の医学」(オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)。 「病気がみえる」シリーズ(MEDIC MEDIA)等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ(講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その1」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。 講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。			
教員の実務経験との関連 本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。			

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000417) 主題 Themes 若年層の疾病と健康管理B Disorder and Healthcare of the Youth B 担当教員名 横平 政直	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 学問基礎科目 医学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+ 自主学習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的 若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。目や耳、皮膚という感覚器系の疾患についても概説できる。			
到達目標 1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べるができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 特に若年者から見られる生活習慣病について説明でき、予防を実践できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 全ての講義でレポート提出により出席とする。成績および可否は期末テストで評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 原則としてオンライン講義で行うが、対面となることもあるので情報に注意すること。 第1回 若年層の眼科疾患の特徴と予防(担当:鈴間 潔;眼科) 第2回 若年者(層)の脳疾患(担当:三宅啓介;脳神経外科) 第3回 若年者の消化器疾患(担当:小原英幹;消化器・神経内科) 第4回 若年者の高血圧と高脂血症の予防(担当:南野哲男;循環器・腎臓・脳卒中内科) 第5回 若年者の感染症の特徴と予防(担当:上田修史;泌尿器科) 第6回 若年者の耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患(担当:岸野毅日人;耳鼻咽喉科) 第7回 若年者のがん(担当:医学教育学:横平政直) 第8回 講義+試験 【自学自習のためのアドバイス】 講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館(下記の参考図書等)や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等 必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学習用には「家庭の医学」(オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)。 「病気がみえる」シリーズ(MEDIC MEDIA) 等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ(講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その2」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。 講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。			
教員の実務経験との関連 本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000418) 主題 Themes 情報生物学と疾患遺伝の基礎 Basis of bioinformatics and human genetics	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義	時間割 2022年度 3Q月5 提供部局: 大教センター DPコード: cbx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 吉田 裕美, 岩間 久和	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 健康、疾患、遺伝子、タンパク質 微生物からヒトまで、様々な環境に生存する生物の遺伝情報は、分子生物学の基礎となるセントラルドグマをもとに考えられます。生命体の設計図ともいわれる遺伝子情報をもとにタンパク質がつくられ、生物の体が構成されていきます。生命科学分野ではゲノム解析とともに膨大な情報が蓄積されてきていることから、セントラルドグマの基礎をもとに、遺伝情報やタンパク質分子の構造情報が蓄積されているデータベースを利用し、入手した情報から何がわかるのか、どのように利用されるのか理解を深めていきます。 この講義では、セントラルドグマの基礎を理解し、生命情報科学のデータベースがどのように利用されているかを学びます。また、得られた情報を疾患の遺伝と結びつけて理解する為の基礎概念についても学習します。			
授業の目的 生命科学における膨大な情報をどのように入手して利用できるのか、情報データベースの使用方法を習得し、入手した情報をどのように利用していくことができるのか理解できるようにする。また、疾患遺伝について理解できるようにする。			
到達目標 1. 生命科学における代表的な情報データベースの種類 (分類) と内容を理解する。 (「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 生命科学における代表的な情報データベースの使用方法を習得する。 (「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. データベースから得られた情報はどのように活用できるか理解し、説明することができる。 (「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. セントラルドグマの基礎を理解し、遺伝子とタンパク質の関連や疾患の遺伝と結びつけて説明をすることができる。 (「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 出席率と各回で行う小レポートもしくは課題提出、テストの結果から総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】: 第1回: バイオインフォマティクスを理解するための分子生物学の基礎【吉田】 第2回: アミノ酸の配列解析 (講義と実習)【吉田】 第3回: タンパク質の立体構造解析 (講義と実習)【吉田】 第4回: ゲノム塩基配列解析 (講義と実習)【吉田】 第5回: 遺伝疾患の分類【岩間】 第6回: 稀な遺伝疾患【岩間】 第7回: 複雑遺伝疾患【岩間】 第8回: まとめと確認テスト【岩間】 【授業および学習の方法】: 授業は講義を中心に進めますが、パソコンを使用して実際にデータベースにアクセスし、遺伝子情報、アミノ酸配列情報をどのように利用するのか実習を行います。各自、無線LANに接続可能なパソコンを用意しておいてください。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。また、状況に応じて授業内容を変更する場合があります。 【自主学習のためのアドバイス】: 前半・後半ともに、実習では課題を出しますので、復習をしながら課題レポートを提出してください。			
教科書・参考書等 教科書は特に指定しません。講義資料は、毎回配布します。 以下は参考書です。 「はじめてのバイオインフォマティクス」 藤博幸 編、講談社サイエンティフィック、ISBN4-06-153862-4			

「エッセンシャル遺伝学」 D.L. ハートル, E.W. ジョーンズ共著 ; 布山喜章, 石和貞男監訳 培風館,
ISBN 9784563077914

オフィスアワー 火曜日13:00-14:00 医学部臨床研究棟5階551号室 吉田

火曜日13:00-14:00 医学部臨床研究棟4階452号室 岩間

オフィスは三木町医学部キャンパスにありますので、訪問する場合は、事前にDream Campusからメールにて連絡をしてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習には無線LANに接続可能なパソコンを持参してください。

医学部と農学部では同様の講義内容がありますので、人数によっては医学部と農学部以外の学生を優先します。

教員の実務経験との関連

本講義を担当する吉田はタンパク質工学、構造解析研究を行ってきており、情報生物学で利用するデータベースを常に使用しています。自分が知りたい情報をどのデータベースから取得するか、得られた情報をどのように利用していくか、考え方の基礎を理解できるように講義を行います。同じく担当の岩間はゲノム情報解析と疾患関連遺伝子の解析を行ってきています。得られた情報を疾患の遺伝と結びつけて理解する為の基礎概念を講義します。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000419)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q火2	対象年次 1～
主題 Themes 心と体の健康 Human Health Caring	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 塩田 敦子, 谷本 公重	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 看護学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分×8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 【キーワード】 健康課題 本科目では、疾病や医療など、現代社会の課題について「健康」をキーワードに考えていきます。本授業科目において教員は、人間の各発達段階において生じやすい心と体の問題に関する知識を学生が習得できるようにします。具体的には、発達段階の異なる小児と学生自身の生活・健康課題に関して講義を通して、理解を深めるように教授します。			
授業の目的 高度に進んだ日本社会では、より便利で快適な生活が実現しているといわれるが、その一方で複雑な心と体の健康問題が生じている。21世紀に生きる学生が、自身の健康課題への理解を深め、とるべき予防行動を理解すると共に、次世代を担う子どもたちへの発達支援に関する基礎的知識を習得することを目的とする。			
到達目標			
(1) 「成長」と「発達」およびその原則について説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 子どもの認知発達の特徴について説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (3) 子どもの権利とその擁護について説明できる 共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (4) 青年期で生じやすい問題と対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (5) ケアリング・コミュニケーションの実施方法が説明できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (6) 自らの健康に配慮したライフプランを描くことができ、生殖生命倫理について疑問を抱き考え続けることができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (7) 自らの健康を守るために、コミュニケーションを通じて性感染症や予期せぬ妊娠を防ぐことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (8) 身近にあるがんの種類とその検診、予防の方策について説明でき、予防行動をとることができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (9) 東洋医学の知恵を現代の生活に活かす術を考え実行できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各回に提示するミニレポート20%、期末試験80% なお、評価対象者は、講義全体で3分の2以上出席したものとする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 大学生のライフプランと健康 (塩田) 第2回 大学生の性と健康 (塩田) 第3回 大学生のがん予防と健康 (塩田) 第4回 東洋医学と健康—セルフケアに活かす (塩田) 第5回 子どもの心と体の成長と発達 (谷本) 第6回 子どもの権利擁護 (谷本) 第7回 子どもを取り巻く現代社会の問題 (谷本) 第8回 子どもへの発達支援まとめ、試験 (谷本)			
【授業及び学習の方法】 授業は計画にあげた内容について講義し、また講義ごとに小レポートを課し、講義で学んだ内容を自己の知識と統合、表現することを促します。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習へのアドバイス】 第1回 自分のライフプランについて書き出し、不妊治療や出生前診断について扱った新聞記事やニュースより情報を得て、その倫理的問題についても考えておく (3時間)			

- 第2回 女性の月経について、同性として異性として知りたいこと、知っておいてほしいことをまとめておく。性感染症や避妊、デートDVについて情報を得ておく(3時間)
- 第3回 子宮頸がん検診、HPVワクチン、がん生殖について情報を得て、自分はどのように行動したいか考えておく(3時間)
- 第4回 漢方薬、鍼灸について知っていること、現代の生活に活かされていることを考えておく(3時間)
- 第5回 新聞やテレビなどから、子ども(特に、2歳頃から8歳頃)の発言・行動に関して情報を得ておく(3時間)
- 第6回 子ども権利条約について確認しておく(4時間)
- 第7回 子どもの健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく(3時間)
- 第8回 これまでの講義内容について確認し、理解を深めておく(5時間)

教科書・参考書等

必要な資料等は講義内で配布するため、自学自習で示された内容に対して確実に取り組んでおくこと

オフィスアワー 質問は、講義終了前後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング(その1、その2)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。
- ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。
- ・看護学科学生の履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。
- ・夜間主学生は受講できない。
- ・8回目に試験を実施する。

教員の実務経験との関連

谷本は医療施設への勤務経験があり、小児の健康支援に携わってきた実務経験をもとに、現代社会における小児の健康支援について講義を行います。塩田は産婦人科医師、漢方専門医として現在も勤務しており、女性の健康支援に携わってきた実務経験をもとに、大学生のプレコンセプションケア、がん予防、東洋医学について講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cedG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000420)	主題科目	3Q木5	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
瀬戸内海の環境と諸課題 Environment of the Seto Inland Sea and its agenda	分野 主題	DPコード: ced	
担当教員名 多田 邦尚, 一見 和彦, 石塚 正秀	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目 瀬戸内海の環境と保全		
	履修推奨科目 瀬戸内海の環境と保全		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習8時間 + 事後学習22時間)			
授業の概要			
【キーワード】瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的			
我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようにする。			
到達目標			
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる（全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる（全学共通教育スタンダード:「市民としての責任感と倫理観」に対応）。 また、その解決策を自分自身で考えられる（全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
授業履修後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。期末レポート100%。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カードで確認します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 講義の概要、「瀬戸内海とは？」 第2週 瀬戸内海の環境の現状と課題－1 第3週 瀬戸内海の環境の現状と課題－2 第4週 瀬戸内海の赤潮 第5週 瀬戸内海に現存する干潟・藻場 第6週 干潟・藻場の役割 第7週 河川と瀬戸内海のつながり 第8週 河川と瀬戸内海の環境行政（45分授業）			
【授業及び学習の方法】 最初に、本授業の概要を説明し、その後、2名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部あるいは全て遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。			
教科書・参考書等 教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その1」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様の内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。 授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。この授業は、「瀬戸内海の環境の諸問題」と「瀬戸内海の環境とその保全」をあわせて受講することを奨励します。			
教員の実務経験との関連			
各回の担当教員はいずれも瀬戸内海の研究を実施しており、その研究内容や経験から講義を行います。			

ナンバリングコード B2THM-cedG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000421)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q木5	対象年次 1～
主題 Themes 瀬戸内海の環境と保全 Environment of the Seto Inland Sea and itsconservation	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : ced	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 多田 邦尚, 山口 一岩, 末永 慶 寛, 田中 健二	関連授業科目 瀬戸内海の環境と諸課題	単位数 1	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習8時間 + 事後学習22時間)			
授業の概要 【キーワード】 瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人分科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的 我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。			
到達目標 1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境の側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる (全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる (全学共通教育スタンダード:「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 また、その解決策を自分自身で考えられる (全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業履修後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。レポート100%。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カード、ミニレポートで確認します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 漁業生産を支える瀬戸内海-1 第2週 漁業生産を支える瀬戸内海-2 第3週 水産廃棄物の有効利用と海域環境改善 第4週 波浪エネルギー吸収技術と防災への備え 第5週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-1 第6週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-2 第7週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-3 第8週 授業のまとめ (レポート作成) 【授業及び学習の方法】 最初に、本授業の概要を説明し、その後、3名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。 【自学自習のためのアドバイス】 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その2」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様の内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。
この授業は、「瀬戸内海の環境とその保全」と「瀬戸内海の環境の諸問題」をあわせて受講することを奨励します。

教員の実務経験との関連

各回の担当教員はいずれも瀬戸内海の研究を実施しており、その研究内容や経験から講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cdeG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000422)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes 国際協力論A Introduction to international cooperation A	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目 国際協力論B		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】持続可能な開発目標(SDGs) この授業では、21世紀の社会の諸課題として、貧困、環境など一国だけでは解決できない課題(地球規模課題)を取り上げます。特に、2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の概要、ならびにSDGsに挙げられている様々な地球規模課題の例を取り上げ、課題の解決のために我が国をはじめとする国際社会が行っている協力の現状と展望について解説するとともに、それらの問題に対して市民として何ができるのかを共に考えていきます。			
授業の目的			
この授業は、開発途上国の現状を知るとともに、世界が抱える様々な問題(開発課題)について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。			
到達目標			
1. 開発途上国の現状及び日本との関係を知る。 2. 地球規模課題解決のために国際社会が取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)の概要を理解し、様々な問題を解決する方法を自分なりに考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 国際協力の事例を理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. SDGs 達成のために我が国や地域社会が取り組むべき問題を調べてその概要を理解し、解決方法を自分なりに考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「市民としての責任感と倫理観」、「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート、またはグループワークまとめ(計50%)、期末レポート(50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション(国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上国の現状 第3回 国際協力の担い手 第4回 持続可能な開発目標(SDGs)とは。 第5回 ゴール1「貧困をなくそう」と国際協力 第6回 ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」と国際協力 第7回 ゴール4「質の高い教育をみんなに」と国際協力 第8回 まとめ(45分) 上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その場合、詳細は最初の授業時に説明します。 【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めますが、地球規模課題解決の方法を考えるため、複数回のグループワークを取り入れる予定です。グループ分けはその都度教員が指示します。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。(外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。) 【自学自習のためのアドバイス】 第2回 開発途上国とは何か。どのような状況なのか。開発途上国1か国について調べておく。 第3回 国際協力とはどういうことか、どんなやり方があるか、どんな方がやっているのか情報を集めて整理しておく。 第4回 持続可能な開発目標について、国連機関やわが国外務省などから情報を集め、17のゴールについて簡単に説明できるよう準備しておく。 第5回～第7回 それぞれのゴールについて内容を調べ、それぞれの課題に関して国際社会が優先して取り組			

まなければならない問題を授業で発表できるように準備しておく。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日 3 時限目（13:00～14:30）、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成30年度以前開講の「国際協力論 その1（その2）」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。毎回出席を取ります。15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は 国際協力機構職員、パキスタン、スリランカでの勤務経験あり

ナンバリングコード B2THM-cdeG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000423)	主題科目	4Q木5	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	
国際協力論B Introduction to international cooperation B	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目 国際協力論A		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 開発途上国 この授業では、21世紀の社会が抱える諸課題として、特に開発途上国が抱える課題（開発課題）を地域ごとに取り上げ、その解決のために国際社会が行っている協力の事例を解説するとともに、市民としてどのように国際協力に関わっていくことが出来るのかを共に考えて行きます。			
授業の目的			
この授業は、開発途上国、開発途上国と日本の関係、世界の潮流、世界が抱える様々な問題（開発課題）について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。			
到達目標			
1. 世界の各地域が抱える開発課題の概要を知り、課題解決のための具体的な実践例に基づいて、望ましい国際協力のあり方を説明できる。(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 国際協力の事例を理解することによって、市民として国際協力に関する自身の考え方を持つとともに参加する足掛かりを作ることができる。(共通スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 世界が抱える課題を見ることを通して、我が国や地域社会の課題についても気づくことができる。(共通スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート、またはグループワークまとめ (計50%)、期末レポート (50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション (国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上地域と国際協力の概要 第3回 地域の課題と国際協力例Ⅰ (東南アジア地域) 第4回 地域の課題と国際協力例Ⅱ (南アジア地域) 第5回 地域の課題と国際協力例Ⅲ (中東・北アフリカ地域) 第6回 地域の課題と国際協力例Ⅳ (アフリカ地域) 第7回 地域の課題と国際協力例Ⅴ (中南米) 第8回 まとめ (45分) 上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その場合、可能な限り早く連絡します。			
【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めますが、地域の課題とその解決法を考えるため、複数回のグループワークを取り入れる予定です。グループ分けはその都度教員が指示します。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。(外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。)			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回 開発途上国とは何か、どのように分類されているのか、国際協力にはどのようなスキームがあるのかについて、国連機関やわが国外務省、JICA等のホームページから情報を収集し整理しておく。 第3回～第7回 それぞれの地域に位置する国々の中から1～2か国を選び、その国の歴史、文化、経済・社会開発状況、重要な開発課題について、授業で発表できるようまとめておく。			
教科書・参考書等			
教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3時限目 (13:00～14:30)、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
平成30年度以前開講の「国際協力論 その1 (その2)」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。
毎回出席を取ります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は 国際協力機構職員、パキスタン、スリランカでの勤務経験あり。勤務経験やその他の国の滞在経験をもとに開発途上国の現状や国際協力についての講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000424)	主題科目	後期集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産 Intelligent greenhouse plant production	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
藤内 直道	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】気温, 暖房, 施設生産, 光合成, 植物診断ロボット 太陽光植物工場は, 太陽光エネルギーを最大限に活用して大規模な農作物生産を行う施設であり, 気温・湿度・CO2・光強度などの様々な環境要因を制御することで4定(定時・定量・定品質・定価格)の農作物生産を実現します。本講義では, 太陽光植物工場における知能的農作物生産を支えるスピーキング・プラント・アプローチ技術(植物診断に基づいた環境制御)をはじめ, 環境制御の基礎となる気温・湿度および暖房, 植物の最も重要な環境応答である光合成と蒸散について学びます。			
授業の目的			
太陽光植物工場における農作物生産の概略とそれを支える先端的技術について理解する。			
到達目標			
食料生産システムとしての太陽光植物工場の位置づけを理解し, 農作物生産の将来像を明確化する。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①オリエンテーション: 植物工場の概略 (高山) ②光合成と蒸散の基本 (高山) ③生体情報に基づいた環境制御 (高山) ④光環境の基礎: 光の色とモノの色 (高山) ⑤温室環境制御1 (藤内) ⑥温室環境制御2 (藤内) ⑦温室環境制御3 (藤内) ⑧温室環境制御4 (藤内)			
【授業時間外学習について】 愛媛大学植物工場研究センターのホームページ等を参考にしてください。 http://igh.agr.ehime-u.ac.jp/			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画中で話したおもな内容をテキストとして記載しているスライド資料（PDF）あり。動画に字幕あり。			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			
教員の実務経験との関連			
太陽光利用型植物工場に実装可能な植物生体情報計測・活用技術の有償サービス化を行う大学発ベンチャーの設立（国内およびオランダ）とその経営、研究開発に携わった経験を有する教員が、太陽光植物工場における農作物生産に必要な最先端の技術を理解するための授業を行う。			

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Le2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000425)	主題科目	後期集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	
知プラe科目 タンパク質で生命を斬る Look Deep into Life through Proteins	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 澤崎 達也	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 遺伝子, タンパク質, 遺伝子組換え, バイオ, 光合成			
一般的にタンパク質というと、食物等に含まれるものが知られており、人の健康を維持するために摂取していく栄養素という印象を持つでしょう。実は、タンパク質にはそれ以外にも、大きな人の生命の維持という重要な役目も担っており、このタンパク質の役割を理解すると、これまでは単なる「なぞ」であったものが、より理論的に説明できることに気づくはずです。本科目は愛媛大学プロテオサイエンスセンターに所属する教員が提供する科目であり、最先端のタンパク質に関係する研究に触れながら、タンパク質の力と魅力について伝えていきます。タンパク質をよりもっと身近に感じ、科学の魅力への入り口でもあります。みなさんと議論を展開できることを期待しています。			
授業の目的			
生命現象がどのように営まれているか理解する。			
到達目標			
タンパク質を通して生命の仕組みが説明できる。 問題の発見・解決に取り組むための思考力を身につける。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 全15回分 ①タンパク質の発現システムを操る (第1回分) 小川 ②バイオの世界を変える技術イノベーション: コムギ胚芽無細胞タンパク質合成法 (第2回分) 澤崎 ③無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる (第3回・第4回分) 野澤 ④治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする (第5回・第6回分) 竹田 ⑤光合成のしくみと新エネルギーへの応用 (第7回・第8回・第9回分) 杉浦 ⑥タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ (第10回・第11回) 林 ⑦ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする (第12回・第13回分) 高橋 ⑧タンパク質の変化でマラリアが薬剤耐性になる (第14回分) 森田 ⑨マラリアは巧みにタンパク質を操って感染する (第15回分) 高島			
【授業時間外学習について】 プロテオサイエンスセンターのホームページ等を参考にしてください。 http://www.pros.ehime-u.ac.jp/			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画に字幕あり。動画の音声文字おこししたテキスト資料 (PDF) あり。			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000426) 主題 Themes 知プラe科目 気象学入門 Introduction to meteorology	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
	担当教員名 佐々 浩司	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 気象、天気予報、気象災害 気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きをシミュレーションや演示実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。			
授業の目的 天気の移り変わりにおける大まかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。			
到達目標			
日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点 ※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。 5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。 ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 豪雨 12. 強風と突風 13. 竜巻とダウンバースト 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害 【授業時間外学習について】 毎回の講義内容のまとめを行う 【受講の条件】 気象に興味があること。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 参考書1 書名 一般気象学 第2版補訂版 I S B N 978-4-13-062725-2 著者名 小倉義光 出版社 東京大学出版会 出版年 2016			

金額 2800円＋税

備考 専門向きでやや高度です。

オフィスアワー 原則としてメールによる問い合わせ。ただし、土日祝日および平日夜10時以降朝6時までのメールは一切受け付けず、破棄します。Moodleのメッセージは見えていません。
sassa@kochi-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくの良いと思います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000427) 主題 Themes 知プラe科目 昆虫と環境 Insects and Environment	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 小西 和彦	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 昆虫、分類、多様性、環境 昆虫は地上のありとあらゆる環境に進出し繁栄しているグループで、身近に目にすることも多いと思います。昆虫類はこれまでに知られている種だけでも約10万種いて、実際には50万種はいるだろうと考えられているくらい種数が多く、全動物の種数のうち80%以上を占めるといわれています。本科目では、このように多様な昆虫についてその特徴を理解し、どうして多様性が増大し得たのかを考えます。そして、その多様性が現在の日本でどのような状態にあるのかを知り、私たちの周りの自然や環境について考えるきっかけとします。			
授業の目的 昆虫に関する理解を深め、昆虫と環境のかかわりについての知識を習得する。			
到達目標 地球上で最も繁栄する生物としての昆虫を理解することによって、関心を持つことができる。基本的な昆虫の分類についての知識を修得できる。昆虫類の多様性保全を理解できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①昆虫ってどのようなもの? (小西) ②昆虫を分類する。分類とは? (小西) ③昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 1 (小西) ④昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 2 (小西) ⑤昆虫コレクションの紹介ー愛媛大学ミュージアム・ツアー (吉富) ⑥絶滅危惧種ー多様性の損失 (吉富) ⑦外来種ー多様性を脅かす存在 (吉富) ⑧昆虫の保護と保全ー多様性を守ること (吉富)			
【授業時間外学習について】 以下のホームページや愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/index.html 日本昆虫分類学会 https://sites.google.com/site/jjsystent/ 愛媛大学ミュージアム https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画の音声文字おこししたテキスト資料(PDF)あり。動画に字幕あり。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

吉富は民間企業で環境アセスメント等に伴う環境調査の実務経験があり、その経験を生かして様々な環境問題や環境法、保護・保全の実情について講義する。

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000428) 主題 Themes 知プラe科目 人工魚礁の開発と環境保全 Development of Artificial Reefs and Environmental Conservation	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 末永 慶寛	関連授業科目 数学C、海域環境マネジメント、プログラミング		
	履修推奨科目 数学C、海域環境マネジメント		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】人工魚礁, 流動制御, 環境改善, 資源生産力			
我が国沿岸海域における水産資源生産力の向上のための施設として、様々な人工魚礁が開発されてきた。本講義では、人工魚礁開発の歴史と人工魚礁の有すべき水産資源生産力向上および環境改善機能について、実海域における具体例を挙げながら解説する。			
授業の目的			
主に瀬戸内海を中心として、人工魚礁の開発にまつわる歴史、求められる機能、設計コンセプトおよび実海域における生物資源増大に資する効果に関する知識を得ることが本授業の目的である。			
到達目標			
本講義を受講することにより、以下の項目を説明できる。 1. 人工魚礁の歴史、役割 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 人工魚礁の流動制御機能 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 人工魚礁の実海域における生物資源生産力向上効果 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. 地場産業との共同研究による技術の実用化 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 5. SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」			
成績評価の方法と基準			
4回の小テストを計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験 (提出) 回数が3回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
※ 授業内容は変更になる可能性があります。			
1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、人工魚礁開発の歴史 2. 人工魚礁の安定性 3. 人工魚礁の流動制御機能 4. 人工魚礁の生物増集機能 5. 人工魚礁の藻場造成機能 6. 人工魚礁の環境改善機能 7. 大学と地場産業との連携による実用化の事例 8. 期末レポート			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
第1回 人工魚礁に関する機能、実施例等を事前に調べておく。(4時間)			
第2回 人工魚礁の安定性について、海底設置後の評価方法を調べておく。(4時間)			
第3回 人工魚礁の流動制御機能について、評価方法、実施例を調べておく。(4時間)			
第4回 人工魚礁の生物増集機能について、海底設置後の効果について調べておく。(4時間)			
第5回 人工魚礁の藻場造成機能について、藻場の重要性の理解と情報収集をしておく。(4時間)			
第6回 人工魚礁の環境改善機能について、実海域で効果を検証した事例を調べておく。(4時間)			
第7回 人工魚礁の実用化の事例について、事前に調べておく。(4時間)			
第8回 期末レポートについて、講義全般を通じて取り組んだ課題と内容について復習しておく。(2時間)			

教科書・参考書等

参考書（自主学習用で必ずしも購入の必要はない）：閉鎖生態系・生態工学ハンドブック(2015)，大政，竹内ら，監修，アドストーリー発行，丸善出版，ISBN978-4-904419-57-1 ￥5,060（税込）

オフィスアワー 時間：火曜日4時限目，木曜日2時限目

場所：林町キャンパス2棟5階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(suenaga.yoshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

教員の実務経験との関連

建設業，コンサルティング，サービス業等の実務経験を有し，その経験を活かして構造物の設計，施工，環境影響評価および実用化に至る「ものづくり」の基礎を教育している。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000429) 主題 Themes 知プラe科目 知の探訪 Guidance of Human Intelligence	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】徳島大学、研究、科学技術			
大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。			
授業の目的			
大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」とは何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。			
到達目標			
徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末に定期試験(レポート)を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はe-ラーニング形態ですので、各回に課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います(各回の課題が5回以上未提出の場合は成績判定の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します(低い評価となる、あるいは、評価対象とならないといったことがあります)。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
①金西計英・高等教育研究センター「ガイダンス」 ／野地 澄晴・徳島大学学長 「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」 ②高石 喜久・徳島大学副学長 「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」 ③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開:ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍児・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」 ④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」 ⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」 ⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」 ⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」 ⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」 ⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか?」 ⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」 ⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」 ⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」 ⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」 ⑭原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」 ⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」 ⑯定期期末試験(レポート)			
【授業時間外学習について】 講義後に関連する事項について復習する			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をか			

ける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします

e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください（e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています）。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000702)	主題科目	1Q木5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災リテラシー養成講座(災害を知る)A Disasters Literacy Education A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座 (第2クォーター) 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習 (事前15時間, 事後15時間)			
授業の概要			
本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ2・後期の防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験 (受験料3000円が別途必要) に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる (申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的			
日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義とQ2・第2学期の防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎週のレポート (約40%) と期末試験 (約60%) を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス: 防災士を目指そう (防災士の役割) 第2週 近年の自然災害に学ぶ ―災害現場からの教訓― 第3週 地震・津波災害と対策 第4週 火山噴火のしくみと被害 第5週 風水害と対策 第6週 土砂災害と対策 第7週 防災気象情報の知識と活用―公的機関による予警報― 第8週 期末テスト (45分) と火災と防火対策 (45分) なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
【講義方法】 本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。 なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。			
教科書・参考書等			
教科書: 日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」 (頒布価格: 3500円)			

(受講者は必ず購入すること)

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その1」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者がオムニバス形式で講義。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000703)	主題科目	2Q木5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災リテラシー養成講座(災害を知る)B Disasters Literacy Education B	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座 (第1クォーター) 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習 (事前学習15時間・事後学習15時間)			
授業の概要			
本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ1・後期の防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験 (受験料3000円が別途必要) に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる (申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的			
日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義とQ1・第2学期の防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎週のレポート (約40%) と期末試験 (約60%) を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 地震に関する知見・情報 第2週 災害報道―災害情報の入手・発信と流言・風評― 第3週 災害とライフライン 第4週 災害と交通インフラ―四国の防災対策― 第5週 行政の災害対応―香川県の防災対策― 第6週 先人の教えに学ぶローテク防災術 第7週 都市防災 第8週 まとめと修了式 (45分) 試験 (45分)			
なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
【講義方法】 本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。 なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。			

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」（頒布価格：3500円）

（受講者は必ず購入すること）

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その2」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-1N-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000704)	主題科目	1Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応
History and Culture of Shikoku area first period	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
	e ラーニング		
担当教員名	関連授業科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
守田 逸人, 林 敏浩, 藤本 憲市	履修推奨科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】四国、瀬戸内海、香川県、歴史			
四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的			
四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史について知識を得ることができる。また、現代的課題でもある四国地域と京阪神地域との結びつきなどについて、理解を深めることもできる。			
本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目的である。			
到達目標			
1. 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解し、地域社会の将来について考えることができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ガイダンスを除く授業7回分(各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
① ガイダンス(授業概要、受講方法等について)			
平安末阿波武士と仏教文化 (大石 雅章/鳴門教育大学)			
② 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1) (田中健二 /香川大学教育学部)			
③ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(2) (田中健二 /香川大学教育学部)			
④ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3) (田中健二 /香川大学教育学部)			
⑤ 中世の瀬戸内海水運(1) (田中健二 /香川大学教育学部)			
⑥ 中世の瀬戸内海水運(2) (田中健二 /香川大学教育学部)			
⑦ 阿波商人の活躍と江戸時代の経済 (桑原恵/徳島大学総合科学部)			
⑧ 期末レポート (オンライン)			
【自学自習について】			
各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。			
【授業時間外学習について】			
e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。			
※自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
教科書・参考書等			
特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。電子メール(rekishil-c@kagawa-u.ac.jp)を利用すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業はフルオンデマンドのe-Learning形態で実施するため講義室での対面授業は行わない。また、受講制限をかける場合がある。詳細は大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブサイト(URL:https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)にある「知プラe科目の履修案内」に記載されているので必ず熟読のこと。			
本授業を履修するためには、各自パソコンから教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要となる。各登録は期限内に完了すること。もし期限内に登録が完了していない場合は履修を許可しない。また、受講方法の詳細については第1回(ガイダンス)で説明しているので必ず視聴すること。			
各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。			
平成30年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000705)	主題科目	2Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 四国の歴史と文化 その2 文化編	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応
History and Culture of Shikoku area second period	授業形態 講義	単位数 1	対応なし
	e ラーニング		
担当教員名	関連授業科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編		
渡邊 史郎, 林 敏浩, 藤本 憲市	履修推奨科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要			
【キーワード】四国、文化、漢文、文学、方言学			
四国の文化について講義する。各回では、四国に関わる文学作品などに関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的			
四国の風土や歴史に関わる文学や方言についていくらかの知識を得ることで、自らが暮らす地域について深く知るきっかけをつくることは重要である。本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目的である。			
到達目標			
1. 四国地域の文化についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
3. 四国地域の課題を文化的観点からとらえて再考すること出来る。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業毎の小テスト (7回: 各6点満点) と期末レポート課題 (1回: 58点満点) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。またレポートに剽窃が認められた場合も「不可」となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
1 ガイダンス、四国の文化に向けて (渡邊史郎/香川大学教育学部)			
2 四国の万葉集と古代史 (田中省造/四国大学文学部)			
3 讃岐における崇徳院と西行の物語——『雨月物語』『白峯』を中心に—— (北原圭一郎/香川大学教育学部)			
4 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に—— (池田恭哉/香川大学教育学部)			
5 物理学者・寺田寅彦の文学 (永橋 禎子/高知県立文学館)			
6 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面 (渡邊史郎/香川大学教育学部)			
7 愛媛を歩く——方言の旅—— (清水史/愛媛大学法文学部)			
8 期末レポート (オンライン)			
※各回の担当者の所属については、コンテンツ収録当時のものです。			
……7までのコンテンツを視聴したのち、各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。期末レポートについては、第1回のレポートに関するガイダンスをよく理解して取り組むこと。特にどのようなものが剽窃に当たるかを厳密に理解して取り組むこと。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。			
また、科目によって受講制限をかける場合がある。			
なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別に			
e-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、			
大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している			
香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。			
期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			
URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等			
特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。Moodle内のコミュニケーションツール (フォーラム等) や第1回 (ガイダンス) で通知するメールアドレスを活用すること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。
- ・ 2018年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できません。

教員の実務経験との関連

講師陣には、地域の文学館に勤務する方が含まれている。したがって、地域における文化政策の方向性についても参考になるだろう。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000706) 主題 Themes 知プラe科目 四国の地域振興 その1 Local Development of Shikoku area first period	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の地域振興 その2		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度			
四国における地域振興の取組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。瀬戸内国際芸術祭などが事例に取り上げられます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的			
地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。			
(1)～(2)の到達目標は、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」・「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) ガイダンス:「四国の地域振興 その1」で何を学ぶか? (2) 讃岐のハマチ養殖と野網和三郎 (嶋野勝路(全国海水養魚協会会長)) (3) 讃岐うどん (香川政明(さぬき麺業社長)) (4) 香川の手袋産業 (原直行(香川大学)) (5) 香川の石材産業 (西成典久(香川大学)) (6) 高知の林業と製造業 (石筒覚・霜田博史(高知大学)) (7) 動画による地域のPR (林敏浩(香川大学)) (8) 四万十の今と昔 (原直行(香川大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000707) 主題 Themes 知プラe科目 四国の地域振興 その2 Local Development of Shikoku area second period	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の地域振興 その1	
履修推奨科目 特になし			
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度			
四国における地域振興の取り組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。瀬戸内国際芸術祭などが事例に取り上げられます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的			
地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。 (1)～(2)の到達目標は、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」・「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) ガイダンス:「四国の地域振興 その2」で何を学ぶか? (2) 文化力とまちづくり (竹内守善(香川大学非常勤講師)) (3) 地域振興とメディア (林敏浩(香川大学)) (4) アートとエコツーリズム (石井亨(香川大学非常勤講師)) (5) 共同体の崩壊 (石井亨(香川大学非常勤講師)) (6) 四国四県の政治経済の歴史 (八幡和郎(徳島文理大学)) (7) 四国の展望―四県知事インタビュー 徳島・香川 (八幡和郎(徳島文理大学)) (8) 四国の展望―四県知事インタビュー 愛媛・高知 (八幡和郎(徳島文理大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000708)	主題科目	3Q集中	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 四国の自然環境と防災	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応
その1	授業形態 講義	単位数 1	対応なし
Natural Environment and Disaster	e ラーニング		
Measures of Shikoku Area first			
period			
担当教員名	関連授業科目 特になし		
寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地形が物語る壮大な四国形成史のドラマ。豪雨地帯と乾燥地帯の同居する島に生きる人々の水資源を求める知恵のかずかず。瀬戸内の自然環境の魅力と里海再生のとりくみ。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的			
四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然を地球誌の中にとらえ直す視点の転換を体験する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国の自然から魅力を見出し、地域社会に活かせるようになる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1部: 四国の自然環境 (1) ガイダンス・ため池の歴史 黒川義夫 (前香川県農政水産部) (2) 四国の河川環境と暮らし・防災 古田昇 (徳島文理大学文学部教授) (3) 四国の気候と水資源 寺尾徹 (香川大学教育学部教授) (4) 讃岐の地形と地質の面白さ 長谷川修一 (香川大学工学部教授)			
第2部: 瀬戸内海の環境 (5) 四国の国立公園の魅力 齋藤倫実 (環境省高松自然保護官事務所自然保護官) (6) 瀬戸内海の浅海環境の抱える問題 多田邦尚 (香川大学農学部教授) (7) 森里川海を繋ぐ里海づくり 田中丈裕 (NPO里海づくり研究会議事務局長) (8) 期末レポート			
※授業内容は諸事情により変更になることがあります。			
【授業時間外学習について】 次回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等に当たってみよう (準備学習2時間) e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください (事後学習2時間)。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー 電子メール (shizen-c@kagawa-u.ac.jp) を利用してください。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体等の実務経験のある教員が、地域の自然環境の保全等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の自然環境の考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000709) 主題 Themes 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その2 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area second period	科目区分 主題科目 水準 学士:基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2022年度 4Q集中 提供部局 : 大教センター DPコード : ecb 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+ 自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探る旅に出よう。地球最大級のプレート境界型地震・東南海・南海地震の危険が迫る太平洋岸。それとたたかおうと立ち上がる地域の力。自然の営みと人間の関わり方の新たな模索。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標 1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然の循環と災害のメカニズムを正確に理解する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国が直面する豪雨や地震などに伴う災害の脅威に正しく対処できるようになる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第3部: 災害に備える (1) ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動 片岡信彦 (日本損保協会) (2) 四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害 西山賢一 (徳島大学総合科学部准教授) (3) 先人の教えに学ぶ—四国防災88話— 松尾裕治 (JACIC四国地方センター) (4) 災害と交通インフラ—四国の防災対策— 植松真二 (国土交通省四国地方整備局総括防災調整官) 第4部: 持続可能な自然と社会 (5) ジオパークは人を幸せにできるのか 柚洞一央 (徳山大学経済学部准教授) (6) 持続可能な社会づくりのための環境教育① 小林修 (愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授) (7) 持続可能な社会づくりのための環境教育② (8) 期末レポート			
【授業時間外学習について】 次回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等にあたってみよう (準備学習2時間) e-e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください (事後学習2時間)。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール (shizen-c@kagawa-u.ac.jp) を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS			

(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体、民間団体等の実務経験のある教員が、地域の防災等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の防災に係わる考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000710) 主題 Themes 知プラe科目 香川の文化と歴史 Culture and History of Kagawa	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 山田 香織	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自修 (事前学修 16時間 + 事後学修 16時間)			
授業の概要 香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げることができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、歴史と生活・習俗について概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。			
授業の目的 瀬戸内地域を中心とした香川に関する知見を深めるとともに、同地域が抱える課題とその解決に向けた取り組みの様態について理解することを目的とする。			
到達目標			
瀬戸内地域を中心とした香川の地域的特徴と課題について説明ができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」及び「地域に関する関心と理解力」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の小テストおよび期末レポートにより評価する。 配点: 109点満点 (小テスト 64点 (各8点×8回) + 期末レポート 45点) 。 合格基準: 109点満点を100点満点に換算した上で60点以上を合格とする。 なお、小テスト未受験回数が3回以上の受講生には、期末レポートの提出資格を与えない。期末レポートを提出しても評価対象としない。すべての小テスト及び期末レポートはMoodle (LMS) を用いてオンラインで実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
詳しい受講方法 (小テストの受験の仕方、受験期間、配信映像の視聴期間等) についてはmoodle内の本科目ページにて説明をしています。受講にあたっては、必ずそちらも一読してください。			
第1回 ガイダンス、香川の歴史 第2回 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する 第3回 香川における文化振興の現状を理解する 第4回 離島と離島振興について理解する 第5回 香川の島々と瀬戸内国際芸術祭 第6回 伊吹島の事例 第7回 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし 第8回 魚食文化について ※ 授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) 上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ (https://chip-la-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html) に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。			
【授業時間外学習について】 1. 事前学修として、香川県に關係する歴史的な出来事について文献等により調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 2. 事前学修として、瀬戸内海の景観について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 3. 事前学修として、香川県にまつわる文化について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 4. 事前学修として、香川県の離島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 5. 事前学修として、瀬戸内国際芸術祭について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 6. 事前学修として、伊吹島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テ			

ストを受験する。

7. 事前学修として、瀬戸内における漁労の現状について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。

8. 事前学修として、香川県における魚食の特徴について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。更に、第1-7回の授業内容を総復習するとともに期末レポートを作成する。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワーは設定しない。Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）にて問い合わせをすること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

本講義を履修する際には、各自でパソコンからのMoodle（LMS）への登録が必要となるので、登録作業を所定期間内に完了すること。この期間に登録が完了できなかった場合は、原則、履修を許可しない。

本授業内容に関する問い合わせは以下のメールアドレスに送付してください。

kgw-br-c@kagawa-u.ac.jp

2018年度以前に「香川の文化と歴史」（2単位）を単位修得している場合は履修できない。

2019、2020年度に「香川の文化と歴史 その1」、「香川の文化と歴史 その2」のうち少なくともいずれかの単位を修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

本科目はオムニバス形式の授業であり、半数以上の授業回を実務経験のある講師（地方公共団体公務員、学芸員等）が担当している。画像や映像、資料等を多用しながら、それぞれの現場での近年の実践事例や調査研究の成果を提示している。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000711) 主題 Themes 知プラe科目 香川を学ぶ その1 Studies on Kagawa Region first period	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目 香川を学ぶ その2		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自修 (準備学修 15時間 + 事後学修 15時間)			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、四国遍路、栗林公園、瀬戸内海運の歴史、文化財、及び伝統食の一端を紹介する。			
授業の目的 香川県（讃岐）の伝統食や文化財、香川県内の産業に関する事柄など、香川県にまつわる歴史、文化、及び伝統に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標 1. 讃岐地方の歴史や文化を理解できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域社会の課題を探究し、その解決策を提示できる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。 3. 地域社会の現状について説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回 50点（特に到達目標1に対応）、期末レポート 50点（特に到達目標2及び3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出（受験）していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス（授業概要等）、四国遍路の歴史 2. 讃岐の札所と遍路道 3. 近世の讃岐国における遍路の実態 4. 栗林公園の美と歴史 5. 瀬戸内海運の歴史 6. 文化財と観光資源論 7. 讃岐の伝統食 8. 期末レポート 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限がありません。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ（ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html ）に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。 【自学自修のためのアドバイス】 1. 事前学修として、弘法大師について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間） 2. 事前学修として、香川県にある札所（寺院名）について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間） 3. 事前学修として、中世における遍路について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間） 4. 事前学修として、大名庭園について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）			

5. 事前学修として、近世における本州と四国の間の交通網について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間，事後学修2時間）
6. 事前学修として、観光の定義について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間，事後学修2時間）
7. 事前学修として、自身の出身地の特産物や伝統食について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間，事後学修2時間）
8. 事前学修として第1-7回の授業内容を復習し，授業時間と事後学修時間を利用して期末レポートを作成する。（事前学修1時間，事後学修1時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので，電子メール（kgw01-c@kagawa-u.ac.jp）を利用のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

パソコンの基本的な使い方など，e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお，平成30年度以前に「香川を学ぶ（セメスター科目名）」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000712) 主題 Themes 知プラe科目 香川を学ぶ その2 Studies on Kagawa Region second period	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目 香川を学ぶ その1		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自修 (事前学修 15時間 + 事後学修 15時間)			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、香川における産業とまちづくり事例、環境問題などに関する事柄を紹介する。			
授業の目的 香川県（讃岐）のまちづくり事例、産業、水問題、風水害に関する事柄など、香川県にまつわる産業及び環境に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			
1. 香川県におけるまちづくり、産業、及び自然環境について理解できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域社会の課題を探究し、その解決策を提示できる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。 3. 地域社会の現状について説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回 50点（特に到達目標1に対応）、期末レポート 50点（特に到達目標2及び3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出（受験）していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス（授業概要等）、まちづくりの事例 2. 讃岐の盆栽 3. 香川の手袋産業 4. 香川の離島の魅力 5. 香川の水を考える 6. ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション 7. 風水害と対策 8. 期末レポート			
第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。			
各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限がありません。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ（ https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html ）に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。			
【自学自修のためのアドバイス】 1. 事前学修として、高松市のまちづくり戦略計画について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間） 2. 事前学修として、盆栽の起源・歴史について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間） 3. 事前学修として、手袋に関する統計データを文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）			

4. 事前学修として、香川県の離島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
5. 事前学修として、過去に発生した渇水事例について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
6. 事前学修として、集中豪雨の定義と過去の発生事例について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
7. 事前学修として、風水害の定義と過去の発生事例について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
8. 事前学修として第1-7回の授業内容を復習し、授業時間と事後学修の時間を利用して期末レポートを作成する。(事前学修1時間, 事後学修1時間)

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので、電子メール (kgw01-c@kagawa-u.ac.jp) を利用のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお、平成30年度以前に「香川を学ぶ(セメスター科目名)」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000713)	主題科目	前期集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	
知プラe科目 阿波学	分野 主題	DPコード: ecb	対象学生 全学生
Awa-Gaku	授業形態 講義	単位数 1	特定プログラムとの対応
	e ラーニング		対応なし
担当教員名	関連授業科目 特になし		
藤原 伸彦, 宮下 晃一, 竹口 幸志	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】(1) 四国遍路 (2) 俳句の心理学 (3) 四国遍路の歴史, 文化, 地理 (4) 歩き遍路と教育			
四国遍路の歴史や文化, 歩き遍路体験者の心理等について, 講義を通して学ぶ。			
授業の目的			
四国の文化アイデンティティたる遍路について学ぶことを通じ、地域理解を深め、地域の教育リーダーとしての資質を養う。講義を通して、遍路に関する基礎理解を形成する。遍路の歴史や文化、遍路と地域社会のかかわりなどについて知る。			
到達目標			
講義により、地域社会における遍路文化に関する基礎理解を得る。歩き遍路体験により、遍路地域の文化や自然、遍路を支える人々の活動、自治体の取組などを直接知る。以上を通じ、教育や学校にたずさわろうとする者にとっての、地域文化を理解・尊重する基盤的態度・視座を形成する。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
課題の提出状況及び内容、フォーラムにおけるディスカッションの状況及び内容等を総合的に評価する。ただし、3分の2以上の出席を要する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション			
第2回 四国遍路と俳句の心理学			
第3回 四国遍路と地理			
第4回 四国遍路に関する歴史 (近世)			
第5回 歩き遍路と教育 (1)			
第6回 歩き遍路と教育 (2)			
第7回 歩き遍路と教育 (3)			
第8回 まとめ			
【授業時間外学習について】			
毎回課題が出るので、必ず取り組むこと。課題の提出を持って出席とする。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			
URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー 電子メール (fujihara@naruto-u.ac.jp) で問い合わせること			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
令和3年度以前に「阿波学」を単位修得している場合は履修できない。			
動画には著作権があるため、むやみにダウンロードなどしないこと。			

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000801)	主題科目	後期末5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) Disasters Competency Education	授業形態 講義	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 井面 仁志, 中島 美登子, 黒田 泰弘	関連授業科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る)		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義と1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的			
日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義と第1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス 被害想定とハザードマップ 第2週 防災訓練ー災害イメージ訓練ー 第3週 避難と避難行動 第4週 事業継続計画と地域継続計画 第5週 耐震診断と耐震補強 第6週 身近でできる防災対策 第7週 災害復旧と支援制度ー高松市の防災対策ー 第8週 避難所の運営と仮設住宅の暮らし 第9週 緊急救助技術を身につける 第10週 災害医療 第11週 地域の防災活動 第12週 災害とボランティア活動 第13週 惨事ストレスと心のケア 第14週 災害と損害保険 第15週 災害と危機管理, 修了式			
なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			

【講義方法】 本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。 なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。
教科書・参考書等 教科書：日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」（頒布価格：3500円） （受講者は必ず購入すること） テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。
オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、1学期の防災リテラシー養成講座（災害を知る）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。
教員の実務経験との関連 防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Ep2 授業科目名 (時間割コード: 000802) 主題 Themes 地域活動 Activity in the region 担当教員名 平 篤志, 青山 夕夏	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 PBL	単位数 2	
	関連授業科目 「四国の歴史と文化」「四国の地域振興」 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×2回+実習(45時間以上)+発表会+自学自習(準備学習 10時間 + 事後学習 5時間)			
授業の概要 地域活動に参加し、生涯学習社会と持続可能社会の構築のあり方を実践的に学ぶ。			
授業の目的 地域活動に参加し、地域社会に貢献することを通して、生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる学習を実践的に行うことを目的とする。			
到達目標 1. 地域活動に参加し、地域に関する関心と理解力を高め、実際に地域社会に貢献ができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任と倫理観」に対応)。 2. 地域活動の体験をもとに、生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる実践的な学習の意義を説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業開始時の講義を受講し、その後指定する期間中に延べ45時間以上の活動に参加する。また、指定の期日までに「地域活動の記録」(活動日誌)および中間・最終レポートを提出し、活動内容を発表会で報告する。成績配分の目安: 授業への取り組み(地域活動, 日誌作成, 発表会を含む) 60%, 中間レポート10%, 最終レポート30%。なお、2月まで活動が続くため、成績は後期授業のそれと同時期に発表する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 地域活動期間中は、活動日誌に活動内容を記録し、活動途中と活動終了後にレポートを作成し、活動報告(発表会)を行う。 この科目は基本的に対面授業を行い、一部の授業回では遠隔授業を行う。 第1回: ガイダンス, 授業の概要説明と個別プロジェクトの紹介 第2回: ボランティアについて考える(講義), 参加プロジェクト選択(遠隔・対面併用) 第3回: ボランティアについて考える(講義), 参加プロジェクト決定(遠隔・対面併用) 第4回～第14回: 各プロジェクトで地域活動を実施 第15回: 合同発表会 10月中: 活動の進行状況に関する中間レポート提出 2月: 最終レポート提出, 活動内容に関する合同発表会 講義担当: 平 篤志 プロジェクト(予定)一覧(担当者: プロジェクト名) ・平 篤志: JR屋島駅を核とした屋島活性化プロジェクト ・青山夕夏: 地域の音楽活動プロジェクト 事前・事後学習について 事前・事後学習として、期間中、授業中紹介のあった、あるいは自身で探した地域活動に関する内外の文献を読み、地域活動の意義について考える。また、地域でどのような行事や活動が行われているか、新聞やテレビ等の報道に随時注意を払うようにする。(15時間) 成績評価について(目安) 授業への取り組み(地域での実践活動, 日誌作成, 発表会を含む) 60%, 中間レポート10%, 期末レポート(最終発表) 30%			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考初等については、最初の授業時に紹介する。			
オフィスアワー 水曜日12:00-13:00(平研究室: 教育3号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 学外で活動を行うので、社会の基本ルールを十分に守ること。受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。また、科目の性格上、受講希望者数が各教員プロジェクトの受け入れ人数の合計を上回った場合は、抽選を行う。			
教員の実務経験との関連 平, 青山とも附属学校(中学校・特別支援学校)での校長経験を有し、地域と学校ほか各種団体の連携について実践的な知見をもっている。			

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lp2	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：000803)	水準 学士：基礎科目 分野 主題	提供部局：大教センター DPコード：ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes キャリアデザインと地域貢献A Career Design and Regional Contributions A	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B 履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B		
学習時間 授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）			
授業の概要 本授業は、社会人としての視点を持って、自身の興味のある業界や企業に関する課題解決を経験します。授業内容としては、日本や地域の公務や産業界の知識を得ることによって、興味のある領域に関する新規事業などをグループで考え、発表します。			
授業の目的 本授業では、学生のみなさんが社会の変化に対応し、主体的に行動する力を身につけることを目的とします。具体的には、学生の皆さんが日本や地域及び企業の現状を知り、SDGsなどの観点から課題を発見し、それに対する解決方法を他者と協働しながら模索することを通して、今後の社会を生きぬく力を身につける支援をします。			
到達目標 ①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。（「地域に関する関心と理解力」に対応） ②論理的な仮説を立てることができ、考えを具体的な行動へと移すことができる。（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） ③課題解決の方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ④社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。（「市民としての責任感と倫理観」に対応）			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み態度及び各回提出のポートフォリオ(20%)、発表成果(50%)、期末レポートの内容(30%)をもとに判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. 実施期間・授業計画 ※5月頃に決定します。 <1日目> 第1回～第2回 講義 オリエンテーション・地域に関する関心と理解力 演習 生きぬくための基礎力の確認と目標 第3回～第4回 講義 ゲスト1：日本電機工業会 演習 グループワーク <2日目> 第5回～第6回 講義 ゲスト2：香川県商工労働部 講義 ゲスト3：香川県観光協会（元） 第7回～第8回 講義 ゲスト4：リンナイ株式会社 講義 ゲスト5：ユニ・チャームプロダクツ株式会社 <3日目> 第9回～第10回 講義 ゲスト6：起業家 演習 グループ活動 第11回～第12回 演習 グループ活動 演習 グループ活動 <4日目> 第13回～第14回 演習 グループ活動 演習 発表 第15回 講義 まとめ、提出レポートの作成及び提出 1～3日目：1～4校時 4日目 ：1～3校時			
2. 実施場所・履修方法については、5月中旬頃の掲示を確認すること 【授業および学習の方法】 本授業は、講義とグループワークからなる。 この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 1日目 個人が授業で身につけたい力を考えます。第4次産業革命について情報収集しておきましょう。			

- 2日目 ゲスト講師の話から業界や企業を知り、課題を考えます。興味のある業界を調べておきましょう。
- 3日目 若手起業家の話を聞き、新規企画の方法を知り、それを元にグループで課題解決に向けて活動します。
- 4日目 伝わるプレゼンテーションの仕方を工夫しましょう。評価を受け、まとめとレポート提出。

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、2021年度開講の「地域貢献人材育成実践講座Ⅱ」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

- ① 集中講座期間中のスケジュールはもちろんです、連続講義ですので体調管理をしてください。グループワーク中心の講義ですので、遅刻がないようタイムマネジメントに十分留意してください。
- ② 集中講義期間中に台風等の悪天候で休講となった場合には、講義の日時が変更となる場合があります。翌週の月曜日が振替日となる可能性もありますので、可能な限り予定をあけておいてください。
- ③ 履修登録後は香川大学教務システム“Dream Campus”からの連絡メッセージを必ず確認できる状態にしておいてください。何らかの事情で別手段での連絡を希望する場合には、事前に担当教員に申し出ておいてください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー〔大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lp2	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000804)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
主題 Themes キャリアデザインと地域貢献B Career Design and Regional Contributions B	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B		
	履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B		
学習時間 授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間+事後学習30時間）			
授業の概要			
本授業は、社会人としての視点を持って、自身の興味のある業界や企業に関する課題解決を経験します。授業内容としては、日本や地域の公務や産業界の知識を得ることによって、興味のある領域に関する新規事業などをグループで考え、発表します。			
授業の目的			
本授業では、学生のみなさんが社会の変化に対応し、主体的に行動する力を身につけることを目的とします。具体的には、学生のみなさんが日本や地域及び企業の現状を知り、SDGsなどの観点からそれに対する解決方法を他者と協働しながら模索することを通して、今後の社会を生きぬく力を身につける支援をします。			
到達目標			
①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。（「地域に関する関心と理解力」に対応） ②論理的な仮説を立てることができ、考えを具体的な行動へと移すことができる。（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） ③課題解決の方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ④社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。（「市民としての責任感と倫理観」に対応）			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み態度及び各回提出のポートフォリオ(20%)、発表成果(50%)、期末レポートの内容(30%)をもとに判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業および学習の方法】 本授業は、講義とグループワークから構成されます。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・キャリアデザイン 第2回 生きぬくための基礎力の確認と目標 第3回 ゲスト1：公務：香川県農政水産部農業生産流通課 第4回 ゲスト2：製造：ユニ・チャームプロダクツ（株） 第5回 ゲスト3：通信：富士通グループ 第6回 ゲスト4：インフラ：四国電力関係講師の講演会を予定 第7回 ゲスト5：日本原子力関係講師（6回と同日、7回目の日程は振替休日） 第8回 ゲスト6：メーカー：元SONY の方 第9回 ゲスト7：起業家「新規事業企画について」の講話 第10回 グループ活動 第11回 グループ活動 第12回 グループ活動 第13回 グループ活動 発表準備 第14回 成果発表と評価（ゲスト7：起業家） 第15回 まとめ			
※ゲスト講師の日程等は、変更の可能性あります。			
【授業および学習の方法】 本授業は、講義とグループワークから構成されています。 この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 1～2回 個人が授業で身につけたい力を考えます。第4次産業革命について情報収集しておきましょう。 3～8回 ゲスト講師の話から業界企業を知り、課題を考えます。興味のある業界を調べておきましょう。 9～13回 若手起業家の話から新規企画の方法を知り、グループで課題解決に向けて活動します。			

14回 伝わるプレゼンテーションの仕方を工夫しましょう。

15回 まとめとレポート提出。

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、2021年度開講の「地域貢献人材育成実践講座Ⅰ」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。・演習実施のため定員を上限100名とし必要に応じて受講者人数調整を行います。（第1講は必ず出席すること）
- ・グループワーク中心の講義ですので、遅刻がないように十分留意してください。
- ・グループでの課題解決のため、できる限り欠席を避けてください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー〔大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000805) 主題 Themes 地域インターンシップ I Internship in the region	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期木1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標 1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 インターンシップへの参加とその態度: 70%、事前指導・報告会・レポート: 30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝インターンシップ）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。 この科目は全回対面授業を行います。			
【授 業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回: ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回: 地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回: インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回: 実習 ・第15回: 事後指導／報告会のための学修 ・第16回: 活動報告会			
【インターンシップについて】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり（今後の展望について自治体・住民等とも話し合い） ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します（詳細は受け入れ先と学生で調整）。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する（方法については追って指示）。			
【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。			
【活動場所・受け入れ先】 今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。			

本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。
また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

＜実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による＞
県内各企業、自治体、地域おこし協力隊など

【実習費用について】
現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】
期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】
自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）
インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）
インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）
活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室・長尾研究室
その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。
旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。
都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。
なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000806)	主題科目	後期木1	
主題 Themes	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	
地域インターンシップ Internship in the region	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的			
授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらし主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 インターンシップへの参加とその態度: 70%、事前指導・報告会・レポート: 30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝インターンシップ）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。			
この科目は全回対面授業を行います。			
【授業】			
インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回: ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回: 地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回: インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回: 実習 ・第15回: 事後指導／報告会のための学修 ・第16回: 活動報告会			
【インターンシップについて】			
地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり（今後の展望について自治体・住民等とも話し合い） ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します（詳細は受け入れ先と学生で調整）。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する（方法については追って指示）。			
【インターンシップ実施後】			
「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。			
【活動場所・受け入れ先】			
今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。 本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。 また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選			

考する。

＜実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による＞
県内各企業、自治体、地域おこし協力隊など

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室、長尾研究室

その他、必要であれば、

担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000807) 主題 Themes 地域インターンシップハ Internship in the region	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 インターンシップへの参加とその態度: 70%、事前指導・報告会・レポート: 30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝インターンシップ）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。 この科目は基本的に対面授業を行います。 【授業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回: ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回: 事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回: 地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回: インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回: 実習 ・第15回: 事後指導／報告会のための学修 ・第16回: 活動報告会 【インターンシップについて】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり（今後の展望について自治体・住民等とも話し合い） ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します（詳細は受け入れ先と学生で調整）。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する（方法については追って指示）。 【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。 【活動場所・受け入れ先】 今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。 本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。			

また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

＜実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による＞
県内各企業、自治体、地域おこし協力隊など

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室、長尾研究室
その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef1 授業科目名 (時間割コード: 000808) 主題 Themes 地域をデザインする Design the region	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×4回程度+実習(22.5時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 自治体と連携し、地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践(地域をデザインする)するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標 1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 ＜講義＞ 第1回: ガイダンスおよび対象地域の活動内容の紹介 第2回, 3回: 対象地域についての学修 ・デザイン思考・フィールドワークの視点について プロジェクトを進めていくうえで必要なデザイン思考・フィールドワークの視点について学ぶ。 ・自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ・対象地域で活動および移住・起業している方からの講話 対象地域で活動および移住・起業している方を招き、きっかけや対象地域の魅力について学ぶ。 ・対象地域を研究対象としている方の講話 対象地域を研究対象としている方を招き、対象地域における課題や資源について学ぶ。 第7回: 活動報告会のための学修 活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。 ＜プロジェクト(実習)＞ 第4回～第6回 現地の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流、防災などの地域をデザインするための準備に取り組む。 ・フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りやアイデア出しおよびディスカッションを行う。 ・フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。（自学自習）

<活動報告会>

第8回：活動報告会

自治体職員・関係者を招いて活動報告会を行う。

<注意事項>

- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。
- ・参加費用（2万円程度）が別途必要となる。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

地域の概要にについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）
フィールドワークに関する予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）
フィールドワークで得た知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）
活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日4時限 幸町北キャンパス研究交流棟6階 神田研究室 長尾研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。
東京圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。
なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外での実習では、実務経験を有する外部講師による実習を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000809) 主題 Themes コミュニティデザイン入門 Introduction to Community Design	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト 地域インターンシップ 履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×5回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 コミュニティデザインの手法に関する基礎的な技法を学ぶ。学んだ技法を地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。 【授業計画】 ＜講義＞ ①ガイダンスおよびコミュニティデザインに関する事例紹介(1回) ②③コミュニティデザインに関する学修(2回) ②ワークショップ技法についてその1(ブレインストーミング、親和図法、シナリオグラフなど) ③ワークショップ技法についてその2(ワールドカフェ、マトリクス法など) ④⑤フィールドワークの仕方(2回) ④フィールドワークのために必要な基礎知識や道具について ⑤フィールドワークにおける技法について(参与観察、インタビュー) ＜プロジェクト(実習)＞ ⑥～⑮ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会などに参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ⑥⑦ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた情報収集・調査設計を行う。 ⑧⑨ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画づくりを行う。 ⑩⑪⑫⑬⑭⑮ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。 ※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。 実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることな			

どが求められる。
夏期休暇期間中も活動を行う。

＜活動報告会＞

⑩活動報告会(例年1月に実施しています)
活動報告会を行う。

＜注意事項＞

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

＜自学自習について＞

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

＜自学自習のためのアドバイス＞

自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階 長尾研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

NPO法人理事として地域活性化を担当。また自治体で総合戦略づくりなどに携わった経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000810) 主題 Themes コミュニティデザイン実習 Field Practice on Community Design	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 後期末5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ、コミュニティデザイン入門		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×4回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 コミュニティデザインの手法を用いて、自治体と連携し、地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々とは連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。 【授業計画】 ＜講義＞ ①ガイダンスおよびプロジェクト対象地域の活動内容の紹介(1回) ②③プロジェクト対象地域についての学修(2回) ②ワークショップ技法について プロジェクトを進めていくうえで必要なワークショップ技法について学ぶ。 ③自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ⑤活動報告会のための学修(1回) 主に活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。 ＜プロジェクト(実習)＞ ④～⑬ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会などに参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ④⑤⑥ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りを行う。 ⑦⑧ 情報発信の仕方について実践活動を行う。具体的には、フィールド実習で得た地域情報をどのように情報を加工して情報発信していくかを目的にミニ情報誌づくりやラジオ番組づくりについて学ぶ。 ⑨⑩⑪⑫⑬ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

<活動報告会>

⑩活動報告会（2023年2月を予定しています）

活動報告会を行う。

<注意事項>

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多いため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階 長尾研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

教員の実務経験との関連

NPO法人理事として地域活性化を担当。自治体で総合戦略づくりなどに携わった経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecxG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000811)	主題科目	前期金2	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecx	
瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 Setouchi Triennale and the Problems of Minorities	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク 90分×15回、フィールドワーク 30時間以上、自学自習（準備学習20時間＋事後学習20時間）			
授業の概要			
瀬戸内国際芸術祭の舞台になっている島のうち、マイノリティ問題と関連する島の過去と現在について調べます。つぎに、それらの島で瀬戸内国際芸術祭の作品や活動がどのように展開されているかをフィールドワークします。そのうえで、アートを介したマイノリティ問題の解決に向けた方法とその意義を考察します。			
授業の目的			
現代社会では、ヒト・モノ・カネ・情報等が国境を越えてグローバルに移動しています。しかし、排除や差別を伴った社会的分断も引き起こされています。そこでこの授業では、排除や差別の問題だけでなく、多様な人と人あるいは場所との共生のあり方を考察するための事例として、ハンセン病、出産、産業廃棄物等に関する問題について学びます。このようなマイノリティ問題を理解したうえで、それらの具体的な課題を発見し解決していくための、アートを介した方法とその意義を示すことができるようになることが、この授業の目的です。			
到達目標			
1. 瀬戸内国際芸術祭の舞台の中で、マイノリティ問題と関連する島の過去と現在について説明することができる（共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」と「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. マイノリティ問題を解決していくための、アートを介した方法とその意義を説明することができる（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
フィールドワーク場所に関する文献等での調査とフィールドノーツ 80%（到達目標1に対応）、発表10%（到達目標1と2に対応）、レポート 10%（到達目標1と2に対応）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 ガイダンス 第2回 地域社会とアートについて 第3回 フィールドワークについて 第4回 女木島の過去と現在を知る 第5回 フィールドワーク（女木島）のふりかえり 第6回 伊吹島の過去と現在を知る 第7回 フィールドワーク（伊吹島）のふりかえり 第8回 豊島の過去と現在を知る 第9回 フィールドワーク（豊島）の振り返り 第10回 大島の過去と現在を知る 第11回 フィールドワーク（大島）の振り返り 第12回 アートを介したマイノリティ問題の理解について 第13回 アートを介したマイノリティ問題の解決について 第14回 発表の準備 第15回 発表			
【授業の方法】			
第1回は講義、第2～14回は講義とグループワーク、第15回は発表です。第4回と第5回の間にフィールドワーク（女木島）、第6回と第7回の間にフィールドワーク（伊吹島）、第8回と第9回の間にフィールドワーク（豊島）、第10回と第11回はフィールドワーク（大島）を実施します。それぞれのフィールドワークに要する時間は1日ずつを予定しており、土曜日あるいは日曜日にフィールドワークを行う予定です。 この科目は基本的に対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1回 この授業に関するアンケートに回答してもらいます。 第2回 瀬戸内国際芸術祭に関する動画を視聴してください。地域社会で開催されている芸術祭のウェブサイト等を閲覧し、授業内容を復習してください。 第3回 フィールドワークの技法について、復習してください。 第4回 女木島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。 第5回 女木島に関するフィールドノーツを作成してください。			

第6回 伊吹島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第7回 伊吹島に関するフィールドノーツを作成してください。
第8回 豊島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第9回 豊島に関するフィールドノーツを作成してください。
第10回 大島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第11回 大島に関するフィールドノーツを作成してください。
第12～第14回 アートを介したマイノリティ問題の理解と解決に関する発表の準備をしてください。
第15回 他のグループの発表や発表に対する意見をもとにして、発表内容を改善しレポートにまとめてください。

瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーター「こえび隊」の活動に参加すれば加点します。

教科書・参考書等

参考書

岡原正幸編（2020）『アート・ライフ・社会学：エンパワーするアートベース・リサーチ』晃洋書房。
西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣。
他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 時間：水曜日12時～14時

場所：幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・フィールドワークを行うため、移動費や食費、瀬戸内国際芸術祭作品鑑賞代等が必要となります。
- ・フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（略称：「学研災」）」と「学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）」に加入してください。加入の方法などについては、初回のガイダンスでも説明します。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、フィールドワークに参加してください。具体的な対策については、授業でお伝えします。
- ・新型コロナウイルス感染症などの影響により、フィールドワークができなくなる島があるかもしれません。その場合は、フィールドワークの内容を変更する可能性があります。
- ・学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。
- ・科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000812)	主題科目	前期月5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:eca	
瀬戸内地域活性化プロジェクト Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目 地域インターンシップ、地域をデザインする		
原 直行, 長尾 敦史, 神田 亮, 大村 隆史	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的			
地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業およびフィールドワークへの参加時間(年間を通して)・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 この科目は全回対面授業を行います。			
＜授業＞ 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 第1回:ガイダンス(1回) 第2,3回:参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修 第4～13回:実習 第14,15回:活動報告会のための学修 第16回:活動報告会(報告会は、例年1月末)			
授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、主体的にプロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。			
＜プロジェクト＞【定員計100人】			
・まんのう町のひまわりプロジェクト【定員15人】 まんのう町ではひまわりで様々な取組をおこなっています。商品開発、情報発信や地域でのイベントなどを行いながら考えていきます。			
・丸亀市定住促進プロジェクト【定員15人】 シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。			
・観音寺市活性化プロジェクト【定員15人】 子育て支援施設や文化施設など地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。			
・東かがわ市定住促進プロジェクト【定員30人】 東かがわ市の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。			
・さぬき市活性化プロジェクト【定員15人】 さぬき市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組みづくりを行っていきます。			

- ・善通寺市活性化プロジェクト【定員10人】
善通寺市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協働できる仕組みづくりを行っていきます。
- ・新規自治体プロジェクト【定員 若干名】
新しい取組を行うプロジェクトです。自治体職員と議論しながら進めていきます。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合があります。

※各プロジェクト、連携しながら進めることがあります。

<注意事項>

- ・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）

プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは、自治体職員の方々と協働しながら進める。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000813)	主題科目	後期月5	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:eca	
瀬戸内地域活性化プロジェクト ロ Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 原 直行, 長尾 敦史, 神田 亮, 大 村 隆史	関連授業科目 地域インターンシップ、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的			
地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 この科目は全回対面授業を行います。			
＜授業＞ 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 第1回:ガイダンス(1回) 第2,3回:参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修 第4～13回:実習 第14,15回:活動報告会のための学修 第16回:活動報告会(報告会は、例年1月末)			
授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、主体的にプロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。			
＜プロジェクト＞【定員:若干名】			
・丸亀市定住促進プロジェクト シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。 ・観音寺市活性化プロジェクト 子育て支援施設や文化施設など地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。 ・東かがわ市定住促進プロジェクト 東かがわ市の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。 ・さぬき市活性化プロジェクト さぬき市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組みづくりを行っていきます。 ・善通寺市活性化プロジェクト 善通寺市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協働できる仕組みづくりを行っていきます。 ・まんのう町ひまわりプロジェクト			

まんのう町の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組み作りを行っていきます。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

＜注意事項＞

・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。

・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

＜自学自習について＞

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

＜自学自習のためのアドバイス＞

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）

プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは自治体職員の方々と協働で進める。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000814) 主題 Themes 地域での防犯を考える Crime Prevention Project	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期火2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
	担当教員名 大久保 智生, 西本 佳代	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 7回 + フィールドワークおよびそのまとめ90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 大学生が巻き込まれる犯罪や香川県で多い犯罪の防犯活動への参加を通して、効果的な防犯対策を考え、提案し、地域での防犯を実践的に学ぶ。具体的には、地域での危険箇所を点検するためのフィールドワークを行い、防犯マップを作成する。大学生が最も巻き込まれる自転車盗に関する駐輪場でのフィールドワークを行い、自転車盗の効果的な対策を考え、提案する。また、高齢者に関わる犯罪の効果的な対策を考え、提案する。			
授業の目的 地域での防犯活動に参加した上で、実施可能な防犯対策を提案し、効果的な地域での防犯活動を理解することを目的とする。さらに、授業終了時には、地域での防犯活動に関心（共通教育スタンダードにおける「地域に関する関心と理解力」に対応）を持ち、安全・安心な地域づくりを担う人材を養成することを目的とする。			
到達目標 地域での防犯活動に参加することにより、その価値や意義について説明できる 地域での防犯活動に参加することにより、その課題について、説明できる 地域での防犯活動に参加することにより、効果的な防犯対策を提案することできる			
成績評価の方法と基準 講義及びフィールドワークへの参加、レポートにより総合的に評価			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(1) ガイダンス (2) 香川県の犯罪情勢に関するゲスト講師講義: 警察による講義 (3) 駐輪場でのフィールドワーク (4) フィールドワークのまとめと自転車の窃盗対策の提案および専門機関からのコメント (5) 地域での防犯対策に関するゲスト講師講義: 防犯協会連合会、弁護士による講義 (6) 防犯マップ作成に関するゲスト講師講義: 防犯マップ作成を専門とした犯罪心理学者による講義 (7) 防犯マップ作成のための地域でのフィールドワーク (8) フィールドワークのまとめと防犯マップの提案および専門機関からのコメント (9) 店舗での犯罪対策に関する講義: 万引き防止専門家による講義 (10) 認知症サポーター養成講座: 高松市社会福祉協議会 (11) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (12) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (13) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (14) フィールドワークのまとめと高齢者の防犯対策の提案および専門機関からのコメント (15) 再犯防止に関するゲスト講師講義: 法務教官による講義 授業におけるフィールドワークの位置づけとしては、様々な活動を行っている専門家による講義を聴講した上で、フィールドワークを行うこととします。したがって、外部講師の講義を無断欠席した際には、フィールドワークの場に行けないことがあります。なお、フィールドワーク中の事故に備えるため、受講者は災害保険に必ず加入していただきます。			
教科書・参考書等 特になし。資料は適宜配布する。			
オフィスアワー 火曜日13:00～16:10 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室にて受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義を無断欠席すると、フィールドワークの場に行けないことがあるので、欠席の際は連絡をすること。フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」等の保険に加入しておくこと。			

ナンバリングコード B2THM-ecbG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000815) 主題 Themes 里海から地域の暮らしを考える Think about our Way of Life through Learning "Satoumi"	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 前期木1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
	担当教員名 大村 隆史	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし	
学習時間 講義90分×4回 + 演習90分×3回 + フィールドワーク (3～4時間)×5回 + 自学自習 (事前学習20時間+事後学習20時間)			
授業の概要 本授業は、香川県環境森林部環境管理課と連携して実施するもので、フィールドワークを主軸とした授業です。具体的には、「かがわ里海大学」という市民講座への参加を通じて、里海づくりに必要なスキルや知識を高めたり、里海への理解を深める機会を複数回設けています。 その他に、「海辺のおでかけマップ」という資料を参考にしながら、高松市内を中心とした身近な海辺の散策マップ作りを並行して行うことを計画しています。 近年の地球環境の保全をめぐる動向として、グローバルな問題をローカルな行動によって少しずつ解決していくとする態度の形成は重要です。本授業は、「里海」について知識がない学生も受講できるよう、授業の初回～3回までに事前の学習機会を設けるなどの機会を設けます。 香川県において里海を学び、フィールドで実際に体験し、それらを題材に未来への責任ある議論を行い、行動し、評価するという一連のプロセスを経験する機会を創出します。			
授業の目的 講義で基本的な知識を習得したうえで、フィールドワークで具体的な環境問題を把握し、座学と現象との結びつきについて認識することを目的とする。 また、ワークショップや演習を通じて課題解決に向けた具体的な方策を提案し、予測される成果と課題をまとめる力を身に付けることを目的とする。 さらに、授業終了時には、環境問題と地域の幅広い地域課題とのつながりを関連づけて考察できるようになることを目的とする。			
到達目標			
里海に関する環境保全の取り組みの価値や意義について簡潔に説明することができる (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 グローバルな環境問題の解決に向けたローカルな対応策について、3つ以上提案できる (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 環境問題と身近な地域の課題とを関連づけて、他者と議論することができる (共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業及びフィールドワークへの参加 (60%)、学習成果物の提出 (20%)、レポートの提出 (20%) について評価する。 なお、本授業は前期科目として開講しているが、後期の年明け頃まで活動を行うため、成績発表は年度末頃となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
●この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 (前期は木曜1限を基準に実施)			
第1回 ガイダンス・本授業の目的 第2回 「里海」の現状と課題を整理する 第3回 「海辺のおでかけマップ」の作成についての案内			
(以下は2021年度の授業スケジュールを参考に掲載しています。詳細が決定し次第、更新します。)			
第4～8回【FW】以下のものから3つ以上に参加すること。基本的には各回5名定員とする。 ☆5月8日(土) 13:30～16:30「ボードゲームから里海を考える講座」@香大幸町キャンパス ☆5月15日(土) 8:30～11:30「里海DEトレイルラン講座」@女木島 ☆5月29日(土) 13:00～16:00「森と海をつながり体験講座」@ドングリランド ★6月12, 13日 9:00～17:00「里海ガイド養成講座(入門)」@坂出市王越町ほか ★7月3日(土) 18:00～20:00「ウミホタル観察会を開くための講座」@大的場海岸、ヨット競技場 ☆7月10日(土) 16:00～18:00「海の生き物観察講座～磯の生き物編～」@津田公民館北山分館及び周辺海岸 ☆7月17日(土) 10:00～12:00「一から学ぶ海ごみ講座」@交流の里おうごし			

☆7月18日（日）18:30～20:30「ウミホテル観察講座」@観音寺港、観音寺西公民館
 ☆7月31日（土）18:30～20:30「ウミホテル観察講座」@志度働く婦人の家、その周辺
 ★9月4日（土）9:30～17:30「フィールドガイドのためのファシリテーション講座」@東かがわ市山田海岸
 ☆9月5日（日）14:00～16:00「『瀬戸内海国立公園』を知る講座」@香大幸町キャンパス
 ☆9月12日（日）14:00～16:00「かがわの里海 この人に聞きたい！」@香大幸町キャンパス
 ☆10月9日（土）13:00～16:00「川と海のつながり体験講座」@香大創造工学部キャンパス、御坊川

第9回 これまでの学習のまとめと振り返り

（後期は日程を受講者/チームで予定を合わせて行う）
 第10回 「海辺のおでかけマップ」のチーム分けとワークショップ、フィールドワーク
 第11回 「海辺のおでかけマップ」の草案の共有とブラッシュアップ
 第12回 「海辺のおでかけマップ」のお披露目会
 第13回 これまでのフィールドワークのまとめと振り返りレポートの作成
 第14回 一定の学習成果を整理し、香川県環境管理課等の関係者と共有する

※FWはフィールドワーク（現地実習）を指す。☆は無料講座、★は有料講座を指す。
 ※延期や定員の関係でFWに十分に参加できなかった場合は、第10回以降にFWへの参加が盛り込まれることがある。
 ※この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【授業及び学習の方法】
 Moodleに本授業のコースがあります。コース内の指示に従って学習を進めてください。
 授業は第1～3回に「里海」と関わるいくつかの視点を提示し、フィールドワークへの参加に向けて事前学習を行います。第4～8回に「かがわ里海大学」の市民講座へ参加します。第9回に振り返りとまとめを行い前期分の活動を修了します。第10回以降は後期に実施します。
 なお、毎授業の最後にはミニレポートをMoodle上で記入することとします。

【自学自習のためのアドバイス】
 本授業は、その大半が香川県内の「里海」をテーマとした学習活動によって構成されます。
 したがって、香川県内の地理に関する基礎的な知識が備わっていることで、その内容をより深く理解することができます。こうした学びの実現に向けて、香川県内の基礎的な地理情報や特徴などについて、地図帳や『香川県史』といった類の文献を通じて予習・復習を行うことが望ましいです。また、WSやFWへの参加をした際には、参加をした際に学んだことや感じたことをしっかりと記録しておくことが必要です。発表会や報告の機会に、体験した活動の内容を復習できるようにすることが望ましいです。

教科書・参考書等

特になし、資料は適宜配布する。

オフィスアワー 基本的には木曜日10:30から13:00までとする。
 質問等はメールにて事前連絡のうえ大村研究室（研究交流棟6階）にて随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 本授業の一部は、本学の時間割と必ずしも連動しておらず、学外での活動も多いため、受講の際にはあらかじめ日時をしっかりと確認しておく必要がある。また、テスト期間中に開講される授業以外は必ず参加することを受講の条件とする。
- 本授業のフィールドワークにかかる交通費はすべて自己負担となる。★の講座への参加費も自己負担となる。
 各講座の参加にかかる費用については、HP「かがわ里海大学」の「令和3年度「かがわ里海大学」前期講座」を参照すること。これらの点について同意したうえでの履修登録を推奨する。
- 公共交通機関でのアクセスが困難な会場での講座に関しては、担当教員による引率がある。その他の講座への参加については、各自で移動して受講をすることになる。
- 科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行う。
- 受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000901) 主題 Themes 地域課題発見・解決のための経済分析 Economics Approach to Regional Challenges	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
	担当教員名 長町 康平	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 この授業では、「移住・定住促進」「観光促進」「まちづくり」等のテーマに沿った地域課題を設定し、その解決策の立案に資する知見を得るための研究デザインについて経済学の観点から検討する。具体的には、テーマに沿って検討・設定した課題に対して経済学（特に、人々の意思決定）の観点から考察を加えて明らかにすべき事実や検証すべき仮説を整理した上で、それらの事実・仮説を解明・検証するための研究方法（データ収集や統計分析）について検討する。			
授業の目的 この授業の目的は、地域の課題から経済学的な問いを見つけ出し、それに回答を与えるための研究方法を検討する作業を通じて、地域課題に対する科学的アプローチのイメージをつかむことである。ビジネスや政策においてデータサイエンスに対するニーズが高まっていることから、地域課題に対する科学的アプローチの方法やその可能性と限界を理解することは有益であり、この授業は経済学の例を扱うものである。			
到達目標 1. 人々の意思決定を扱うための経済学の分析道具を理解する。 2. 地域課題の中から人々の意思決定に関する問い（解明すべき事実や検証すべき仮説）を導き出す。 3. 上記の問いに回答を与えるための研究方法（データ収集・統計分析の内容）を設定する。 いずれも共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 授業に5回以上出席している受講生を対象に、次のウェイトで評価する。 授業中の貢献（発言内容・頻度、グループ・ワークでの作業等）20%、宿題40%（宿題1:10%、宿題2:15%、宿題3:15%）、小テスト10%（2回、各5%）、期末課題30%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 実践: 地域課題の検討 3. 理論: 意思決定問題の定式化 4. 実践: 地域課題の再考 5. 理論: 因果推論 6. 理論: 回帰分析 7. 理論: 二項選択モデル 8. 実践: 調査・分析方法の検討			
受講生の関心や授業の進捗状況に応じて授業計画を変更する場合がある。			
【授業及び学習の方法】 この授業はすべての回で対面実施を予定している（ただし、状況に応じて遠隔授業を行う可能性がある）。 「理論」の解説は講義形式で行うが、それ以外は受講生と共に議論・検討していく。必要に応じて、グループワークやグループ単位での課題提出を求める場合がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回: 宿題1に取り組み、授業に備える。 第3回: 講義スライド（必要に応じて参考書1）を使って授業内容について予習・復習する。また、小テスト1を使って学習の理解度を確認する。 第4回: 第2-3回の内容について復習した上で宿題2に取り組み、授業に備える。 第5-7回: 講義スライド（必要に応じて参考書2-3）を使って授業内容について予習・復習する。また、一部の内容について、小テスト2を使って学習の理解度を確認する。 第8回: 第2-7回の内容について復習した上で宿題3に取り組み、授業に備える。授業後は授業内容を振り返った上で、研究計画（明らかにすべきことやそのための方法）をスライド資料として整理する（期末課題）。			
教科書・参考書等 教科書はない。参考書として以下を挙げておく。			

1. P. クルーグマン・R. ウェルズ (2017)『クルーグマン ミクロ経済学 (第2版)』東洋経済新報社
2. 中室牧子・津川友介 (2017)『「原因と結果」の経済学 - データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
3. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮 (2019)『計量経済学』有斐閣

1. は経済学の中のミクロ経済学と呼ばれる分野のテキスト, 2. は因果推論についての一般書, 3. は計量経済学 (統計学の経済分析への応用) のテキストである.

オフィスアワー 木曜の14:30から16:00まで (ただし, 祝日を除く). 場所は幸町南4号館3階長町研究室 (研究室引越しの可能性があり, その場合は授業内で連絡).

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業では経済学と統計学の分析道具を用いますが, 必要な場合を除いてテクニカルな内容を排し, 分析のアイデアを直感的に理解・応用できるように努めます. そのため, 経済学と統計学を学んだ経験がなくても受講上は問題ありません. ただし, 記号やグラフ (と少しの数式) を用いる点にはご注意ください. なお, この授業は社会的な課題に対して経済学と統計学を組み合わせた科学的アプローチで接近する一例を紹介するものであり, 経済学と統計学のトピックを網羅的に扱うわけではない点にもご注意ください. この授業が受講者の経済学や統計学, 地域課題への科学的アプローチに対する興味を引き出し, より進んだ学習の動機付けになれば幸いです.

なお, 本授業の内容は, 令和3年度開講の「地域課題発見・解決のための経済分析A」と内容が重複するため, 令和3年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません.

ナンバリングコード B2THM-ceaG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000902) 主題 Themes 知プラe科目 データ利活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり Data driven and Open innovative solutions for future community creation	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cea	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 米谷 雄介	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 データ活用 スマートシティは新たなまちづくりのモデルである。従来のインフラ中心からICT・IoTに基づくデータ利活用中心、言い換えるとハードウェア／サプライヤ中心からソフトウェア／ユーザ中心のまちづくりへの転換である。この新たなまちづくりのモデルの特徴は、異業種・異分野の協働を基本(分野横断型)とし、社会課題の解決を中心に据え(課題解決型)、サービスの利用実績によりサービスは進化していき(進化型)、そして自分たちの使う公共サービスは自分たちで創るというDIY思想(市民中心設計)となっている。近年様々な基礎自治体においてスマートシティに向けた動きがあるが、スマートシティの推進を担う人材の育成が課題となっている。そこで、本授業は、スマートシティの推進に必要な素養の獲得を支援する。受講者は、データ利活用技術やオープンイノベーションの考え方を知り、活用することを経験する。香川におけるケーススタディを通じて自分たちの地域のあり方を見直し、地域の課題解決に資するデータ利活用サービスを考案する態度を獲得する。			
授業の目的			
本授業の目的は、スマートシティを担う人材に必要とされるデータ利活用技術およびオープンイノベーションの考え方を理解し、体得することを目的とする。			
到達目標			
以下の知識を説明できる。 1. スマートシティとは何であり、なぜ必要であるか？(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. オープンイノベーションとは何であり、なぜ必要であるか？(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 以下の行動ができる。 1. 香川大学が開発した ICT・IoT ツールを用いてデータ利活用サービスのプロトタイプを作成できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 異業種・異分野の他者とのアイデア交換を通じて自分なりにデータ利活用サービスを考案できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 地域のニーズを理解し、本当に必要とするサービスを考案できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
1～6回の小レポート(70点)と7回～8回の期末レポート(30点)により評価し、合計60点以上を合格とします。なお、小レポートを未提出の場合は、期末レポートの提出資格を与えません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、開発環境の準備(クラウド開発環境、APIの理解) 第2回 オープンデータの可視化、APIインテグレーション 第3回 移動体データの可視化 第4回 物理センサーデータの可視化 第5回 AIカメラ・センサーデータの可視化 第6回 IoT(Internet of Things)の構築 第7回 オープンイノベーションとデータ利活用サービスデザイン 第8回 期末レポート(アイデアソン)			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自主学習のためのアドバイス】

■ 第1回 ガイダンス、開発環境の準備(クラウド開発環境、APIの理解)

準備学習(1時間) : シラバスに登場する専門用語を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従いクラウド開発環境を準備する

第2回 オープンデータの可視化、APIインテグレーション

準備学習(2時間) : オープンデータ、APIの目的や具体例を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従いオープンデータを可視化する

第3回 移動体データの可視化

準備学習(2時間) : Mobility as a Serviceなど移動体データを利用したサービスを調べる、事後学習(2時間) : 授業に従い、移動体データを可視化する

第4回 物理センサーデータの可視化

準備学習(2時間) : 温度センサー、光センサーなどセンサーの具体的な活用例を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従い、センサーに遠隔からアクセスしてみる

第5回 AIカメラ・センサーデータの可視化

準備学習(2時間) : AIカメラセンサーの具体的な活用例を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従い、センサーに遠隔からアクセスしてみる

第6回 IoT(Internet of Things)の構築

準備学習(2時間) : IoTの具体的な活用事例を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従い、IoTを構築してみる

第7回 オープンイノベーションとデータ利活用サービスデザイン

準備学習(2時間) : オープンイノベーションやサービスデザインという用語を調べる、事後学習(2時間) : 授業に従い、これまでのデータ収集／可視化手段を振り返り、サービスのアイデアを考える

第8回 期末レポート(アイデアソン)

準備学習(2時間) : サービスのアイデアをレポートの形にまとめる、事後学習(1時間) : これまでの授業を振り返り、自分の関心のある地域課題について考え、今後受講する授業を決める

教科書・参考書等

指定教科書はありません。

適宜PDF等で資料を配布します。

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し、随時問い合わせてください。

連絡先 : kometani.yusuke@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject_kagawa.html#subject_kagawaにある「香川大学のLMSへ移動」ボタンから辿ることができます。

大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ) ウェブサイト

<https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教員の実務経験との関連

本科目は、データ利活用プラットフォームやデータ可視化技術に係る実務経験を有する教員が、専門分野の知見を活用した講義コンテンツを使用して実践的教育を実施するものである。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000903) 主題 Themes 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理 Disaster mitigation and crisis management using data science	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2022年度 3Q集中 提供部局: 大教センター DPコード: cxx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 野々村 敦子, 金田 義行, 寺尾 徹, 梶谷 義雄	関連授業科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション、災害とデータサイエンス 履修推奨科目 情報リテラシーB		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 【キーワード】 データサイエンス、防災・減災、危機管理 日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けている。環境変化により従来にない大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大している。いま、自然・人為的な災害に対応可能なレジリエント（しなやか）な社会の構築が求められている。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について学ぶ。			
授業の目的 レジリエント（しなやか）な社会の構築に向け、防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を学び、さらに、データサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標 1. レジリエント（しなやか）な社会とは何かを説明できる。 2. 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。 3. 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。 (全て共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 コメントシート50点(到達目標1、2、3に対応) + 小テスト50点(到達目標1、2、3に対応) により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 強非線形現象に対する推移予測研究の試み(金田義行) 第2週 地球温暖化にともなう気候変動を検出する(寺尾徹) 第3週 気候モデルによる気候変動予測(寺尾徹) 第4週 移動体・画像解析技術による災害復旧過程の分析(梶谷義雄) 第5週 流量予測への深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価(梶谷義雄) 第6週 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 基礎編～(野々村敦子) 第7週 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 実践編～(野々村敦子) 第8週 まとめ 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 また、科目によって受講制限をかける場合がある。 なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別に e-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している 香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。 期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Le1	科目区分	時間割 2022年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000904)	主題科目	3Q集中	
主題 Themes	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	分野 主題	DPコード: cbd	特定プログラムとの対応
Building a resilience society and computer simulation	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
	e ラーニング		
担当教員名	関連授業科目	知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理, 知プラe科目 災害とデータサイエンス	
吉田 秀典, 岡崎 慎一郎, 宮本 慎宏, 地元 孝輔	履修推奨科目	情報リテラシーB	
学習時間	授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)		
授業の概要			
【キーワード】 データサイエンス、レジリエンス、コンピューターシミュレーション			
コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論・システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術である。今日では、製造業における工業製品の設計や新規材料の開発、自然現象の解明による災害対策、社会インフラ整備のための構造物設計・安全評価、金融・ビジネスにおけるマーケティングなど多様な分野において欠かすことができない。とりわけ、ビッグデータとAIなどの数理技術との融合により、製品の設計・製造プロセスの最適化、公共インフラの維持と保安水準の向上、津波・地震等の災害予測精度の向上、安価かつ環境性の高い電力・エネルギー製造と供給、テラーメイド医療・予防サービス普及による医療費削減など、幅広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要性和必要不可欠であることを学ぶ。			
授業の目的			
レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標			
1. レジリエントな（強靱化）社会とは何かを説明できる。 2. レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。 3. コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」・「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
コメントシート50点（到達目標1、2、3に対応）＋小テスト50点（到達目標1、2、3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 AI等を用いた社会インフラのヘルスチェック（岡崎慎一郎） 第2週 大規模シミュレーションが可能とする社会インフラの長寿命化（岡崎慎一郎） 第3週 振動シミュレーションに基づく建築物の安全性評価（宮本慎宏） 第4週 地盤モデルを用いた地盤震動シミュレーション（地元孝輔） 第5週 震源モデルを用いた強震動シミュレーション（地元孝輔） 第6週 都市モデルを活用した高潮／津波／ため池氾濫シミュレーション（吉田秀典） 第7週 都市モデルを活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討（吉田秀典） 第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。			
【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 また、 科目によって受講制限をかける場合がある。 なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別に e-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している 香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。			

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000905) 主題 Themes 知プラe科目 災害とデータサイエンス Disaster and Data Science	科目区分 主題科目 水準 学士: 基礎科目 分野 主題 授業形態 講義 e ラーニング	時間割 2022年度 3Q集中 提供部局: 大教センター DPコード: cxx 単位数 1	対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 石塚 正秀, 白木 渡, 磯打 千雅子, 竹之内 健介	関連授業科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理、レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション 履修推奨科目 情報リテラシーB		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 【キーワード】 データサイエンス、災害、防災・減災 防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前（災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前）と災害後（直後、そしてライフライン復旧が求められる事後）という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気象データなどは、雨量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛星から、可視光線、赤外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されている。このようにローカルからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成され、防災や減災に役立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、そして現場周辺のユーザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの活用によって、国や自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について学ぶ。			
授業の目的 レジリエントな（強靱化）社会構築において重要なデータ（常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等）の収集・活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標 1. 災害前と災害後におけるデータの活用の違いが何かを説明できる。 2. 災害前におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 3. 災害後におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 (全て共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 コメントシート50点（到達目標1、2、3に対応）+小テスト50点（到達目標1、2、3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 ビッグデータでみる地球環境（石塚正秀） 第2週 ビッグデータでみるWater Risk（石塚正秀） 第3週 オープンデータから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用（磯打千雅子） 第4週 リスクコミュニケーションとデータサイエンス（竹之内健介） 第5週 ローカルデータとデータサイエンス（竹之内健介） 第6週 自助・共助・公助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス（白木渡） 第7週 リスクマインドと心のレジリエンス（白木渡） 第8週 まとめ 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、災害時に活用できる重要なデータ（常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等）の活用方法、地域の安全・安心への貢献度や重要性等について、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 また、科目によって受講制限をかける場合がある。 なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している			

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。
期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2時限目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000700)	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 2Q集中	対象年次 1～4
主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies(Basic knowledge)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード: ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
地域と香川大学 I Study on Areas we live in and Kagawa University	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎, 林 敏浩	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 e-Learning による学修と自学学修の計約6時間 × 8回 = 45時間以上			
授業の概要 本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。			
授業の目的 地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。			
到達目標 本授業は共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応しており、以下のような到達目標を設定している。 1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。			
成績評価の方法と基準 成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終課題は、書式の定められたレポートによって可否を判定する。）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 オリエンテーション回: 本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①: 本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②: 本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①: 地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②: 地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③: 地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④: 地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤: 地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学修への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C—講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。			
【授業及び学修の方法】 授業は動画を視聴する形態（eラーニング）となっています。各回の総視聴時間は概ね90分を目安に作成されていますが、動画は内容によって分割しているため長短に差があります。自学自修を合わせた、平均約6時間を各回の学修時間と考えてください。計画的に映像視聴を進めて下さい。各回には小テストを課しますので、視聴が終わったら、必ず受験して下さい。全ての授業を受講した後に、課題レポートに取り組んで下さい。			

【自学自修のためのアドバイス】

第1回 香川大学の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「大学憲章」や「学生憲章」等に触れ、再度確認しておく。(3時間)

第2回 それぞれ所属する学部の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「ディプロマポリシー」や「カリキュラムポリシー」等に触れ、再度確認をしておく。(5時間)

第3、4回 香川県の概要を知るために、香川県並びに県内市町の総合振興計画等に目を通し、香川県の特色や課題について理解しておく。授業後に、歴史や文化芸能、伝統産業、遺跡・遺産等について、また現在の産業や観光、福祉、教育等について、興味関心に基づき調べ学修をしておく。(6時間)

第5回 大学卒業後の就職を見据えて、まずは香川県の就業環境について調べておく。自分自身のキャリアを意識しつつ、関連業種について調べるとよい。授業後に、不明な点や疑問に思った点などがあれば、キャリア支援センターや図書館等で資料にあたったり、就活中の先輩に話を聞いたり、かがわ若者サポートステーション等に足を運んだりすることを勧める。(8時間)

第6回 香川大学ではフィールドワーク科目の拡充に努めている。全学共通科目では主題C、各学部の専門科目の中にも現場で学ぶ機会が準備されている。まずは、シラバス等を調べることで理解を深め、受講している学生や担当教員等へ質問するなど情報収集を行う。(3時間)

第7回 香川県の地域課題にはどのようなものがあるのかを調べておく。それらの課題の中には、香川大学を中心にすでに取組が行われているものがある。その内容について、インターネット等で検索して情報収集を行う。(2時間)

第8回 課題レポートの作成を行う。(3時間)

教科書・参考書等

LMS(学修管理システム: Learning Management System)で紹介する。

オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000701) 主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies(Basic knowledge) 地域と香川大学 ♪ Study on Areas we live in and Kagawa University	科目区分 主題科目	時間割 2022年度 4Q集中	対象年次 1～4
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード: ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎, 林 敏浩	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 e-Learning による学修と自学学修の計約6時間 × 8回 = 45時間以上			
授業の概要			
本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。			
授業の目的			
地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。			
到達目標			
本授業は共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応しており、以下のような到達目標を設定している。 1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。			
成績評価の方法と基準			
成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終課題は、書式の定められたレポートによって可否を判定する。）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 オリエンテーション回: 本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①: 本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②: 本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①: 地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②: 地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③: 地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④: 地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤: 地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学修への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C一講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。			
【授業及び学修の方法】 授業は動画を視聴する形態（eラーニング）となっています。各回の総視聴時間は概ね90分を目安に作成されていますが、動画は内容によって分割しているため長短に差があります。自学自修を合わせた、平均約6時間を各回の学修時間と考えてください。計画的に映像視聴を進めて下さい。各回には小テストを課しますので、視聴が終わったら、必ず受験して下さい。全ての授業を受講した後に、課題レポートに取り組んで下さい。			

【自学自修のためのアドバイス】

第1回 香川大学の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「大学憲章」や「学生憲章」等に触れ、再度確認しておく。(3時間)

第2回 それぞれ所属する学部の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「ディプロマポリシー」や「カリキュラムポリシー」等に触れ、再度確認をしておく。(5時間)

第3、4回 香川県の概要を知るために、香川県並びに県内市町の総合振興計画等に目を通し、香川県の特色や課題について理解しておく。授業後に、歴史や文化芸能、伝統産業、遺跡・遺産等について、また現在の産業や観光、福祉、教育等について、興味関心に基づき調べ学修をしておく。(6時間)

第5回 大学卒業後の就職を見据えて、まずは香川県の就業環境について調べておく。自分自身のキャリアを意識しつつ、関連業種について調べるとよい。授業後に、不明な点や疑問に思った点などがあれば、キャリア支援センターや図書館等で資料にあたったり、就活中の先輩に話を聞いたり、かがわ若者サポートステーション等に足を運んだりすることを勧める。(8時間)

第6回 香川大学ではフィールドワーク科目の拡充に努めている。全学共通科目では主題C、各学部の専門科目の中にも現場で学ぶ機会が準備されている。まずは、シラバス等を調べることで理解を深め、受講している学生や担当教員等へ質問するなど情報収集を行う。(3時間)

第7回 香川県の地域課題にはどのようなものがあるのかを調べておく。それらの課題の中には、香川大学を中心にすでに取組が行われているものがある。その内容について、インターネット等で検索して情報収集を行う。(2時間)

第8回 課題レポートの作成を行う。(3時間)

教科書・参考書等

LMS(学修管理システム: Learning Management System)で紹介する。

オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。